

建学の精神

(学長 福井 一光)

<単位数> 1単位

<開講学科> 短期大学部 初等教育学科

<開講学年> 1年

<開講学期> 春セメスター

<授業概要>

鎌倉女子大学は、私学らしい私学の伝統を継承していきたいと考えています。誇り高い私学には偉大な創設者がいて、私学に学ぶ最も重要な意味は、創設者が如何なる人づくりを願ってその学園を創造し、そこに学ぶ学生諸君に何を期待し続けたのかという固有の想いを理解することにあります。

この授業は、学祖・松本生太先生によって指し示された鎌倉女子大学の「建学の精神」、とりわけ「教育の理念・教育の内容・実際の活動」についての理解を深めながら、教える者も教えられる者も、学祖が願われたことをお互いに体得していくことを基本的な姿勢にしたいと思います。

<到達目標>

本学の建学の精神は、本学固有の建学の精神であると同時に、独り本学のみならず妥当する教育についての考え方ではありません。それは、古今東西の教育の精神に適った普遍的広がりをもったものです。従って、この授業は、学生一人ひとりが、それぞれの学部・学科教育の基礎をなす、単に学士力の形成というだけに止まらない、人間としてのジェネリックな識見を涵養していくための手がかりを与えることを最大の目標におきたいと思えます。

<授業内容・方法>

学祖の残された言葉を手掛かりに、これを出来るだけ古今東西の教育思想と関連づけながら、この授業を展開していく予定です。実践篇を含め、全7回にわたって行われ、各回のテーマは、以下の通りです。

第1週 創設者と歴史：学祖・松本生太先生の生涯と鎌倉女子大学の歴史

第2週 教育の理念：感謝と奉仕に生きる人づくり

第3週 教育の目標：科学的教養の育成と優雅な性情の涵養

第4週 教育の姿勢：人・物・時を大切に

第5週 教育の方法：ぞうきんと辞書をもって学ぶ

第6週 教育の体系：徳育・知育・体育の三位一体の調和

第7週 実践の一例：労作的体験（汗や土にまみれてもよい労作着を着用のこと。

また、各自の判断で帽子や軍手を持参すること。）

第8週 定期試験（60分）

<準備・発展学習>

準備学習としては、a. シラバスに記載されている各回のテーマと対応する教科書の章節を予め読んでおくこと。復習としては、a. 授業中扱われた教科書のページ及びノートを読み返すこと、b. ノートに自分の感想・解釈を記入すること、c. 授業内容について同じクラスの友人とディスカッションをしてみることに。

<成績評価>

a. 毎回の出席（通常の授業とは異なり、試験日を除くと、全7回の授業になります。従って、1回の欠席が欠席率を高めることになるので、受験資格を失わないよう十分出席に心掛けるように。これと同時に、出席を重視する理由は、授業内容を単なる情報として覚えるというのではなく、教室に身をおいて毎回のテーマをその都度よく熟慮し反芻して見ることが大切と考えるからです。）、b. 授業への積極的参加、c. 自分で感じ考えぬいた個性的な答案を重視します。

<教科書>

福井一光著『知と心の教育 ー鎌倉女子大学「建学の精神」の話』（北樹出版）

<備考>

模範的な答案は、本学の機関誌『緑苑』に掲載する予定です。

初等教育学科

科目名	哲学
単位数	2単位
担当教員	福田喜一郎
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	「人間はいかに生きるべきか」という基本的な問いを、自己実現、特定の他者との関係、共同体の形成、究極根拠、他者という謎、という諸局面に即して考察します。取り扱う主な哲学者は、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、デカルト、カント、ハイデガーです。
到達目標	1. 哲学的思考を訓練して、問題を原理的に考えるようになること。 2. 他者との関係および共同体の形成に積極的に参加するようになる。 3. 人生を積極的に生きてゆくことができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 万物の根源への問い【講義】</p> <p>第2週 反駁的対話の実際【講義・演習】</p> <p>第3週 魂の活動としての自己実現【講義・演習】</p> <p>第4週 特定の他者との友愛関係【講義・演習】</p> <p>第5週 哲学者が国王になるというユートピア思想【講義・演習】</p> <p>第6週 デモクラシーを成立させる基盤【講義・演習】</p> <p>第7週 アリストテレスの政治思想の基本的原理【講義・演習】</p> <p>第8週 授業内試験（中間試験）＋正義論の原型【講義・演習】</p> <p>第9週 交換的正義【講義・演習】</p> <p>第10週 配分的正義【講義・演習】</p> <p>第11週 「わたしは考える」（デカルト的自我）【講義・演習】</p> <p>第12週 形而上学と自然学【講義・演習】</p> <p>第13週 知識を超えたところに現れる他者の問題【講義・演習】</p> <p>第14週 人間の苦しみに意味があるのかという問題【講義・演習】</p> <p>第15週 現代の正義論【講義・演習】</p> <p>定期試験等 筆記試験（60分）</p>
準備・発展学習	毎回配布されるプリントを読み、発言内容をあらかじめミニットペーパーに記述する。
成績評価	筆記試験70%・受講態度（発言回数）20%・発表10%
教科書	岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波書店、2008年
備考	

科目名	心理学
単位数	2単位
担当教員	越智幸一
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	心理学は、小さな子どもからお年寄りまで幅広い年代を対象とし、様々な角度から光を当て、人間の心を明らかにする学問です。心理学の知見に接すると、あらためて人間の心の多様性を考えさせられます。この授業では、このように奥深く、かつ興味深い心理学という学問からいろいろなテーマを取り上げて紹介していきます。
到達目標	1. 心理学的な考え方、方法を身につけている。2. 自分自身について心理学の観点から内省できる。3. 自分と他人との関係性について理解できる。
授業内容・方法	<p>第1週 心理学の歴史と方法論【講義】</p> <p>第2週 知覚の仕組みと日常生活【講義・演習】</p> <p>第3週 記憶過程・記憶の種類【講義・演習】</p> <p>第4週 ミスを減らすには？（ヒューマンエラーの話）【講義・演習】</p> <p>第5週 ジョハリの窓（気づいている自分、気づいていない自分）【講義・演習】</p> <p>第6週 性格の理論と性格検査【講義・演習】</p> <p>第7週 対人関係をふりかえる（対人地図、対人態度）【講義・演習】</p> <p>第8週 対人特性について【講義・演習】</p> <p>第9週 好きと嫌いの心理学【講義・演習】</p> <p>第10週 自己主張について（アサーティブな自己表現とは）【講義・演習】</p> <p>第11週 交流分析（自我状態を調べる）【講義・演習】</p> <p>第12週 好ましいコミュニケーションとは？【講義・演習】</p> <p>第13週 カウンセリングマインドの話【講義・演習】</p> <p>第14週 カウンセリングの技法について【講義・演習】</p> <p>第15週 ストレスにうまく対処するにはどうするか？【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	事前に各週のテーマに沿って、自分自身のことを内省しておくこと・毎回の講義終了時に提示する復習課題を期限までに提出。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	教科書は使用しない。
備考	

科目名	書道
単位数	2単位
担当教員	杉山勇人
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭, ○保育士
授業概要	自己を投影する手書き文字の個性は、情報社会の中でかえって見直されつつある。文字を手で書くことは、すべての表現活動の基礎なのである。本授業では、古典臨書によって東アジアの漢字文化に触れつつ、毛筆技能の向上を目指す。また、コミュニケーションスキルとしての文字の美しさを磨くため、硬筆書写・実用書式の技能の向上を図る。
到達目標	1. 硬筆・毛筆の書写技能の基礎を習得する。 2. 日本・中国の文字文化について説明できるようになる。 3. 実用書式(手紙・はがきなど)を理解し、社会生活に応用できる。
授業内容・方法	<p>第1週 書くという行為、文字言語について、書道用具・用材の説明【講義】</p> <p>第2週 硬筆の歴史、ひらがな・漢字の基本字形(硬筆)【講義・実技】</p> <p>第3週 筆順テスト、行間・字間の整え方(硬筆)【講義・実技】</p> <p>第4週 国語科書写と芸術科書道、楷書の基本点画【講義・実技】</p> <p>第5週 毛筆書写の評価について、字形・配列の整え方【講義・実技】</p> <p>第6週 毛筆書写教材の制作【実技】</p> <p>第7週 漢字書体の変遷(殷～漢代まで)、臨書「泰山刻石」「曹全碑」【講義・実技】</p> <p>第8週 漢字書体の変遷(楷書体の成立)、臨書「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」【講義・実技】</p> <p>第9週 書聖・王羲之：臨書「蘭亭序」【講義・実技】</p> <p>第10週 和様漢字の生成：臨書「白楽天詩巻」【講義・実技】</p> <p>第11週 仮名の成立と発達：ひらがな単体、臨書「粘葉本倭漢朗詠集」【講義・実技】</p> <p>第12週 仮名の様式美：変体仮名、臨書「高野切古今集」【講義・実技】</p> <p>第13週 創作作品制作：色紙・短冊作品の制作【実技】</p> <p>第14週 冠婚葬祭の書式、熨斗袋・芳名録(毛筆細字)【講義・実技】</p> <p>第15週 手紙・はがきの書式について、履歴書の書き方(硬筆)【講義・実技】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	日常的に文字の筆順、筆記具の持ち方に注意を払うこと。毎回の授業で成果物提出を課すので、毛筆については自主的に練習することが望ましい。
成績評価	成果物提出60%、受講状況40%
教科書	教科書は使用しない。
備考	各自、毛筆用具・用材の準備が必要である。詳細は初回授業時に説明する。

科目名	日本人の心
単位数	2単位
担当教員	竹内整一
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	寺田寅彦は「地震の多い日本は吊り橋の上にあるようなものだ」と言っているが、同時に、そうした自然のうちに、独自のすぐれた人生観や世界観が形作られてきたとも指摘している。震災後の今あらためて、このクライシス（危機、転機）に立ち向かうためにも、日本人のものの考え方・感じ方についてじっくり考えてみたいと思う。
到達目標	1 ふだんあまり気にしてこなかった日本人の考え方・感じ方を理解する。 2 日本人の宗教観・倫理観・美意識・死生観などについて考える。 3 世界の中での日本人の思想の可能性について考える。
授業内容・方法	<p>第1週 なぜわれわれは「～することになった」という言い方をするのか？ 日本人の発想の原型</p> <p>第2週 われわれは何を信じて手を合わせているのか（初詣・お盆など）？ 日本人の宗教観</p> <p>第3週 罪は水に流すことができるか？ 日本人の倫理観</p> <p>第4週 何がどうあることが恥ずかしいのか？ 「恥の文化」再考</p> <p>第5週 この世は「浅い夢」なのか？ 「いろは歌」の思想</p> <p>第6週 「秘すれば花なり」とはどのような美しさか？ 日本人の美意識</p> <p>第7週 「恋の至極（最高のあり方）は忍恋」とはどのような考え方か？ 日本人の武士道</p> <p>第8週 「悪人こそが救われる」とはどのようなことか？ 親鸞の思想</p> <p>第9週 坐禅をすればどうなるのか？「南無妙法蓮華経」の意味？ 道元・日蓮の思想</p> <p>第10週 「維新」とはどのような意味か？ 明治維新の思想</p> <p>第11週 「どうして僕はこんなに悲しいのだろう」 宮沢賢治の思想</p> <p>第12週 「たましい」のゆくえ 日本人の死生観</p> <p>第13週 「甘え」「自己責任」は外国語には訳せない日本語である 日本人の自己認識</p> <p>第14週 グローバリズムと「日本人の心」 世界の中の日本思想の意味</p> <p>第15週 「日本人の心」のまとめ</p> <p>定期試験等 (試験は実施しない)</p>
準備・発展学習	
成績評価	受講状況50%、課題提出50%
教科書	なし
備考	

科目名	生物学の基礎
単位数	2単位
担当教員	早石周平
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	専門科目を効果的に学習する上で基礎となる生物学に関する知識を学び、「生物としてのヒト」観を養う。とくに進化学と生態学の観点から、私たち一人ひとりが生物としてどのように行動するか、生態系の一員としてどのような役割を担っているかを考え、人類の未来について考える。
到達目標	1. 遺伝子、ゲノム、進化など、基礎的な生物学用語を正しく運用できる。 2. ヒトの生物学的基盤や進化史について科学的な事実を説明できる。 3. 現代の地球上におけるヒトの生態的地位について論じることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 生物とは何か、生物学は何を学ぶ学問か？【講義】</p> <p>第2週 生物進化とは何か？【講義】</p> <p>第3週 地球の誕生と生命の誕生【講義】</p> <p>第4週 性の進化と性による進化【講義】</p> <p>第5週 ヒトの進化学【講義】</p> <p>第6週 ヒトの生態学【講義】</p> <p>第7週 社会の生物学【講義】</p> <p>第8週 利他行動の進化【講義】</p> <p>第9週 性と生殖の生物学【講義】</p> <p>第10週 光合成する生物の誕生と地球環境の変化【講義】</p> <p>第11週 生物にとって陸上はどんな環境か【講義】</p> <p>第12週 細胞の構造と機能【講義】</p> <p>第13週 配偶子形成と遺伝の仕組み【講義】</p> <p>第14週 遺伝子・ゲノム・変異【講義】</p> <p>第15週 21世紀の生物学と社会【講義・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	授業で紹介する関連図書を読み、課題レポートに取り組むこと。
成績評価	授業内試験40%、課題提出30%、グループワーク10%、受講状況20%
教科書	教科書は使用しない。
備考	授業ではグループワークなどの協同学習を行うので、積極的に参加すること。提出日の欠席により課題提出が遅れる場合、事前に受け付けます。

科目名	スポーツ実技（水泳）
単位数	1単位
担当教員	榎本至・川上哲
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年・2年
開講学期	春semester集中講義
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭，◇幼稚園教諭，○保育士
授業概要	土曜日に岩瀬キャンパスにて実施（180分授業×8日）。近代4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）を合理的なフォームで泳ぐ技術の獲得、及びクロールもしくは平泳ぎで長距離をリラックスして泳ぎ続ける能力の獲得を目的として、毎回、教室での講義と屋内温水プールでの実技を行う。
到達目標	1. 講義では、水泳・水中運動を生理学、力学、及び方法学の観点から多面的かつ総合的に理解できるようになる。 2. 実技では、生涯長くに渡り水泳に親しむための、合理的な練習方法を数多く習得できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 人体の浮力の特徴、浮力を獲得する手法の実践【講義・実技】</p> <p>第2週 陸上と水中の呼吸メカニズム、水辺活動における呼吸法の実践【講義・実技】</p> <p>第3週 水抵抗のメカニズムと水泳への応用、クロールの泳法練習【講義・実技】</p> <p>第4週 水中における推進力の獲得とその特徴、背泳の泳法練習【講義・実技】</p> <p>第5週 水泳時の運動量の定量方法、平泳ぎの泳法練習【講義・実技】</p> <p>第6週 クロールと背泳の動作メカニズム、バタフライの泳法練習【講義・実技】</p> <p>第7週 平泳ぎとバタフライの動作メカニズム、長時間泳の練習【講義・実技】</p> <p>第8週 力学と生理学からみた水泳運動の理解、運動フォームの洗練化【テスト・実技】</p>
定期試験等	定期試験は実施せず
準備・発展学習	授業で紹介した参考文献等を用い、授業において学習した実技内容を理論的に復習し、技術構造についての実践的な理解を深める。
成績評価	受講状況70%、授業内試験30%
教科書	教科書なし
備考	泳能力別にグループ分けを行うので初心者も受講可能。開講日は掲示で確認のこと。初回授業より水着、キャップ、ゴーグル、タオル等を用意すること。

科目名	情報処理（情報機器の操作を含む）
単位数	2単位
担当教員	小林仁
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎小学校教諭, ◎幼稚園教諭, ◎秘書士
授業概要	コンピュータ等情報機器と通信技術の発展により実現された情報化社会に生きていくために必要な知識と、必須の素養である情報機器や通信技術を目的に応じて的確に活用する能力（情報リテラシー）を習得する。講義と演習形式で行う。
到達目標	1. コンピュータとネットワークを科学的に捉え考えることができる。 2. 情報システムがもたらす効果と問題を考えることができる。 3. 情報システムを目的に応じて的確に活用することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 情報のデジタル化・2進数(講義)：本学の情報環境説明(演習)</p> <p>第2週 2進数の計算法(講義)：インターネット利用法(演習)</p> <p>第3週 コンピュータの動作原理(講義)：インターネット情報検索(演習)</p> <p>第4週 コンピュータの歴史(講義)：メール利用法(演習)</p> <p>第5週 コンピュータの基本要素(講義)： 応用ソフト利用法(メモ帳)(演習)</p> <p>第6週 パソコン本体の構成(講義)： 応用ソフト利用法(ペイント)(演習)</p> <p>第7週 ハードディスクなどの補助記憶装置(講義)：Word文書作成(演習)</p> <p>第8週 キーボードなどの入力装置(講義)：Word文書編集(書式)(演習)</p> <p>第9週 ディスプレイなどの出力装置(講義)：Word文書編集(表)(演習)</p> <p>第10週 オペレーティングシステム(講義)：Word文書編集(イメージ)(演習)</p> <p>第11週 アプリケーション(講義)：Excelの操作法(起動・終了)(演習)</p> <p>第12週 ネットワーク(LAN)(講義)：Excel表計算(基礎)(演習)</p> <p>第13週 ネットワーク(インターネット)(講義)：Excel表計算(グラフ)(演習)</p> <p>第14週 セキュリティを保つには(講義と討議)：Excel表計算(関数)(演習)</p> <p>第15週 情報モラルを守るには(講義と討議)：Excel表計算(マクロ)(演習)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	演習終了後レポートの提出を課す。
成績評価	課題提出 60%、 受講状況 40%
教科書	『情報科学のリテラシー』、平田浩一ほか著、日経BP社編、日経BP社
備考	

科目名	英語①
単位数	1単位
担当教員	桐生直幸・徳増多加志・太田一郎・大淵利春
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭, ○秘書士
授業概要	幼児教育、栄養管理、健康管理など、身近なトピックを題材とする英文や子ども向けの英語絵本を読み、それに関する演習を行うことを通して、それらの分野における英語表現上の基礎知識、関連語彙の習得を図る。高校までに学習する英文法、語法、構文把握などに関して、十分理解していない学生に対しても丁寧な解説を行う。
到達目標	1. 幼児教育、栄養管理分野に特有の英語表現を習得する。 2. 「聴く・話す・読む・書く」4技能の基礎的運用能力を獲得する。
授業内容・方法	<p>第1週 Introduction (短大での英語学習)、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 Teaching children 初等教育 日本とアメリカの教育制度の比較【講義・演習】</p> <p>第3週 Teaching children 初等教育 日本の保育所・幼稚園との比較【講義・演習】</p> <p>第4週 Teaching children 初等教育 プレスクール・キンダーの役割【講義・演習】</p> <p>第5週 Brain Food 脳と食生活【講義・演習】</p> <p>第6週 Brain Food 脳の力を高める秘訣【講義・演習】</p> <p>第7週 Brain Food 脳の力を高める食事とレシピ【講義・演習】</p> <p>第8週 Review/Test 復習及び授業内試験①【テスト】</p> <p>第9週 Food Allergies アレルギーの種類と原因【講義・演習】</p> <p>第10週 Food Allergies 食物アレルギーのメカニズムとアレルゲン【講義・演習】</p> <p>第11週 Food Allergies 食物アレルギーの症状と対策【講義・演習】</p> <p>第12週 Tips for Better Sleep 生活習慣と睡眠時間【講義・演習】</p> <p>第13週 Tips for Better Sleep 不眠症の症状と対策【講義・演習】</p> <p>第14週 Tips for Better Sleep 睡眠障害の症状と対策【講義・演習】</p> <p>第15週 Review/Test 復習及び授業内試験②【テスト】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	付属CDをあらかじめ聞き、各週の授業内容の予習、復習をすること。
成績評価	授業内試験 60%、受講状況 20%、課題提出 20%
教科書	English Reader for College Students (改訂版) 青踏社
備考	毎回、英語辞書を持参すること。

科目名	国語
単位数	2単位
担当教員	杉山勇人・福留温子・山崎久男・柴村抄織・小島和
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭, ○保育士
授業概要	「話す・聞く・読む・書く」という国語の学習は、すべての表現活動の基盤である。本授業では、これまでの自らの国語力を内省し、漢字・語彙・文法など基礎知識の充実を図り、社会生活において必要な敬語や文章表現の能力を高める。また、小学校教科書教材を中心として、教材研究・文学的作品分析の方法を学び、意見発表をおこなう。
到達目標	1. 国語の基礎知識(漢字・語彙・文法)が身についている。 2. 目的に応じて適切な文章で表現することができる。 3. 基礎的な教材研究・作品分析の方法を理解し、自らの意見を述べることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 言語の性質、音声言語と文字言語、日本語の特徴【講義】</p> <p>第2週 自己紹介スピーチ【発表】</p> <p>第3週 日本語の発音、音声の種類【講義】</p> <p>第4週 教育漢字・常用漢字、熟語の構成【講義・演習】</p> <p>第5週 漢字の音訓、同音異義語、類義語・対義語【講義・演習】</p> <p>第6週 慣用句、ことわざ、故事成語【講義・演習】</p> <p>第7週 口語文法(文の種類・体言と用言・品詞の種類)【講義】</p> <p>第8週 口語文法(活用の種類・品詞分解)【講義・演習】</p> <p>第9週 敬語の用法、文章表現の技法【講義・演習】</p> <p>第10週 小学校教科書教材を用いた物語文の作品分析1【講義・演習】</p> <p>第11週 小学校教科書教材を用いた物語文の作品分析2【講義・演習】</p> <p>第12週 小学校教科書教材を用いた説明文の作品分析1【講義・演習】</p> <p>第13週 小学校教科書教材を用いた説明文の作品分析2【講義・演習】</p> <p>第14週 小論文の書き方(小論文の型、要旨をまとめる)【講義・演習】</p> <p>第15週 小論文の書き方(課題文型小論文を書く)【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	日常的に読書の習慣をつけること。 知識事項に関しては、しっかり復習をして定着を図ること。
成績評価	授業内試験50%、課題提出30%、受講状況20%
教科書	教科書は使用しない。
備考	漢字・語彙・文法などの小テスト、読書感想文・小論文などを課す。

科目名	社会
単位数	2単位
担当教員	横山吉雄
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	小学校社会科を指導する際に必要な地理的分野・歴史的分野・公民的分野について、内容や社会事象の見方・考え方を理解させる。授業を進めるにあたっては、野外調査や資料収集、表現、演習、意見交換などの諸活動を取り入れ、学生が問題意識をもち、主体的に学べるように工夫する。
到達目標	1. 小学校教員に必要な社会科に関する内容を述べるができるようになる。 2. 社会科指導に必要な地図、年表、資料等を選択し、進んで活用できるようになる。 3. 社会事象に関心をもち、問題意識をもったり、進んで調べたりできるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 ふるさとを社会科的に紹介しよう 地理・歴史・公民的事象を中心に【発表】</p> <p>第2週 地理を学ぶ1 日本の位置、領域、領土問題【講義・演習】</p> <p>第3週 地理を学ぶ2 日本の地形・気候【講義・発表】</p> <p>第4週 地理を学ぶ3 日本の産業【講義・事例検討】</p> <p>第5週 地理を学ぶ4 地図と地球儀の見方・活用【講義・演習】</p> <p>第6週 地域を学ぶ1 地域の変化を地形図から読む【グループワーク・演習】</p> <p>第7週 地域を学ぶ2 地域調査の計画、事前準備、問題づくり【講義・演習】</p> <p>第8週 地域を学ぶ3 地域調査の実施【観察・資料収集】</p> <p>第9週 歴史を学ぶ1 時代区分と人物・文化遺産を中心とした歴史学習【講義・演習】</p> <p>第10週 歴史を学ぶ2 聖徳太子と新しい国づくり【講義・ビデオ視聴】</p> <p>第11週 歴史を学ぶ3 北条政子とその生涯【講読・討論】</p> <p>第12週 歴史を学ぶ4 徳川家光と大名統制【講義・ビデオ視聴】</p> <p>第13週 公民を学ぶ1 身の回りの社会問題について考える【講義・討論】</p> <p>第14週 公民を学ぶ2 わが国の政治問題について考える【講義・討論】</p> <p>第15週 公民を学ぶ3 国際問題について考える【講義・討論】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	日頃から社会情勢に関心をもち、必要に応じて新聞等の切り抜き等をしておくとよい。
成績評価	課題提出50%、授業内試験20%、発表20%、受講状況10%
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（H20.8 文科省 東洋館出版社） その他、レジュメを含む資料を配付
備考	サインペン、マーカーペン等を用意しておくとよい。

科目名	算数
単位数	2単位
担当教員	神林信之・椿道雄
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	数と計算、量と測定、図形、数量関係の4領域について、算数の授業を行うための基礎的・基本的なことがらについて学ぶ。
到達目標	小学校算数科の内容について、子どもの目や一般成人の目ではなく、教師の目で見るとどうなるのか、いくつかの題材を対象に具体的に検討することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、算数科の内容全般について【講義・演習】</p> <p>第2週 「数と計算」の内容の理解①【講義・演習】</p> <p>第3週 「数と計算」の内容の理解②【講義・演習】</p> <p>第4週 「数と計算」の内容の理解③【講義・演習】</p> <p>第5週 「数と計算」の内容の理解④【講義・演習】</p> <p>第6週 「量と測定」の内容の理解①【講義・演習】</p> <p>第7週 「量と測定」の内容の理解②【講義・演習】</p> <p>第8週 「量と測定」の内容の理解③【講義・演習】</p> <p>第9週 「図形」の内容の理解①【講義・演習】</p> <p>第10週 「図形」の内容の理解②【講義・演習】</p> <p>第11週 「図形」の内容の理解③【講義・演習】</p> <p>第12週 「数量関係」の内容の理解①【講義・演習】</p> <p>第13週 「数量関係」の内容の理解②【講義・演習】</p> <p>第14週 「数量関係」の内容の理解③【講義・演習】</p> <p>第15週 まとめ【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	
成績評価	授業内試験50%、講義や演習への取り組み30%、課題提出20%
教科書	教科書なし
備考	

科目名	音楽①
単位数	2単位
担当教員	東ゆかり・薩摩林淑子・大田櫻子・小山裕之・パップ晶子・渡辺宏章・ 安藤友香・鈴木恵津子・蓮沼みな子・武藤弘子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	【教科に関する科目】◎小学校教諭・◎幼稚園教諭，◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	音楽をするうえで必要な楽典理論・ピアノ演奏の技術・歌唱表現の技術を身に付けるための授業をほとんど個人レッスン形態で行う。音楽経験に個人差があるためクラスを4つのグレードに分けて複数の教員が一人ひとりを個人レッスンする。そして14回目の授業では皆の前で弾き歌いと子どものための楽曲を演奏披露する。
到達目標	①楽典理論を理解して楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現することが出来る。 ②ピアノ演奏技術を習得して子どもの前で弾くことが出来る。 ③子ども達に独唱や弾き歌いを聴かせることが出来る。
授業内容・方法	<p>第1週 全員に授業概要説明とピアノ演奏技術の基本演習・ピアノ演奏テスト曲の解説【講義】</p> <p>第2週 4グレードに分けるためのピアノ演奏テストを行う【実技】</p> <p>第3週 グレードに分かれて楽典理論の基礎知識とピアノ演奏のための基本演習【講義・実技】</p> <p>第4週 グレードごとに楽典理論の学習とピアノ個人レッスンを行う【講義・実技】</p> <p>第5週 グレードごとにピアノレッスンを行う【実技】</p> <p>第6週 グレードごとに楽典理論の学習（音名と音階・音符と休符）とレッスン【講義・実技】</p> <p>第7週 グレードごとに楽典理論の学習（リズムと拍子・調と音階）とレッスン【講義・実技】</p> <p>第8週 全員一斉に楽典理論のテストを実施し、即採点して復習授業を行う【小テスト・講義】</p> <p>第9週 グレードごとにピアノ曲を個人レッスン・グループレッスン形態で行う【実技】</p> <p>第10週 グレードごとにピアノ・歌唱の個人レッスンを行う（弾き歌いの基礎段階）【実技】</p> <p>第11週 グレードごとにピアノ曲と弾き歌いの個人レッスンを行う【実技】</p> <p>第12週 グレードごとに個人の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人レッスンを行う【実技】</p> <p>第13週 個人レッスンと発表会に向けてのリハーサルを行う【実技・発表】</p> <p>第14週 皆の前で一人ひとりがピアノ曲と弾き歌い曲を発表する（発表会）【発表・講評】</p> <p>第15週 コードネームの解説とピアノでの実技演習を行う【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点等を中心に繰り返し練習すること。
成績評価	受講状況70% 実技20% 授業内試験10%
教科書	『バイエルピアノ教則本』音楽之友社 『こどもの歌93』カワイ出版
備考	ピアノ・歌の練習を毎日行い、完成度を高くしたうえで授業に臨むこと。

科目名	図画工作
単位数	2単位
担当教員	山成美穂・早川陽・柳沢正人
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭、◎保育士、◎児童厚生員
授業概要	子どもが創造的な造形活動を行うためには、指導者に材料・用具・技能に関する知識と経験が求められる。また、それぞれの発達段階に適した教材の工夫が必要である。この科目では、子どもの教育現場で扱う下記の〔 〕にある基本的な用具・材料を用いて課題制作を行い、子どもが造形活動を行う意味の理解を幅広く深めていく。
到達目標	1. 造形活動の良さや楽しさを理解し、制作に活かすことができる。 2. 材料の種類や特性、用具の正しい使い方についての知識や理解を深める。 3. 身近な材料や自然物を題材に活用することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、子どもの絵の発達段階について【講義】</p> <p>第2週 絵画表現(1)[鉛筆]のグラデーションを活かして【制作】</p> <p>第3週 絵画表現(2)[鉛筆]の表現に親しむ【制作】</p> <p>第4週 モダンテクニック(1)[クレヨン・パス、水彩絵の具]の特性を活かした技法【制作】</p> <p>第5週 モダンテクニック(2)[クレヨン・パス、水彩絵の具]の特性を活かした技法【制作】</p> <p>第6週 モダンテクニック(3)[クレヨン・パス、水彩絵の具]の特性を活かした技法【制作】</p> <p>第7週 モダンテクニック(4)[クレヨン・パス、水彩絵の具]の特性を活かした技法【制作】</p> <p>第8週 半立体表現(1)[はさみ・のり・紙]しかけ・動きのあるカードをつくる【制作】</p> <p>第9週 半立体表現(2)[はさみ・のり・紙]しかけ・動きのあるカードをつくる【制作】</p> <p>第10週 木工(1)[板材]から形をつくる 切って合わせる[のこぎり、電のこ等]【制作】</p> <p>第11週 木工(2)[板材]から形をつくる 削る①[小刀、金ヤスリ、Cクランプ]【制作】</p> <p>第12週 木工(3)[板材]から形をつくる 削る②[金ヤスリ、Cクランプ]【制作】</p> <p>第13週 木工(4)[板材]から形をつくる 削る③、磨く[紙やすり]【制作】</p> <p>第14週 木工(5)[板材]から形をつくる 着色、塗装[水性ニス]【制作】</p> <p>第15週 まとめと作品返却【鑑賞】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各回の課題に必要な最低限の準備物を事前に提示するので、その課題に適した用具・材料を各自が工夫し用意すること。
成績評価	成果物提出60%、受講状況40%
教科書	『美術資料 神奈川の美術』（秀学社）
備考	作品制作は原則的に授業時間内に行いません。居残り作業への対応は病欠などの理由が無い限り行ないませんので、遅刻欠席に注意すること。

科目名	体育
単位数	2単位
担当教員	小川幸代
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭、◎保育士、◎児童厚生員
授業概要	幼児・児童の運動遊び・教科体育の領域で取り上げられている活動について、実技を通してその狙い、年会方法、そして安全上の留意点などについて理解していく。幼児・児童が身体を動かす楽しさを十分に感じながら動くことができる活動づくりのために、まずは自らが楽しんで活動に取り組むことから始め、指導できる技術の獲得を目指す。
到達目標	1. 様々な運動遊び（活動）のねらいを知り、留意点について理解することができる。 2. 人前で発表を経験することで、表現力・実践力を身につけることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス・体ほぐしの運動【講義・実技】</p> <p>第2週 基本の運動－走る/鬼ごっこ・リレー【実技】</p> <p>第3週 運動用具を操作する－棒を使って【実技】</p> <p>第4週 運動用具を操作する－フープを使って【実技】</p> <p>第5週 運動用具を操作する－長縄・短縄を使って【実技】</p> <p>第6週 運動用具を使って遊ぶ－平均台【実技】</p> <p>第7週 運動用具を使って遊ぶ－マット【実技】</p> <p>第8週 運動用具を使って遊ぶ－跳び箱【実技】</p> <p>第9週 表現－幼児とともにを行うフォークダンス【実技】</p> <p>第10週 表現－幼児とともに行うリズムダンス【実技】</p> <p>第11週 表現－振付創作【実技】</p> <p>第12週 表現－発表と振り返り【実技】</p> <p>第13週 ボールを使って－蹴る/サッカー【実技】</p> <p>第14週 ボールを使って－投げる/ドッジボール【実技】</p> <p>第15週 運動遊びの整理と考察【講義・実技】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	運動用具を使った活動のバリエーションについて適宜復習しておくこと。
成績評価	受講状況 50%、実技 30%、課題提出 20%
教科書	教科書は使用しない。
備考	第1回目の授業より実技を行うため、運動着と室内用運動靴を用意すること。

科目名	社会福祉
単位数	2単位
担当教員	石川修
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	社会福祉が社会に必要とされた歴史を学び、現代社会に求められている社会福祉制度の成り立ちを理解するとともに、将来保育士として実践するために必要な社会福祉における支援・援助の考え方や人とのかかわり方、さらには”対人援助”について学ぶ。なお、授業は講義形式で行う。
到達目標	①社会福祉が果たす社会的役割を理解する。②社会福祉を利用する人々のニーズと自立の関係や直接支援のあり方を学ぶ。③社会福祉における援助技術について理解する。
授業内容・方法	<p>第1週 これまで理解していた『社会福祉』から、実際の『社会福祉』について考える。</p> <p>第2週 なぜ『社会福祉』が必要なのか、社会の中での役割について学ぶ。</p> <p>第3週 『ノーマライゼーション』について理解し、社会福祉の考え方を学ぶ。</p> <p>第4週 社会福祉を必要とする人々の『ニーズ』について考え、理解を深める。</p> <p>第5週 『社会福祉』がどのように出来たか各国の歴史によって学ぶ。</p> <p>第6週 日本では『社会福祉』がどのように制度化されたかの歴史を学ぶ。</p> <p>第7週 神奈川県を例にして地域での『社会福祉』の歴史を学ぶ。</p> <p>第8週 社会福祉を利用する人々<障害者>について学ぶ。</p> <p>第9週 社会福祉を利用する人々<高齢者>について学ぶ。</p> <p>第10週 社会福祉を利用する人々<子ども>について学ぶ。</p> <p>第11週 社会福祉を利用する人々とのかかわり方①「自立」とはどのようなことか考える。</p> <p>第12週 社会福祉を利用する人々とのかかわり方②「ケア」とはどのようなことか考える。</p> <p>第13週 社会福祉を利用する人々への援助技術について学ぶ。</p> <p>第14週 人権侵害としての『虐待問題』を概観し、社会福祉の役割を考える。</p> <p>第15週 社会福祉とは何か、その社会的役割について考える。</p> <p>定期試験等 定期試験（60分）</p>
準備・発展学習	新聞等の報道から社会問題、子どもの問題等を注視する。
成績評価	定期試験60% 受講状況40%
教科書	「はじめて出会う社会福祉」 相川書房 西尾祐吾著
備考	

科目名	児童家庭福祉
単位数	2単位
担当教員	太田敬子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	現代の児童と家庭、地域社会の状況をふまえながら、児童家庭福祉領域における保育、社会的養護、障害、非行、児童虐待、健全育成、ひとり親家庭等の各分野への具体的な理解を深め、対応する施策、支援内容、施設や機関、保育の役割と責任について学びを深める。
到達目標	①児童家庭福祉の歴史、制度、実施体系、現状、課題等について必要な基本的知識を習得する。②子どもの最善を利益を考え、子どもと家庭を支援する児童家庭福祉領域の専門職である保育士としての価値を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 児童家庭福祉の理念～児童福祉法、地域における実践例から考察</p> <p>第2週 データから見る現代の子どもと家庭の実態</p> <p>第3週 児童家庭福祉の歴史と児童観の変遷</p> <p>第4週 児童の権利擁護～児童の権利と最善の利益・施設利用児童の姿から考察</p> <p>第5週 児童家庭福祉の実施機関と児童福祉施設</p> <p>第6週 児童家庭福祉の諸分野～社会的養護</p> <p>第7週 児童家庭福祉の諸分野～児童虐待防止とドメスティックバイオレンス</p> <p>第8週 児童家庭福祉の諸分野～ひとり親家庭</p> <p>第9週 児童家庭福祉の諸分野～多様な保育ニーズと地域子育て支援</p> <p>第10週 児童家庭福祉の諸分野～母子保健と児童の健全育成</p> <p>第11週 児童家庭福祉の諸分野～障害のある児童への対応</p> <p>第12週 児童家庭福祉の諸分野～非行児童等への対応</p> <p>第13週 児童家庭福祉の制度と法体系、行財政</p> <p>第14週 保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク</p> <p>第15週 近年の児童家庭福祉の動向と課題</p> <p>定期試験等 定期試験なし。</p>
準備・発展学習	事前準備：授業でポイントを提示します。復習：配布資料、小テストで確認しましょう。
成績評価	授業内小テスト50% 課題提出20% 受講状況30%
教科書	講義資料を配布します。教科書は指定しないが参考文献を提示します。
備考	現代の子どもと家庭への理解を深め、その福祉課題への関心を持ち、共に学びましょう。

科目名	保育原理
単位数	2単位
担当教員	佐藤康富・札本晃子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	保育者になるための基礎的な入門教育を行なう。子ども、保育者、保護者、保育や制度の歴史と現状、それを取り巻く社会の変化を学ぶ。事例・グループワークを通して、具体的に学習を進めていく。
到達目標	1. 保育の基礎的知識を習得する。 2. 保育の歴史的な流れと背景の理解を説明できる。 3. 保育者の専門性について考えることができるようにする。
授業内容・方法	<p>第1週 保育とは何か 【講義】</p> <p>第2週 子ども理解を基盤とした保育（養護と教育） 【講義】</p> <p>第3週 事例から学ぶ子ども理解 【講義・演習】</p> <p>第4週 子どもの発達と保育（乳児期） 【講義・演習】</p> <p>第5週 子どもの発達と保育（幼児期） 【講義・演習】</p> <p>第6週 保育の歴史からの学び（世界） 【講義】</p> <p>第7週 保育の歴史からの学び（日本） 【講義】</p> <p>第8週 保育原理としての自発性と指導性 【講義】</p> <p>第9週 保育者の専門性と援助 【講義】</p> <p>第10週 子育て支援 【講義・演習】</p> <p>第11週 保育内容（5領域）と総合的指導 【講義・演習】</p> <p>第12週 保育内容と援助方法 【講義・演習】</p> <p>第13週 保育内容と援助方法 【演習】</p> <p>第14週 保育内容と援助方法 【演習】</p> <p>第15週 幼・保・小の連携 【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	毎回授業の終わりに振り返りを行う。自分で学んだことを整理しておくこと。
成績評価	課題提出 50%、発表・演習 30%、受講状況 20%
教科書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、『保育原理－保育者を目指すあなたへ（第3版）』学芸図書
備考	公園、児童館、保育所、幼稚園、図書館など、身近な場所にある「子どもが育つ場」に目を向け注意して見ておくことが望ましい。出身園など保育施設でボランティアなどを経験するとよい。

科目名	乳児保育
単位数	2単位
担当教員	寶川雅子・札本晃子・菅原幸子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	乳児保育を行うために学習すべき内容①乳児保育の理念と役割 ②乳児保育の現状と課題 ③3歳未満児の保育内容 ④乳児保育の実際 ⑤乳児保育における連携 について、演習・講義・事例・映像等により具体的に学ぶ。さらに、授業で学んだことが実践力となるように演習を通して確認をする。
到達目標	乳児保育の現状・課題と社会的背景との関連を解釈する。3歳未満児の発育・発達と遊び・生活とを関連付けて考える能力を習得する。乳児保育における保育計画等を作成する能力や、保護者等との連携の必要性を認識する能力を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 乳児保育の概要（乳児保育とは）【講義】</p> <p>第2週 乳児保育の理念と歴史の変遷、役割と機能【講義】</p> <p>第3週 乳児保育における基本的知識に基づく援助とかかわり【演習】</p> <p>第4週 6か月未満児の発達と保育内容【演習】</p> <p>第5週 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容【演習】</p> <p>第6週 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容【演習】</p> <p>第7週 2歳児の発達と保育内容【演習】</p> <p>第8週 保育所における乳児保育【演習】</p> <p>第9週 家庭的保育における乳児保育【演習】</p> <p>第10週 乳児院における乳児保育【演習】</p> <p>第11週 乳児保育における基本的技術に基づく援助とかかわり【実習】</p> <p>第12週 保育課程に基づく指導計画の作成、観察・記録、自己評価と連携【講義・演習】</p> <p>第13週 個々の発達を促す生活と遊びの環境【演習】</p> <p>第14週 乳児保育における連携【演習】</p> <p>第15週 乳児保育を円滑に行うための保育者としての知識・技術（総括にかえて）【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	保育所保育指針、児童福祉法の関連箇所を読んでおくこと。授業中に紹介した書籍、資料を読むこと。
成績評価	受講状況（30%）、課題提出（20%）、授業内試験（50%）
教科書	なし
備考	適宜資料を配布

科目名	レクリエーション理論
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎レクリエーションインストラクター
授業概要	レクリエーションに関する基礎理論を学び、現代社会におけるレクリエーションの役割と必要性を理解する。レクリエーション支援の内容や方法を学習することにより、実際の教育現場においてレクリエーションを上手に活用できる人材を育成する。本授業科目は講義と発表を含んだ演習によって展開されていく。
到達目標	1. レクリエーション支援に対する理解を深め、支援できる能力を身につける。 2. 様々な教育現場でレクリエーションを活用できる実践的指導力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 レクリエーションの基礎理論（講義）</p> <p>第2週 レクリエーションの意義（講義）</p> <p>第3週 レクリエーション運動の歴史とその背景（講義）</p> <p>第4週 レクリエーション運動を支える制度（講義）</p> <p>第5週 レクリエーション支援者の役割（講義）</p> <p>第6週 ライフスタイルとレクリエーション（講義）</p> <p>第7週 社会の課題とレクリエーション（講義）</p> <p>第8週 レクリエーション事業について（講義）</p> <p>第9週 レクリエーション事業の計画（講義）</p> <p>第10週 レクリエーション活動の安全管理（講義）</p> <p>第11週 ホスピタリティについて（演習）</p> <p>第12週 アイスブレイキングの理解（演習）</p> <p>第13週 目的に合わせたレクリエーションワーク（演習）</p> <p>第14週 対象に合わせたレクリエーションワーク（演習）</p> <p>第15週 授業内試験及び試験内容の解説</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各回、事前に教科書等の該当箇所を読み把握すること。 自主的に地域のレクリエーション活動などに参加する経験を持つことが望ましい。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（財）日本レクリエーション協会、2008
備考	

科目名	児童館の機能と運営
単位数	2単位
担当教員	野中賢治
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester集中講義
免許・資格課程との対応	◎児童厚生員
授業概要	児童館の基本的な役割と、児童館施策を知る。児童館活動の実際と、子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、大人が子どもの遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。児童館の今日的課題を学び、児童厚生員が子育て支援に取り組む際の視点を理解する。
到達目標	1、児童館における子どもへの支援と子育て支援についての技法を理解する。2、地域における子どもの遊び・育ちの実際を知る。3、子どもから信頼され、子どもの発達に寄り添える指導者となる視点を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの発達と遊び（講義）</p> <p>第2週 子どもの遊び環境から見た地域社会の変遷（講義）</p> <p>第3週 自己の体験に基づく地域社会と子どもの姿（発表）</p> <p>第4週 自己の体験に基づく地域社会と子どもの実際（討議、感想文）</p> <p>第5週 小型児童館及び児童センターの実際（事例教材）</p> <p>第6週 小型児童館・児童センターの活動内容（活動内容の事例を検討）</p> <p>第7週 小型児童館・児童センターの活動と児童厚生員の役割（児童厚生員の役割の事例を検討）</p> <p>第8週 放課後児童クラブの役割と内容（講義）</p> <p>第9週 児童館と放課後児童クラブのかかわり（講義、事例教材）</p> <p>第10週 児童福祉法における児童館の位置づけについて（講義）</p> <p>第11週 児童館施策の経緯（講義）</p> <p>第12週 児童館における子どもの安全と危機管理（講義、事例教材）</p> <p>第13週 児童館における職場倫理（講義、討議、感想文）</p> <p>第14週 大型児童館の実際（事例教材）</p> <p>第15週 国の「児童館ガイドライン」について（講義）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	事前に配布する資料の該当箇所を読んでくること。
成績評価	課題提出（小論文）40%、課題提出（感想文）・発表40%、受講状況20%
教科書	なし（資料配布）
備考	初回に受講方法・課題について説明する。

科目名	教育原理
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭、◎保育士
授業概要	教育活動に携わる者としての見識を高めるために、人間と教育について原理的な視点から探究する。講義では、人間の生涯にとって教育がどのような意味をもつかについて考察し、基本的な教育学的知見について学ぶ。教育の理念・目的・目標、思想、歴史を中心に教育一般に関する原理的な理解を目指す。
到達目標	1. 教職に就く上で必須となる教育上の原理的な考え方を述べることができる。 2. 教育原理上の基礎的な知識を理解し、教育課題・問題の具体的解決に関係づけることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育の本質と意義について【講義】</p> <p>第2週 教育と発達との関わり【講義】</p> <p>第3週 教育目的の構成要素について【講義】</p> <p>第4週 理想の人間像の変遷1：西洋古代・中世における教育思想【講義】</p> <p>第5週 理想の人間像の変遷2：西洋近世・近代における教育思想【講義】</p> <p>第6週 理想の人間像の変遷3：現代の人間像と教育思想【講義】</p> <p>第7週 教育基本法の理念と内容【講義】</p> <p>第8週 家庭と教育【講義・論述】</p> <p>第9週 学校教育の目的と目標1：教育内容について【講義・論述】</p> <p>第10週 学校教育の目的と目標2：課題と展望について【講義・論述】</p> <p>第11週 教育的関係の構築【講義・論述】</p> <p>第12週 子どもの社会性の育成【講義】</p> <p>第13週 人権と教育【講義】</p> <p>第14週 教師論【講義・論述】</p> <p>第15週 現代の教育問題【講義・論述】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題となる教育問題に関心をもち、自分なりの考えをもてるようにする。 ・授業で推奨されたり、課題として取り上げられた図書については読むようにする。
成績評価	受講状況30%、課題提出30%、授業内試験40%
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料・プリントを配布。
備考	免許・資格用の科目としての性格上、教育の基本原則を思考しつつ、現今の教育問題に向き合う姿勢を身につける。

科目名	教育心理学
単位数	2単位
担当教員	越智幸一
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕○小学校教諭・○幼稚園教諭、○保育士
授業概要	教育心理学は、教育における様々な事象について考察し、教育の効果をあげるために心理学的知見を利用する学問です。それゆえ、教育に携わるすべての人が教育心理学の内容を理解し、実践に生かすことができなければなりません。この授業では、より優れた授業実践を実現するための多くの知見と方法を紹介します。
到達目標	1. 教育心理学の知見を教育実践に生かすことができる。2. 子どもたちが効果的に学ぶ方法を提供できる。3. 教育や保育において生じる様々な問題に対処できる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育心理学の学問的特徴とその方法【講義】</p> <p>第2週 初期環境と発達（母性的養育の重要性について）【講義】</p> <p>第3週 運動機能の発達【講義・DVD教材】</p> <p>第4週 情動の発達【講義・DVD教材】</p> <p>第5週 言語機能の発達【講義・DVD教材】</p> <p>第6週 認知・思考の発達【講義・DVD教材】</p> <p>第7週 社会性の発達【講義・DVD教材】</p> <p>第8週 学習行動の基礎理論【講義】</p> <p>第9週 動機づけ（内発的動機づけと外発的動機づけ）【講義】</p> <p>第10週 知能の発達と測定【講義】</p> <p>第11週 パーソナリティの発達（形成過程と適応との関連性）【講義】</p> <p>第12週 教育評価（教育評価の目的と方法）【講義】</p> <p>第13週 発達障害のある子どもの教育と保育【講義】</p> <p>第14週 対人関係のはじまりの場としての家庭（再び母性的養育の重要性を考える）【講義】</p> <p>第15週 子どもをめぐるさまざまな教育的問題（不登校、児童虐待、早期教育）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと・毎回の講義終了時に提示する復習課題を期限までに提出。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『保育に生かす教育心理学』伊藤健次、みらい
備考	

科目名	国語科教育法
単位数	2単位
担当教員	山崎久男
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	国語科教育の目標や基礎・基本を理解する。「話す・聞く・読む・書く」活動を通して、国語科学習の指導上の留意点を考察し、指導力の向上をめざす。教材研究や学習指導案づくりを通して、実践的指導力を高める。
到達目標	1, 国語科教育の今日的課題を整理することができる。 2, 「読む」「聞く」「書く」「話す」領域の目標・内容を分析することができる。 3, 説明的・文学的文章の教材研究を行うことができる。 4, 学習指導案を作成し、模擬授業ができる。
授業内容・方法	<p>第1週 児童の言語能力の実態や国語科教育の課題についてまとめ、論述する。【講義・協議】</p> <p>第2週 学習指導要領「国語」の目標・内容を分析し、重点内容を整理する。【講義】</p> <p>第3週 「話すこと・聞くこと」の目標・内容を理解し、その系統性を整理する。【講義・協議】</p> <p>第4週 ディベートを行い、コミュニケーション能力（話す・聞く）を高める。【講義・討議】</p> <p>第5週 「書くこと」の目標・内容を理解し、その系統性を整理する。【講義】</p> <p>第6週 5W1Hを活用して、報告文や物語の続き文等を書く。【文章表現】</p> <p>第7週 文学的文章の読解指導の目標・内容を整理し、文章の要点を読み取る。【講義・演習】</p> <p>第8週 説明的文章の読解指導の目標・内容を整理し、文章の要点を読み取る。【講義・演習】</p> <p>第9週 読書指導の目標・内容を理解し、読み聞かせを行う。【講義・演習】</p> <p>第10週 国語科の指導と評価の関連を考察し、その一体化の重要性を理解する。【講義】</p> <p>第11週 教材研究の重要性を理解し、文章の「解釈」「分析」を行う。【講義・演習】</p> <p>第12週 学習指導案作成上の留意点を理解し、学習指導案（略案）を作成する。【講義・演習】</p> <p>第13週 模擬授業を考察し、長所や改善点を指摘し合う。①【講義・協議】</p> <p>第14週 模擬授業を考察し、長所や改善点を指摘し合う。②【講義・協議】</p> <p>第15週 言語活動活性化の取組について発表する。【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	教育課題について、事前に考えをメモなどにまとめておく。事後に、返却されたワークシートなどの手直しをして、今後の取組課題を明確にしておく。
成績評価	授業内試験60%、課題作文・受講状況等40%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 東洋館出版社 必要に応じて配布する資料・プリント
備考	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容を手がかりに、言語活動の充実について思索を深める。 配布資料やワークシート等をポートフォリオ（ファイル）にまとめる。

科目名	児童文化
単位数	2単位
担当教員	杉本裕子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕○幼稚園教諭, ○保育士
授業概要	幼児は遊びに全身を使い、また自身の持てる力を発揮することに喜びを感じて集中する。そのような幼児の遊び方の身体記憶を学習者自身が再確認する。そこから子どもの遊びに密着しつつ展開していく活動の諸相に視野を広げ、子どもに手渡していくべき文化財とは何かを考察する。
到達目標	①幼児の遊びに対する感受性と理解力が向上し、幼児理解に生かすことができる。 ②子どもに身近な文化財に親しみ、適切なものを選択して子どもに紹介することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもをとりまく文化について【講義】</p> <p>第2週 遊び活動の準備①面白かった遊びを思い出す【グループワーク】</p> <p>第3週 遊び活動の準備②活動案を作成する【グループワーク】</p> <p>第4週 遊ぶ①グループの活動案から</p> <p>第5週 遊ぶ②グループの活動案から</p> <p>第6週 遊ぶ③グループの活動案から</p> <p>第7週 遊びの考察―遊ぶ活動のふりかえり【グループワーク】</p> <p>第8週 園児の遊びの実際①室内遊び【事例検討】</p> <p>第9週 園児の遊びの実際②園庭遊び【事例検討】</p> <p>第10週 園児の遊びの実際③園外保育【事例検討】</p> <p>第11週 園行事について【講義とグループ討議】</p> <p>第12週 シアター系の活動について【講義とグループワーク】</p> <p>第13週 絵本①読み聞かせをしあう【グループワーク】</p> <p>第14週 絵本②読み聞かせの方法と選び方について【講義とグループ討議】</p> <p>第15週 文化における鑑識眼を培うということ【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	自分が子どもの頃よく遊んだ物事を思い出しておく、家族に話を聴いておく
成績評価	課題提出30%、発表50%、受講状況20%
教科書	なし
備考	多目的ホールで行う回では（授業内で連絡）、運動遊びに対応できる服装と、体育館履きを用意して受講すること

科目名	児童指導
単位数	2単位
担当教員	山崎正
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	児童の健全な成長を促し、人格のよりよい発達を目指す児童指導の意義を理解し、学校生活が有意義に、かつ充実したものになるよう指導することを理解できるようにする。
到達目標	1 日常の学校生活の実際にあふれ、児童を客観的かつ総合的に認識する必要性を述べられる。 2 児童との信頼関係を築くために、共に歩む姿勢について具体的に述べられる。
授業内容・方法	<p>第1週 児童指導の意義 [学校生活を振り返る] 【講義】</p> <p>第2週 児童指導の課題 [信頼関係を築く] 【講義】</p> <p>第3週 教育課程における位置づけ [効果的な教育活動の展開] 【講義】</p> <p>第4週 自己指導力の育成 [基本的な資質や能力の育成] 【講義】</p> <p>第5週 生きる力を伸ばす [集団指導と個別指導のバランス] 【講義】</p> <p>第6週 学ぶ意欲を育てる [主体的な学習態度を養う] 【講義】</p> <p>第7週 豊かな心を育む [学校における道徳教育] 【講義】</p> <p>第8週 望ましい集団活動 [特別活動の目標] 【講義】</p> <p>第9週 児童期の心理と発達 [求められる共感的理解] 【講義】</p> <p>第10週 教育相談① [教育相談の実際] 【事例検討】</p> <p>第11週 教育相談② [教育相談の進め方] 【事例検討】</p> <p>第12週 事例に学ぶ① [不登校への対応] 【事例検討】</p> <p>第13週 事例に学ぶ② [いじめ問題への対応] 【事例検討】</p> <p>第14週 事例に学ぶ③ [児童虐待への対応] 【事例検討】</p> <p>第15週 地域で育つ子どもたち [子どもたちを見守る] 【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	討議テーマは事前に提示します。
成績評価	受講状況 50% 発言・討論・感想 50%
教科書	使用しない
備考	

科目名	教養講座①
単位数	1単位
担当教員	教養講座運営担当
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	教養教育科目の卒業必修科目である。内容は大きく3分野からなり、第1分野として日本の伝統の中で継承されてきた芸術・文化を知ること、第2分野として現代社会の状況を主体的に学ぶこと、第3分野としてコミュニケーションスキルを習得することを目的とし、期間中7回程度の授業を実施する。
到達目標	第1分野では伝統文化を理解するとともに豊かな情感を育むこと、第2分野では現代社会について理解を深め自らのキャリアと結びつけ主体的に学ぶこと、第3分野ではコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけることができる。
授業内容・方法	<p>○危機管理対策（春semester4月実施）</p> <p>○音楽の森</p> <p>○みどり祭（1日目）</p> <p>○みどり祭（2日目）</p> <p>※上記講座を含め、学科ごとに講座を全7回程度設定する。</p>
準備・発展学習	
成績評価	受講状況に基づき単位認定を行う。 講座によっては提出物課題を課すことがある。
教科書	使用しない。適宜資料を配付する。
備考	別途配布する「教養講座時間割」を参照し、出席すること。

科目名	人間と倫理
単位数	2単位
担当教員	飯田篤司
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	倫理学は単なる倫理・道徳的な態度表明ではなく、むしろそれらに対する批判の学問でもある。講義の前半では、倫理についての基本的な考え方を学び、後半では、より具体的な応用倫理学的事例にそって考察していきたい。単に既存の知識を学び取る以上に、「問うこと」、つまり世界や自分自身について自らの問題意識を持つことが要される。
到達目標	1、倫理学の基本分析概念を習得し、基本学説を理解説明できる。 2、応用倫理学における諸問題の基本を理解し、自己の意見を論理的に述べることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 倫理学の視座【講義】</p> <p>第2週 問題提起：複数の倫理的義務が相克する事例【討議】</p> <p>第3週 規範と根拠【講義】</p> <p>第4週 応用倫理学演習（1）パーソン論【討議】</p> <p>第5週 義務論：カント倫理学【講義】</p> <p>第6週 応用倫理学演習（2）生命科学倫理【討議】</p> <p>第7週 目的論：功利主義の倫理【講義】</p> <p>第8週 善悪とは：義務論と目的論の対比【講義】</p> <p>第9週 応用倫理学演習（3）自己決定権【討議】</p> <p>第10週 倫理学の限界：倫理多元主義と相対主義【講義】</p> <p>第11週 応用倫理学演習（4）死【討議】</p> <p>第12週 倫理学の展開：正義論と共同体論【講義】</p> <p>第13週 応用倫理学演習（5）環境倫理【討議】</p> <p>第14週 まとめ：倫理学の回顧と展望【論述】</p> <p>第15週 応用倫理学演習（6）持続可能性【討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	事前に配布する資料に目を通して概要を把握し、復習時にノートにまとめることが望ましい。
成績評価	授業内試験40%、課題提出40%、受講状況20%
教科書	指定せず、配布資料を用いて授業を進める。参考書については随時、授業中に指示する。
備考	授業で紹介する参考文献については、各人の関心に即して積極的に紐くことを勧めたい。

科目名	書道
単位数	2単位
担当教員	杉山勇人
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋 semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭、○保育士
授業概要	自己を投影する手書き文字の個性は、情報社会の中でかえって見直されつつある。文字を手で書くことは、すべての表現活動の基礎なのである。本授業では、古典臨書によって東アジアの漢字文化に触れつつ、毛筆技能の向上を目指す。また、コミュニケーションスキルとしての文字の美しさを磨くため、硬筆書写・実用書式の技能の向上を図る。
到達目標	1. 硬筆・毛筆の書写技能の基礎を習得する。 2. 日本・中国の文字文化について説明できるようになる。 3. 実用書式（手紙・はがきなど）を理解し、社会生活に応用できる。
授業内容・方法	<p>第1週 書くという行為、文字言語について、書道用具・用材の説明【講義】</p> <p>第2週 硬筆の歴史、ひらがな・漢字の基本字形(硬筆)【講義・実技】</p> <p>第3週 筆順テスト、行間・字間の整え方(硬筆)【講義・実技】</p> <p>第4週 国語科書写と芸術科書道、楷書の基本点画【講義・実技】</p> <p>第5週 毛筆書写の評価について、字形・配列の整え方【講義・実技】</p> <p>第6週 毛筆書写教材の制作【実技】</p> <p>第7週 漢字書体の変遷(殷～漢代まで)、臨書「泰山刻石」「曹全碑」【講義・実技】</p> <p>第8週 漢字書体の変遷(楷書体の成立)、臨書「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」【講義・実技】</p> <p>第9週 書聖・王羲之：臨書「蘭亭序」【講義・実技】</p> <p>第10週 和様漢字の生成：臨書「白楽天詩巻」【講義・実技】</p> <p>第11週 仮名の成立と発達：ひらがな単体、臨書「粘葉本倭漢朗詠集」【講義・実技】</p> <p>第12週 仮名の様式美：変体仮名、臨書「高野切古今集」【講義・実技】</p> <p>第13週 創作作品制作：色紙・短冊作品の制作【実技】</p> <p>第14週 冠婚葬祭の書式、熨斗袋・芳名録(毛筆細字)【講義・実技】</p> <p>第15週 手紙・はがきの書式について、履歴書の書き方(硬筆)【講義・実技】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	日常的に文字の筆順、筆記具の持ち方に注意を払うこと。毎回の授業で成果物提出を課すので、毛筆については自主的に練習することが望ましい。
成績評価	成果物提出60%、受講状況40%
教科書	教科書は使用しない。
備考	各自、毛筆用具・用材の準備が必要である。詳細は初回授業時に説明する。

科目名	日本国憲法
単位数	2単位
担当教員	鈴木正彦
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎小学校教諭, ◎幼稚園教諭
授業概要	日本国憲法は国の基本法、最高法規であり、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、三権分立など日本社会を根源的に形成する法原理の集合である。この授業では、人権論、統治機構論（国会・内閣・裁判所）という二つの次元から日本国憲法にアプローチし、学習する。
到達目標	①適切なリーガルマインドおよび人権意識の修養を目標とする。②公務員を志す学生には、将来必要となる公法および行政実務の知識を習得してもらう。③社会や公共に対する関心を深め、主権者としての熟議能力の向上を目指す。
授業内容・方法	<p>第1週 憲法学概要（立憲主義とは何か）【講義】</p> <p>第2週 大日本帝国憲法（明治憲法）および日本国憲法制定史【講義およびDVD視聴】</p> <p>第3週 象徴天皇制（憲法1～8条）【講義】</p> <p>第4週 平和主義（憲法9条）【講義およびDVD視聴】</p> <p>第5週 基本的人権総論（憲法12、13条）【講義】</p> <p>第6週 法の下での平等（憲法14条）【講義】</p> <p>第7週 思想・良心の自由、信教の自由（憲法18、19・89条）【講義】</p> <p>第8週 表現の自由（憲法21条）【講義およびテストの解説】</p> <p>第9週 人身の自由（憲法31条～40条）【講義】</p> <p>第10週 経済的自由（憲法22・29条）【講義】</p> <p>第11週 社会権（生存権、教育権、労働権）【講義】</p> <p>第12週 国会（憲法41～64条）【講義】</p> <p>第13週 内閣（憲法65～75条）【講義およびDVD視聴】</p> <p>第14週 裁判所（憲法76～82条）【講義】</p> <p>第15週 憲法改正など（憲法96条）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	各授業でレジュメ・論点整理を配布する。先行授業の理解を踏まえて授業が進展するので、毎回熟読しておくこと。
成績評価	授業内試験（小テスト2回）70%、受講状況30%
教科書	教科書なし
備考	中学校、高等学校の社会科・公民の知識を前提とする。

科目名	健康・スポーツ科学
単位数	2単位
担当教員	小川幸代
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎小学校教諭, ◎幼稚園教諭, ◎保育士
授業概要	現代社会における健康な体づくりとスポーツの関係について、最新のトピックと事例をもとに考察を行う。正しい知識を身に付け、日常生活において各自が実践できるようにする。
到達目標	1. 健康な体づくりになぜスポーツが必要であるのかを理解することができる。 2. 健康な体づくりを阻害する要因を分析し、その対処法について理解を深め、日常生活で実践できるようにする。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、健康概論【講義】</p> <p>第2週 健康と体力【講義】</p> <p>第3週 身体組成【講義】</p> <p>第4週 生活習慣病予防と運動【講義】</p> <p>第5週 スポーツ生理学【講義】</p> <p>第6週 トレーニング理論【講義】</p> <p>第7週 子どもの体力【講義】</p> <p>第8週 女性の体と健康【講義】</p> <p>第9週 健康と睡眠【講義】</p> <p>第10週 健康と栄養【講義】</p> <p>第11週 サプリメント、ダイエット【講義】</p> <p>第12週 健康と飲酒・喫煙【講義】</p> <p>第13週 メンタルヘルス【講義】</p> <p>第14週 応急処置と救急処置法【講義】</p> <p>第15週 現代医療と生涯スポーツ【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	自分の健康や体力に関心を持ち、学習した内容を実践する。
成績評価	受講状況50%、授業内試験30%、課題提出20%
教科書	教科書は使用しない。
備考	授業内容は、進行状況や要望などにより変更することがある。

科目名	スポーツ実技
単位数	1単位
担当教員	小川幸代・相藤康生・川上哲
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭, ○保育士
授業概要	生涯を通してスポーツに親しみ、健康な体づくりを实践するために、様々な運動種目に取り組む。各種目の基礎的技術の習得、ルールの理解を目指す。単に個人技術の習得にとどまらず、ペアあるいはチームで協力してゲームを行い、一体感・達成感を味わうことで仲間と共に体を動かす楽しさを知る。
到達目標	1. 新体力テストの結果分析から自分の体力の現状を知り、体力維持・増進を図る。 2. 基礎技術習得と共にルールを理解し、チームプレー（協調性）およびコミュニケーション能力を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、ストレッチ、バランスボールエクササイズ【講義・実技】</p> <p>第2週 新体力テスト1-5種目【実技】</p> <p>第3週 新体力テスト2-3種目【実技】</p> <p>第4週 バドミントン1-ラケット、シャトルワーク【実技】</p> <p>第5週 バドミントン2-ルールの理解、シングルのゲーム【実技】</p> <p>第6週 バドミントン3-ダブルスのゲーム【実技】</p> <p>第7週 バドミントン4-戦術の理解、ダブルスのゲーム【実技】</p> <p>第8週 バレーボール1-サーブ、アンダーハンドパスの技術【実技】</p> <p>第9週 バレーボール2-オーバーパスの技術【実技】</p> <p>第10週 バレーボール3-6人制ルールの理解【実技】</p> <p>第11週 バレーボール4-戦術の理解【実技】</p> <p>第12週 バスケットボール1-基本的なボールハンドリング【実技】</p> <p>第13週 バスケットボール2-パスワークとシュート【実技】</p> <p>第14週 バスケットボール3-ミニゲーム【実技】</p> <p>第15週 バスケットボール4-オールコート【実技】</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	バドミントン、バレーボール、バスケットボールのルールを復習しておくこと。
成績評価	受講状況 70%、実技 30%
教科書	教科書は使用しない。
備考	第1回目の授業より実技を行うため、運動着と室内用運動靴を用意すること。 毎回実技後に振り返りレポートを記入するので筆記用具を持参すること。

科目名	プレゼンテーション
単位数	1単位
担当教員	小林仁
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	情報化社会の進展に伴い、コンピュータおよびネットワークを利用することは、社会人として必須の素養となってきた。この授業では、社会人として求められるプレゼンテーション能力養成のため、文字・表・画像などを用いて効果的なプレゼンテーションを行う技術・態度を習得する。
到達目標	1. コンピュータを用いて文字・図・表などデジタルコンテンツを扱うことができる。 2. 発表に向けて構成を考えることができる。 3. 視覚的効果を考慮した分かりやすい資料で明確かつ意欲的に発表することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 Wordによる基本的な文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第2週 Wordによる表・グラフを活用した文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第3週 Wordによる図形描画を活用した文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第4週 Excelによる文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第5週 ExcelとWord連携による文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第6週 ExcelとWordを利用した課題文書の作成法 (パソコン演習)</p> <p>第7週 PowerPointの基本的なスライド作成法 (パソコン演習)</p> <p>第8週 PowerPointの表・グラフ・図形を使用したスライド作成法 (パソコン演習)</p> <p>第9週 PowerPointのアニメーションのあるスライド作成法 (パソコン演習)</p> <p>第10週 PowerPointによる課題スライド作成 (パソコン演習)</p> <p>第11週 PowerPointによる課題プレゼンテーションの発表検討 (パソコン演習・解説)</p> <p>第12週 ホームページ作成法の基礎 (パソコン演習)</p> <p>第13週 イメージ活用のホームページ作成法 (パソコン演習)</p> <p>第14週 課題ホームページの作成 (パソコン演習)</p> <p>第15週 課題ホームページの発表検討 (パソコン演習・解説)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	① 1年次受講の情報処理の復習。② 演習終了後レポートの提出を課す。
成績評価	課題提出 60%、 受講状況 40%
教科書	『情報科学のリテラシー』、平田浩一ほか著、日経BP社編、日経BP社
備考	

科目名	英語コミュニケーション①
単位数	1単位
担当教員	ブルース・パーディ・桐生直幸・太田一郎・松本美奈子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭, ○秘書士
授業概要	日常的シチュエーションや異文化に関する様々なトピックを扱ったテキストを通して、英語コミュニケーションの基礎表現を学び、また英語で身近な情報を伝える演習を行う。
到達目標	1. 日常的状況における基礎的英語コミュニケーション能力を獲得する。 2. 異文化に対する基礎的知識を獲得する。
授業内容・方法	<p>第1週 Introduction (英語学習)、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 Meeting new people 自己紹介【講義・DVD視聴】</p> <p>第3週 Meeting new people 現在形と疑問文・否定文【講義・演習】</p> <p>第4週 What does he look like? 人物描写【講義・演習】</p> <p>第5週 What does he look like? be動詞と一般動詞have【講義・演習】</p> <p>第6週 What are you doing? 相手の状態を尋ねる【講義・DVD視聴】</p> <p>第7週 What are you doing? 現在進行形【講義・演習】</p> <p>第8週 Body language and gestures 挨拶とジェスチャー【講義・演習】</p> <p>第9週 Body language and gestures 代名詞【講義・演習】</p> <p>第10週 At the supermarket 買い物の準備【講義・DVD視聴】</p> <p>第11週 At the supermarket 数えられる名詞と数えられない名詞【講義・演習】</p> <p>第12週 Let's go shopping! 市場での買い物【講義・演習】</p> <p>第13週 Let's go shopping! some/any/much/manyの使い分け【講義・演習】</p> <p>第14週 Review 練習問題及び総合復習【演習】</p> <p>第15週 In-class test 授業内試験【スピーキングテスト】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	付属CD-ROMを使い、各週の授業内容の復習をすること。
成績評価	受講状況 50%、授業内試験 50%
教科書	"World Link Combo Split 1A (2nd ed.)" by S. Stempleski et al., Heinle Cengage Learning.
備考	毎回、英語辞書を持参すること。

科目名	ドイツ語①
単位数	1単位
担当教員	長谷川岳男・福田喜一郎・渋谷繁明
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭
授業概要	哲学や歴史、文学、医学、音楽、近年では環境問題で優れた業績を産み出したドイツ文化の言語を、発音や文法を中心に、日本語との違いを示すことによりその理解を深めていく。そしてドイツ語に関心を抱くためにもドイツにある世界遺産に関するビデオなども活用していく予定である。
到達目標	1. 基礎的なドイツ語の文章を正確に発音し、理解できるようになる。 2. ドイツ語の特徴および文化を説明できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 インTRODクシヨン（ドイツ語とは？）・アルファベート【講義】</p> <p>第2週 Lektion 1（アルファベートと発音）【発音演習】</p> <p>第3週 Lektion 1（練習問題）【問題演習・小テスト】</p> <p>第4週 Lektion 2（動詞）【問題演習】</p> <p>第5週 Lektion 2（動詞の位置）【問題演習】</p> <p>第6週 Lektion 2（練習問題）【問題演習・小テスト】</p> <p>第7週 Lektion 3（冠詞と名詞）【問題演習】</p> <p>第8週 Lektion 3（人称代名詞と疑問代名詞）【問題演習】</p> <p>第9週 Lektion 3（練習問題）【問題演習・小テスト】</p> <p>第10週 Lektion 4（不規則動詞）【問題演習】</p> <p>第11週 Lektion 4（複数名詞と基数）【問題演習】</p> <p>第12週 Lektion 4（練習問題）【問題演習・小テスト】</p> <p>第13週 Lektion 5（定冠詞類・不定冠詞類）【問題演習】</p> <p>第14週 Lektion 5（従属の接続詞と動詞の位置）【問題演習】</p> <p>第15週 Lektion 5（練習問題）【問題演習・小テスト】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	必ず事前にCDを聞いて発音の予習し、また復習として課題や練習問題をやってくること。
成績評価	授業内試験・課題提出 70%、受講状況 30%
教科書	『新・行ってみたいドイツ』（西村佑子他）、郁文堂
備考	

科目名	フランス語①
単位数	1単位
担当教員	河合孝昭
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭
授業概要	未知の言語を学ぶことによって開かれる新たな世界は、みなさんの想像を超える新鮮な驚きを与えてくれるはず。フランス語の学習を通じてそうした新たな世界を発見しましょう。
到達目標	1. フランス語の単語や文を発音することができる。 2. フランス語の文の基本構造を理解することができる。 3. フランス語の最初級文法を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス・フランス語のアルファベ【解説と演習】</p> <p>第2週 フランス語の綴りと発音【解説と演習】</p> <p>第3週 フランス語の綴りと発音つづき【解説と演習】</p> <p>第4週 規則動詞直説法現在の活用【解説と演習】</p> <p>第5週 名詞の性と冠詞【解説と演習】</p> <p>第6週 否定文の作り方【解説と演習】</p> <p>第7週 疑問文の作り方【解説と演習】</p> <p>第8週 形容詞の性・数変化と位置【解説と演習】</p> <p>第9週 非人称構文【解説と演習】</p> <p>第10週 複合過去【解説と演習】</p> <p>第11週 命令文の作り方【解説と演習】</p> <p>第12週 直接目的語代名詞【解説と演習】</p> <p>第13週 疑問代名詞【解説と演習】</p> <p>第14週 まとめ【解説と質疑応答】</p> <p>第15週 授業内試験</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	復習に力を入れて下さい。準備学習が必要な場合は授業中に指示します。
成績評価	授業内試験60% 受講状況40%
教科書	曾我祐典著『フランス語初級 文のかたち』（第三書房） ※ 仏和辞典は最初の授業で紹介いたします。
備考	初めて学ぶ語学は、毎回出席することがとりわけ重要です。

科目名	理科
単位数	2単位
担当教員	降旗節夫
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋 semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	小学校理科では多くの自然現象や動植物の成長や行動に対し、疑問や見通しを持って野外観察や実験を行う。そこで、野外活動中、実験中の安全を確保するための実験方法や薬品の取り扱いについて事例を学び、また児童が主体的に自然を観察したり、実験機器を積極的に活用したりできるよう、観察実験法を学び、授業を立案する力を養う。
到達目標	①自然の面白さや不思議さを例を挙げ論じられる。②科学的な思考能力の育成と子どもたちへの正確な情報伝達法を創造できるようになる。③仮説の立て方とその検証法を学習し、確実な実験遂行能力を熟達させる。④実験中の事故防止策を工夫できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 自然哲学から近代科学へ「科学とは何か」【講義】</p> <p>第2週 力学とニュートンの運動法則について【演習問題】</p> <p>第3週 液体の力学（浮力やパスカルの原理）について【演習問題】</p> <p>第4週 電気とオームの法則について【演習問題】</p> <p>第5週 波（湖波、音波、光）について【実験・観察】</p> <p>第6週 気体の一般的な性質について【講義】</p> <p>第7週 安全な気体の発生、捕集、検出法について【講義・演習】</p> <p>第8週 水溶液の性質と陽イオンの分離法について【講義】</p> <p>第9週 動物の観察【フィールドワーク・観察】</p> <p>第10週 植物の観察【フィールドワーク・観察・演習】</p> <p>第11週 動物の成長・植物の生長【講義】</p> <p>第12週 宇宙と太陽系の誕生と進化【講義】</p> <p>第13週 地球から見た天体の運動【講義・計算】</p> <p>第14週 地球の構造と天候の推移【講義】</p> <p>第15週 理科、科学とは何か？【グループワーク】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	プリントの予習とノートの復習を行うこと。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題・成果物提出20%
教科書	必要に応じてプリントを配布する
備考	電卓、グラフ用紙、定規を用意すること。

科目名	言語表現
単位数	2単位
担当教員	小泉紀子・内藤貴子・渡邊晶
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	保育内容の領域「言葉」での学習を基盤に、グループによるディスカッションやペアワークや発表を通して、子ども達の「豊かな言葉」を育てる創造的な言語表現活動のプログラムづくりと指導法を学ぶ。
到達目標	1. 乳幼児の言葉の指導のあり方と発達段階に応じた具体的な指導方法を習得する。 2. 保育者となる自分自身の言葉を磨き、特に幼児に通じる「話し言葉」を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 領域「言葉」の概要 【講義・演習】</p> <p>第2週 言葉の獲得と発達段階：コミュニケーションに見る言葉の育ち【講義・演習】</p> <p>第3週 幼児の言葉を育てる児童文化財①：絵本①【講義・演習】</p> <p>第4週 幼児の言葉を育てる児童文化財②：絵本②【演習】</p> <p>第5週 幼児の言葉を育てる児童文化財③：ペープサート①【講義・演習】</p> <p>第6週 幼児の言葉を育てる児童文化財④：ペープサート②【演習】</p> <p>第7週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑤：ペープサート③【演習】</p> <p>第8週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑥：素話①【講義・演習】</p> <p>第9週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑦：素話②【演習】</p> <p>第10週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑧：紙芝居①【講義・演習】</p> <p>第11週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑨：紙芝居②【演習】</p> <p>第12週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑩：紙芝居③【演習】</p> <p>第13週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑪：劇あそび・人形劇①【講義・演習】</p> <p>第14週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑫：劇あそび・人形劇②【演習】</p> <p>第15週 幼児の言葉を育てる児童文化財⑬：劇あそび・人形劇③【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	事前に内容に即した課題を出し、次回の授業日に提出する。
成績評価	課題提出40%、発表40%、受講状況20%
教科書	教科書は指定せず、授業開始時に授業のポイント、授業内容に関するプリントを配布する。
備考	各自必要に応じ、絵本や紙芝居、ペープサートの用意をすること。

科目名	保育者論
単位数	2単位
担当教員	札本晃子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	「保育者になる」とはどのようなことを考え「保育者の役割と倫理」「保育者の法的位置づけ」「保育者の専門性」「保育者の協働」「保育者の専門的成長」について、実際の保育場面と関連付けながら学ぶ。
到達目標	保育者の専門性とは何かを考え、どのような保育者になりたいか、また、どのような保育者が求められているかなどがわかり、自分のめざす保育者像が説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 保育者になるということ【講義】</p> <p>第2週 保育者の仕事①…保育所、幼稚園【講義】</p> <p>第3週 保育者の仕事②…児童福祉施設、子育て支援センター【講義】</p> <p>第4週 保育者になるための学び…保育士資格、幼稚園教諭免許状【講義】</p> <p>第5週 保育者に求められる資質①…求められる資質と倫理【講義・討議】</p> <p>第6週 保育者に求められる資質②…学び合い、学び続ける保育者【講義・討議】</p> <p>第7週 子どもの育ちの危機と子育て支援①…子育て環境と育ちの変化【講義・討議】</p> <p>第8週 子どもの育ちの危機と子育て支援②…子育て支援と保育者の役割【講義・討議】</p> <p>第9週 現代社会の変化と保育者の課題①…保護者との信頼関係【講義・討議】</p> <p>第10週 現代社会の変化と保育者の課題②…地域社会、異文化の理解【講義・討議】</p> <p>第11週 現代社会の変化と保育者の課題③…特別支援教育（保育）【講義・討議】</p> <p>第12週 保育者の職務と生活…権利と研修、法的根拠【講義】</p> <p>第13週 日本の保育者のあゆみ【講義】</p> <p>第14週 保育者としての成長とキャリア形成【講義・討議】</p> <p>第15週 求められる保育者とめざす保育者【講義・討議】</p> <p>定期試験等 実施しない</p>
準備・発展学習	様々な保育に関する報道等に関心を持つこと、学んだことを整理しておくこと
成績評価	課題の提出80%、受講状況20%
教科書	『今に生きる 保育者論』 秋田喜代美
備考	

科目名	子どもの食と栄養
単位数	2単位
担当教員	加藤千和子・中丸ちづ子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	乳幼児の特徴である発育・発達期の栄養を保育者の視点で学ぶ。子どもの食環境や食行動を理解し実践の保育活動における基礎と現状を学び、将来の生活習慣病の予防や食に関する問題行動についても理解を深める。子どもの健康づくりの支援ができるスキルを身につけて食育を実践できる授業を進める。
到達目標	1. 子どもの食に関する課題を理解して、食生活の支援する発言ができる。 2. 食育活動に関する資料や媒体を作成して活用ができる。
授業内容・方法	<p>第1週 小児の栄養と食生活の意義(食生活の基礎)</p> <p>第2週 発育・発達と小児の食生活(栄養と食べる機能)</p> <p>第3週 栄養と食事の基礎(栄養と代謝、食品と栄養)</p> <p>第4週 栄養と食事の基礎(食事摂取基準、食品の選択)</p> <p>第5週 妊娠・授乳期の栄養(妊娠期、授乳期の栄養管理)</p> <p>第6週 乳児期の栄養と食生活(発育発達期の特性、乳汁栄養)</p> <p>第7週 乳児期の栄養と食生活(離乳食の役割、栄養の問題)</p> <p>第8週 幼児期の栄養と食生活(栄養と食生活の特性)</p> <p>第9週 幼児期の栄養と食生活(間食、食行動の問題)</p> <p>第10週 学童期・思春期の栄養と食生活(食生活の特性と問題)</p> <p>第11週 病気の時の栄養と食生活(予防と健康管理、病気と栄養管理)</p> <p>第12週 障害のある小児と食事と食生活(障害児の食生活)</p> <p>第13週 児童福祉施設の栄養と食生活(保育所給食の栄養と食環境)</p> <p>第14週 食育(栄養教育、食育の実際)</p> <p>第15週 食文化と行事食(子どもの行事)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	授業では講義と課題については演習形式ですすめるので予習をしておく。
成績評価	試験(筆記試験)50%、成果物提出30%、受講状況20%
教科書	子どもの栄養と食生活 第4版 高野陽 共著 医歯薬出版
備考	初回に受講方法、課題、テストについて説明

科目名	子どもの食と栄養実習
単位数	1単位
担当教員	佐原勝代
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	貴女の食生活の見直しをとおして望ましい母親の食生活を考える。将来、保育者として成長期の子どもの発育や発達を支援するためにも、子どもに大きな影響を与える保護者に「食生活と栄養」の望ましい情報を伝えるためにも、必要とされる知識や技術を修得してほしい。
到達目標	1. 自分の食生活を客観的に把握できる。修正できる。 2. 子どもの成長や発達に適した食生活の支援ができる。 3. 子どもや保護者に解り易い楽しい食育教材が作成できる。
授業内容・方法	<p>第1週 自分の身体が必要とする栄養量を知る。電卓使用 【演習】</p> <p>第2週 自分の食生活を客観的にみる。(栄養計算の仕方を学ぶ) 電卓と食品成分表使用 【演習】</p> <p>第3週 自分の食生活を客観的にみる。(結果と評価) 電卓と食品成分表使用 【演習】</p> <p>第4週 妊婦や授乳婦、周囲のおとなが子どもに与える影響について 【グループワーク】</p> <p>第5週 胎児の成長発達。自分の食事と妊婦及び授乳期の食事の違いを比較する。 【演習】</p> <p>第6週 乳汁栄養、哺乳瓶の消毒と調乳。試飲 【実習】</p> <p>第7週 口腔機能の発達と哺乳、離乳食の進め方。障害児の食事介助 【実習】</p> <p>第8週 味覚検査。離乳食(2回食・3回食)の調理と試食 【実習】</p> <p>第9週 18か月児の食事。調理と試食 【実習】</p> <p>第10週 食事バランスガイドの活用。3歳～5歳児の食事。調理と試食 【実習】</p> <p>第11週 指導目的に適した教育媒体の立案、計画案の作成 【講義】</p> <p>第12週 食育媒体の立案、計画案 【実習】</p> <p>第13週 食育教材の作成 【実習】</p> <p>第14週 食育教材の発表 【評価1】</p> <p>第15週 食育教材の発表 【評価2】又は簡単な手作りおやつ 【実習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	よくわかる楽しい食育教材作成のために感性を磨いておく。
成績評価	発表50% 提出物30% 受講姿勢20%
教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する
備考	調理実習時はエプロンと三角巾(バンダナ)持参。食品成分表は図書室で貸出あり。授業時間等の関係により料理は試食程度。

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
単位数	1単位
担当教員	寶川雅子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）は、保育士資格を取得するための大切な経験である。授業では、既習教科目での内容を基礎とし、更に実習の意義、実習内容や実習生としての心構え、計画、記録の書き方や振り返りなど、実習Ⅰ（保育所）を行うために必要な内容を総合的に学べるよう授業を行う。
到達目標	保育実習Ⅰ（保育所）の意義と目的を把握し、実習の内容と課題を明確にすることができるようになる。保育実習における留意事項を理解し、実行に移せるようになる。記録の書き方や計画の立て方などにおいて実践できる能力を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 保育実習Ⅰ（保育所）の意義（実習の目的と概要）【演習】</p> <p>第2週 保育所的一天（保育所の機能、保育士の役割、乳幼児の生活）【演習】</p> <p>第3週 保育実習Ⅰ（保育所）の内容と課題【演習】</p> <p>第4週 保育実習Ⅰ（保育所）に際しての留意事項（守秘義務、子どもの人権等）【演習】</p> <p>第5週 実習の計画と記録（指導案の作成と実践）【演習】</p> <p>第6週 事後指導における実習の総括と新たな課題への取り組み方【演習】</p> <p>第7週 実習に向けて個々の課題への取り組み【演習】</p>
定期試験等	定期試験は実施せず。
準備・発展学習	保育所保育指針、実習日誌、実習要綱を読むこと。授業内容を必ず復習すること。
成績評価	可否により評価。全回出席が条件。
教科書	なし
備考	適宜資料を配布。第1回目授業で持ち物を伝えます。

科目名	保育実習指導Ⅲ（児童厚生施設等）
単位数	1単位
担当教員	豊倉厚
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○保育士，◎児童厚生員
授業概要	11日間以上の児童厚生施設等での実習にあたり、児童厚生施設の目的や役割について、また子育てや、子育て支援の具体的プログラム、地域連携のあり方等について学ぶ。
到達目標	①児童厚生施設の役割、機能②保育士（児童厚生員）の業務内容や職業倫理。③子育て、子育て支援のための知識、技術、判断力。④児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解。以上についての理解を深め、自己の課題を明確にする。
授業内容・方法	<p>第1週 子育て・子育て支援の必要性</p> <p>第2週 児童厚生施設等（保育所）の役割と機能</p> <p>第3週 子育て、子育て支援のための知識、技術【ワークショップ・子ども理解と課題の発見】</p> <p>第4週 児童福祉法、児童館ガイドライン</p> <p>第5週 児童家庭福祉及び社会的養護【ワークショップ・支援を必要とする子どもへの対応】</p> <p>第6週 保育士（児童厚生員）の多様な業務と職業倫理（人権、安全管理、保健衛生、地域連携）</p> <p>第7週 保育士（児童厚生員）としての自己課題の整理（児童館実習の実際と留意点）</p>
定期試験等	実施せず
準備・発展学習	既習の教科内容を把握しておくこと
成績評価	受講状況40%、実習への意欲30%、課題の把握30%
教科書	「児童館の機能と運営」 財団法人児童健全育成推進財団
備考	

科目名	教職概論（同和教育を含む）
単位数	2単位
担当教員	山崎久男・渡辺浩
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	教育の目的や服務等について、法令や関係資料から読み取る。今日的な教育課題を分析し、求められる教師像を考察する。児童・生徒指導の重要性を認識し、相談・指導技術を高める。教師としての自分の将来像や取組課題を明確化する。
到達目標	1、教育理念、指導観、子ども観などを考察し、教師としての態度を身に付けることができる。 2、教育の今日的課題を整理し、改善の方途を例示することができる。 3、教師としての将来像を明確化し、論述することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育の目的・目標について、法令を基に内容を分析する。【講義】</p> <p>第2週 教職の特質や服務についての考察を基に協議する。【講義・協議】</p> <p>第3週 教育課程実施上の配慮事項の個々の主旨をとらえる。①【講義・演習】</p> <p>第4週 教育課程実施上の配慮事項と生きる力の関連を分析する②【講義・演習】</p> <p>第5週 学校経営と校務の意義を理解し、組織的活動の重要性について協議する。【講義・協議】</p> <p>第6週 学級経営の目的・意義を理解し、学級経営案（模擬）を作成する。【講義・演習】</p> <p>第7週 教師の力量形成と教材研究の視点について考察する。【講義】</p> <p>第8週 教科等指導の実際を知り、授業研究（模擬）を行う。【講義・演習】</p> <p>第9週 児童・生徒指導の重要性を認識し、教育相談ロールプレイを行う。【講義・演習】</p> <p>第10週 学校の危機管理体制を理解し、不審者対策の模擬体験を行う。【講義・演習】</p> <p>第11週 人権・同和問題を「見抜く」演習を行い、改善の行動化を協議する。【演習】</p> <p>第12週 学校が果たす人権・同和教育の現状と課題を知り、その重要性を認識する。【講義】</p> <p>第13週 これからの学校・教師の社会的役割を考察する。【講義】</p> <p>第14週 求められる教師像について論述する。【講義・演習】</p> <p>第15週 基本研修や自主研修の重要性を認識し、資質向上の今後の取組を考察する。【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	教育課題について、事前に考えをメモなどにまとめておく。事後に、返却されたワークシートなどの手直しをして、今後の取組課題を明確にしておく。
成績評価	授業内試験60%、課題作文・受講状況等40%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 必要に応じて配布する資料・プリント
備考	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容を手がかりに、教職の心構えや今後の取組課題について思索を深める。 配布資料やワークシート等をポートフォリオ（ファイル）にまとめる。

科目名	カリキュラム論 I
単位数	2単位
担当教員	佐藤康富
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士
授業概要	教育・保育課程の意義や編成原理を理解するとともに、指導計画の作成や保育の計画、実践、省察、改善の過程についても具体的に学んでいく。また、就学前と小学校の教育をつなぐカリキュラムや要録についても触れていく。
到達目標	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2. 教育・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3. 計画、実践、省察、改善の過程を動的にとらえ、理解する。
授業内容・方法	<p>第1週 カリキュラムとは 【講義】</p> <p>第2週 教育・保育課程と指導計画 【講義】</p> <p>第3週 保育の改善と自己評価 【講義】</p> <p>第4週 指導計画と行事 【講義・演習】</p> <p>第5週 保育者の援助と幼児理解 【講義・演習】</p> <p>第6週 教育・保育課程の編成 【講義】</p> <p>第7週 指導計画（長期的・短期的） 【講義】</p> <p>第8週 指導計画の作成と指導上の留意点① 【講義・演習】</p> <p>第9週 指導計画の作成と指導上の留意点② 【講義・演習】</p> <p>第10週 指導案の作成① 【講義・演習】</p> <p>第11週 指導案の作成② 【講義・演習】</p> <p>第12週 指導案を使った模擬保育①【演習】</p> <p>第13週 指導案を使った模擬保育②【演習】</p> <p>第14週 幼保小連携とスタートカリキュラム【講義】</p> <p>第15週 保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録【講義と演習】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	準備学習については告知し事前に調べておく。また、復習のための小テストを実施する。
成績評価	授業内試験50%、課題提出30%、受講状況20%
教科書	保育所保育指針と幼稚園教育要領
備考	

科目名	カリキュラム論Ⅱ
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	教育の現場では、教師に教育課程（カリキュラム）のデザイン力や各学校の創意工夫が求められる時代になってきている。講義では、カリキュラムの概念や小学校学習指導要領に基づく基本的な知識を学ぶとともに、確かな教育理念や原理を具現化する教育課程の編成や教育活動の取り組みについて考える。
到達目標	1. 教育課程の意義と編成のあり方についての理解し、小学校の教育課程を説明できる。 2. 教育課程編成のための基礎的な能力や方法原理・評価方法の習得し、よいカリキュラムづくりに協調することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育課程（カリキュラム）の意義【講義】</p> <p>第2週 教育課程の類型、かくれたカリキュラム【講義】</p> <p>第3週 小学校教育課程の編成と方法原理【講義】</p> <p>第4週 教育課程編成の基本課題1：活動・体験、教科、特別活動、道徳、外国語活動【講義】</p> <p>第5週 教育課程編成の基本課題2：活動・幼・小・中連携のカリキュラム【演習：デザイン】</p> <p>第6週 教育課程編成の基本課題3：情報化、環境教育、国際理解教育、人権教育【講義】</p> <p>第7週 子どもの学力形成と教科教育の課題【講義】</p> <p>第8週 教育課程全体の道徳化：道徳教育の充実【講義】</p> <p>第9週 健康や体力に関する指導の充実と教育課程【講義】</p> <p>第10週 個に応じた指導の趣旨を生かした教育課程【講義】</p> <p>第11週 総合的な学習のカリキュラム開発【講義・演習：デザイン】</p> <p>第12週 家庭（保護者）・地域との連携を考える教育課程【講義】</p> <p>第13週 教育課程のデザイン①ビジョン構想について【講義・演習：ビジョンづくり】</p> <p>第14週 教育課程のデザイン②経営の展望について【講義・発表：ビジョン構想・経営】</p> <p>第15週 教育課程評価について【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において実施されている特色ある教育活動について、情報収集を行う。 ・学校（母校・実習校）の教育課程について調べ、その観点を分析し発表する。
成績評価	受講状況30%、課題提出40%、演習・発表30%
教科書	『小学校学習指導要領』文部科学省、東京書籍
備考	小学校の教育課程を通して、そのねらいや方法原理について学び、各自のカリキュラムデザインや経営ビジョンを構想する。

科目名	算数科教育法
単位数	2単位
担当教員	石田淳一
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	1時間の算数の授業を創るための教材解釈、教材構成を行う際の視点について検討する。主として、題材のもつ数学的価値を学習価値に転化する方略や方策と算数科の学習指導案の書き方について講義、演習を行う。
到達目標	現在の児童生徒の学力の現状と過去の優れた授業を参考にしながら、1時間の算数の授業を想定し、その学習指導案を書くことができる。また、算数科の教師としての授業展開の力量を高めるとともに、実践研究の方法を学ぶ。
授業内容・方法	<p>第1週 授業の概要の説明、改訂学習指導要領の背景と概要【講義】</p> <p>第2週 現在指摘されている「新しい学力低下問題」【講義・演習】</p> <p>第3週 学問としての数学の価値、わが国の算数数学教育の変遷【講義】</p> <p>第4週 算数科の内容の理解①【講義・演習】</p> <p>第5週 算数科の内容の理解②【講義・演習】</p> <p>第6週 算数科の内容の理解③【講義・演習】</p> <p>第7週 算数科の内容の理解④【講義・演習】</p> <p>第8週 教育の実践研究の枠組みとその実際、学力向上を促す教材構成【講義】</p> <p>第9週 算数科の学習指導案と授業展開の実際①【講義】</p> <p>第10週 算数科の学習指導案と授業展開の実際②【講義】</p> <p>第11週 学習指導案を書く①【演習】</p> <p>第12週 学習指導案を書く②【演習】</p> <p>第13週 算数科の授業展開の諸技術①【講義・演習】</p> <p>第14週 算数科の授業展開の諸技術②【講義・演習】</p> <p>第15週 まとめ【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	
成績評価	講義や演習への取り組み60%、学習指導案やレポートの内容40%
教科書	教科書なし
備考	

科目名	音楽科教育法
単位数	2単位
担当教員	坂田映子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	学生が、小学校音楽科の授業ができるようになるために必要な音楽科教育の目標・内容について理解する。また、必要な指導案の作成、実技、模擬授業などを通して実際の授業について学ぶ。
到達目標	1 小学校音楽科の指導内容全般について知る。 2 音楽科の学習指導方法、学習評価方法について知る。 3 学習指導案を書けるようにする。 4 歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞について実際の模擬授業を通して体得する。
授業内容・方法	<p>オリエンテーション（音楽科教育の実際を視聴、受講内容の共有とグルーピング）</p> <p>第1週</p> <p>第2週 小学校学習指導要領音楽を概観する。</p> <p>第3週 歌唱分野、共通教材と歌唱指導法Ⅰ（1・2・3年）</p> <p>第4週 歌唱分野、共通教材と歌唱指導法Ⅱ（4・5・6年）</p> <p>第5週 器楽分野の指導法</p> <p>第6週 音楽づくり分野の指導法</p> <p>第7週 鑑賞領域の指導</p> <p>第8週 〔共通事項〕についての理解</p> <p>第9週 音楽科の学習評価</p> <p>第10週 音楽科指導案の形式と作成のし方</p> <p>第11週 児童音楽会の指揮法</p> <p>第12週 模擬授業（歌唱）の実施とワークショップ</p> <p>第13週 模擬授業（器楽・音楽づくり）の実施とワークショップ</p> <p>第14週 模擬授業（鑑賞）の実施とワークショップ</p> <p>第15週 まとめ</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	各回、OPとして事前に選曲をしたものの譜読みをしてくる。 各回、講義終了後振り返りカードを書く。
成績評価	学習指導案（30%）模擬授業（30%）授業への意欲・態度（振り返りカード）（40%）
教科書	最新初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領解説音楽編（文部科学省）
備考	OPとはオープニングパフォーマンスを指し、授業の始まりに8分程度演奏や鑑賞をする。音楽科学習に慣れる手法として実施する。

科目名	図画工作科教育法
単位数	2単位
担当教員	山成美穂
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	「小学校学習指導要領図画工作科」の内容理解と、図画工作における実践的な指導方法を、総合的に身につける事を目標とする。また、発達段階に応じた年間指導計画と学習指導案を作成する能力を身につけ、図画工作における成績評価のあり方について学習する。
到達目標	1：図画工作科の目的を理解し、授業計画を作成できるようになること。 2：発達段階に応じた授業の工夫や、指導上の留意点について具体的な理解を深めること。 3：図画工作科で使用される道具の基本的な知識と扱い方を学習すること。
授業内容・方法	<p>第1週 図画工作科の授業内容と授業実践について</p> <p>第2週 図画工作科の目的と役割：学習指導要領の理解</p> <p>第3週 図画工作科の歴史</p> <p>第4週 学年に応じて扱われる素材・材料・道具</p> <p>第5週 授業演習① 平面制作について</p> <p>第6週 授業演習② 平面制作について</p> <p>第7週 授業演習③ 立体制作について</p> <p>第8週 授業演習④ 立体制作について</p> <p>第9週 授業演習⑤ 造形あそびについて</p> <p>第10週 授業演習⑥ 鑑賞の授業について</p> <p>第11週 年間指導計画の作成</p> <p>第12週 学習指導案の作成</p> <p>第13週 児童の発達段階に応じた指導法</p> <p>第14週 評価の考え方と方法・観点別評価</p> <p>第15週 図画工作科の授業実践における工夫：授業をつくるということ</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	小学校学習指導要領解説図画工作科編（文部科学省）を一読しておくことが望ましい
成績評価	受講状況60%、課題提出40パーセント
教科書	小学校学習指導要領解説図画工作科編（文部科学省） 図画工作3・4年上下（日本文教出版）
備考	演習等、事前準備が必要な材料・用具は、一回前の授業時までに指示する。 授業内レポート作成及び提出があるため、欠席に注意すること。

科目名	保育内容演習健康
単位数	2単位
担当教員	長澤英子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士, ◎児童厚生員
授業概要	領域「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。保育者としてこれらの内容について学習し、保育者が行う援助や関わり、子どもの発達援助に必要な知識と技能を習得する。
到達目標	1. 乳幼児期の心と体の発達、発育についての知識を身につける。 2. 子どもの運動遊びの重要性を理解し、援助できるようになる。 3. 子どもが身に付けておくべき基本的な生活習慣や安全への知識について習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 保育内容と領域「健康」 【講義】</p> <p>第2週 子どもの心と体 【講義】</p> <p>第3週 基本的な生活習慣の形成 【講義】</p> <p>第4週 「食」と健康 【講義】</p> <p>第5週 運動会について 【講義】</p> <p>第6週 安全管理と安全教育 【講義・演習】</p> <p>第7週 用具を使う運動遊びと園庭環境 【講義・演習】</p> <p>第8週 集団・ルールのある遊び（鬼遊び） 【講義・演習】</p> <p>第9週 集団・ルールのある遊び（ボール遊び・縄跳び） 【講義・演習】</p> <p>第10週 イメージに誘われる体の動き（表現遊び） 【講義・演習】</p> <p>第11週 園外活動・宿泊体験について 【講義】</p> <p>第12週 親子で楽しむ運動遊び 【講義・演習】</p> <p>第13週 季節の運動遊び（水遊び・プール指導、雪上遊び） 【講義】</p> <p>第14週 運動遊びの計画と指導案の作成 【講義・演習】</p> <p>第15週 運動遊びの指導案の発表 【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針を読み、理解すること。
成績評価	課題提出50%、発表・実践30%、受講状況20%
教科書	『保育内容「健康」岸井慶子編、大学図書出版、2009』
備考	これまで学んだ保育に関する授業の内容を復習しておくこと。

科目名	保育内容演習健康
単位数	2単位
担当教員	瀬川真寿美
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士, ◎児童厚生員
授業概要	領域「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。保育者としてこれらの内容について学習し、保育者が行う援助や関わり、子どもの発達援助に必要な知識と技能を習得する。
到達目標	1. 乳幼児期の心と体の発達、発育についての知識を身につける。 2. 子どもの運動遊びの重要性を理解し、援助できるようになる。 3. 子どもが身に付けておくべき基本的な生活習慣や安全への知識について習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 保育内容と領域「健康」【講義】</p> <p>第2週 子どもの心と体【講義】</p> <p>第3週 基本的な生活習慣の形成【講義】</p> <p>第4週 「食」と健康【講義】</p> <p>第5週 運動会について【講義】</p> <p>第6週 安全管理と安全教育【講義・演習】</p> <p>第7週 用具を使う運動遊びと園庭環境【講義・演習】</p> <p>第8週 集団・ルールのある遊び（鬼遊び）【講義・演習】</p> <p>第9週 集団・ルールのある遊び（ボール遊び・縄跳び）【講義・演習】</p> <p>第10週 イメージに誘われる体の動き（表現遊び）【講義・演習】</p> <p>第11週 園外活動・宿泊体験について【講義】</p> <p>第12週 親子で楽しむ運動遊び【講義・演習】</p> <p>第13週 季節の運動遊び（水遊び・プール指導、雪上遊び）【講義】</p> <p>第14週 運動遊びの計画と指導案の作成【講義・演習】</p> <p>第15週 運動遊びの指導案の発表【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	受講内容を、保育の現場で役立つ知識となるように理解しておくこと。
成績評価	課題提出50%、受講状況30%、発表・実践20%
教科書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
備考	

科目名	保育内容演習人間関係
単位数	2単位
担当教員	原孝成・小山容子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋セメスター
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭，◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらいと内容について解説を行う。そして、乳幼児の社会性の発達をふまえて、保育者としての子どもに対する援助のあり方を習得できるよう演習を行っていく。
到達目標	1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「人間関係」について説明できる 2. 保育における人的環境としての保育者の役割について記述することができる 3. 子どもの人間関係の発達について記述することができる
授業内容・方法	<p>第1週 「人間関係」の目標とねらい：幼稚園教育要領における「人間関係」【講義】</p> <p>第2週 「人間関係」の目標とねらい：保育所保育指針における「人間関係」【講義】</p> <p>第3週 子どもをとりまく世界（家族，社会）【演習】</p> <p>第4週 人間関係の発達1：0～3歳未満児【講義・演習】</p> <p>第5週 人間関係の発達2：3，4歳児【講義・演習】</p> <p>第6週 人間関係の発達3：5歳児【講義・演習】</p> <p>第7週 人とかかわる力を育む保育1：信頼関係を基盤とした人とかかわり【演習】</p> <p>第8週 人とかかわる力を育む保育2：自我の芽生え【演習】</p> <p>第9週 人とかかわる力を育む保育3：遊びと生活の中で人とかかわりを育てる【演習】</p> <p>第10週 人とかかわる力を育む保育4：トラブルの中で成長するもの【演習】</p> <p>第11週 人とかかわる力を育む保育5：道徳性の芽生え【演習】</p> <p>第12週 人とかかわる力を育む保育6：協同する経験を重ねる【演習】</p> <p>第13週 人とかかわる力を育む保育7：特別なニーズをもつ子どもへの対応【演習】</p> <p>第14週 人とかかわる力を育む保育8：幼稚園・保育所から小学校へつなぐ【演習】</p> <p>第15週 まとめ：保育における「人間関係」【課題作成】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	実習などの機会を通して子どもをよく観察し，子どもの人とかかわりの様子を理解するように努めてください。
成績評価	課題提出40%，授業内試験30%，受講状況30%
教科書	『新保育シリーズ 保育内容 人間関係』，友定啓子・小田豊（編著），光生館
備考	幼稚園教育要領・保育所保育指針を各自準備してください。

科目名	保育内容演習環境
単位数	2単位
担当教員	松橋圭子・難波有三・野津直樹
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士, ◎児童厚生員
授業概要	幼児を取り巻く自然環境、物的環境、人的環境について学び、その中で、どのように環境に出会わせていくかを理解する。また、教材をもとにどのように援助したらよいかを演習やグループワークを通して学ぶ。
到達目標	1. 領域「環境」の基礎的な知識を理解する。 2. 保育者としての援助の仕方を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 保育における環境とは 【講義】</p> <p>第2週 領域「環境」について 【講義】</p> <p>第3週 子どもの発達と環境にかかわる力 【講義】</p> <p>第4週 自然・素材とのかかわり（紙皿）【講義・演習】</p> <p>第5週 自然・素材とのかかわり（小麦粉粘土）【講義・演習】</p> <p>第6週 身近な素材を生かした遊び 【講義・演習】</p> <p>第7週 文字環境・数字とのかかわり 【講義】</p> <p>第8週 季節・行事とのかかわり 【講義・演習】</p> <p>第9週 領域「環境」と保育実践 地域とのかかわり 【講義・演習】</p> <p>第10週 領域「環境」と保育実践（環境マップリサーチ）【演習】</p> <p>第11週 領域「環境」と保育実践（環境マップ製作）【演習】</p> <p>第12週 領域「環境」と保育実践（環境マップ発表）【演習】</p> <p>第13週 乳幼児期の安全環境 【講義】</p> <p>第14週 領域「環境」の指導案の立案 【講義・演習】</p> <p>第15週 領域「環境」の指導案の発表 【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	1年次受講の保育・教育原理の復習。
成績評価	課題提出50%, 発表・演習30%、受講状況20%
教科書	無藤隆編著『保育内容環境』大学図書出版
備考	

科目名	保育内容演習言葉
単位数	2単位
担当教員	小山容子・塚崎京子・山崎和子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士, ◎児童厚生員
授業概要	乳幼児期の子どものことばの育ちを理解し、ことばで表現すること、相手の話を聞こうとする態度を育む大切さを学ぶ。保育や生活の中でことばが豊かに育つための知識を習得し、保育者としての援助方法や環境構成について学ぶ。
到達目標	1. 領域「言葉」の基礎的な知識を理解する。 2. 言葉の育ちを支える保育者としての援助の仕方を知る。 3. 児童文化財の知識・技能を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもにとっての言葉 【講義】</p> <p>第2週 領域「言葉」（保育所保育指針・幼稚園教育要領） 【講義】</p> <p>第3週 乳児期の言葉の発達① 【講義・演習】</p> <p>第4週 乳児期の言葉の発達② 【講義・演習】</p> <p>第5週 幼児期の言葉の発達 【講義・演習】</p> <p>第6週 子どもの聞く力・話す力 【講義・演習】</p> <p>第7週 子どもの書き言葉（文字） 【講義・演習】</p> <p>第8週 言葉を育む児童文化財 【講義・演習】</p> <p>第9週 絵本と紙芝居 【講義・演習】</p> <p>第10週 絵本と紙芝居の発表【演習】</p> <p>第11週 パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート 【講義・演習】</p> <p>第12週 パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート 【演習】</p> <p>第13週 領域「言葉」と指導計画、指導案作成 【講義・演習】</p> <p>第14週 保育者の言葉 【講義・演習】</p> <p>第15週 言葉をめぐる問題 【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験を実施せず</p>
準備・発展学習	乳幼児の言語環境や絵本などに興味・関心を持ち、受講すること。
成績評価	課題提出50%、発表30%、受講状況20%
教科書	幼稚園教育要領・保育所保育指針
備考	

科目名	保育内容演習表現
単位数	2単位
担当教員	東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭, ◎保育士, ◎児童厚生員
授業概要	表現領域における音楽表現と造形表現の特性を理解し、保育活動の中で必要な知識と技術を学ぶ。オリジナルの教材を制作し、保育における教材研究の意義を考察する。また、子どもの表現活動の援助のあり方や、音楽・造形に関する教材の扱い方の理解を深める。
到達目標	1. 子どもの発達をふまえた表現活動の指導ができるようになる。2. 子どもの表現活動に必要な知識と技能を身につけ、制作・演奏に応用することができる。3. 子どもの経験や表現活動と音楽・造形を結びつけるための指導法、展開の仕方を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 領域「表現」における幼児期の造形活動、技法あそび【講義・演習】</p> <p>第2週 歌の絵本を作る① 導入（制作の考え方と手順の理解、構想を練る）【制作】</p> <p>第3週 歌の絵本を作る② 技法遊びを組み合わせる制作①【制作】</p> <p>第4週 歌の絵本を作る③ 技法遊びを組み合わせる制作②【制作】</p> <p>第5週 歌の絵本を作る④ 技法遊びを組み合わせる制作③【制作】</p> <p>第6週 歌の絵本を作る⑤ 仕上げと装丁【制作】</p> <p>第7週 領域「表現」における幼児期の音楽活動、音楽あそび【講義・演習】</p> <p>第8週 歌唱表現 季節の歌と生活の歌の演奏【演習】</p> <p>第9週 歌唱表現 子どもに語りかけるように歌う技術の取得【演習】</p> <p>第10週 伴奏表現 歌の絵本を引き立てるための伴奏法【演習】</p> <p>第11週 創作音楽 音作り・メロディ作り【演習】</p> <p>第12週 創作音楽 伴奏のリズム作り【演習】</p> <p>第13週 歌の絵本発表① 発表の準備（絵本と伴奏のアンサンブル）【演習】</p> <p>第14週 歌の絵本発表② 作品発表【発表】</p> <p>第15週 歌の絵本発表③ 作品発表【発表】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	事前の材料・用具の確認および歌と伴奏の練習。学んだ知識と技術の整理と復習。
成績評価	受講状況50%、成果物提出20%、発表30%
教科書	造形表現分野は適宜資料プリントを配布。「図画工作①」で使用した教科書も用いる。音楽表現分野は音楽①で使用した教科書を用いる。
備考	この科目は分割授業で行なう。

科目名	教育実習指導<幼>
単位数	1単位
担当教員	杉本裕子
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋セメスター
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭
授業概要	教育実習に向けての準備学習を行う中で、これまでの学習の成果を整理し活用する。また、教育の現場に身を置き体験を通して学ぶにあたっての自らの課題を明らかにし、教育実習への期待を高める。
到達目標	①幼稚園で行われている幼児教育に関する認識と理解を深める。 ②幼稚園教諭としての基本的な心構えや態度について研修し、その使命感に触れるとともに教諭としての資質を高めることができるようにする。
授業内容・方法	<p>第1週 教育実習要綱の内容確認と解説【講義】</p> <p>第2週 実習の目的と準備の仕方について【講義】</p> <p>第3週 実習日誌について①基本事項、記録の書き方【講義と事例検討】</p> <p>第4週 実習日誌について②今日の目標の設定の仕方【講義と事例検討】</p> <p>第5週 実習日誌について③保育の振り返りの書き方【講義と事例検討】</p> <p>第6週 指導案の作成について①基本事項【講義と事例検討】</p> <p>第7週 指導案の作成について②例題作成【講義と事例検討】</p>
定期試験等	定期試験は実施しない
準備・発展学習	準備学習…実習に臨むにあたっての自己課題を整理しておく。 発展学習…実習開始までの準備計画を立てる。
成績評価	課題提出30%、授業内試験30%、受講状況40%
教科書	『幼稚園実習・保育所実習のMind & Skill』小泉裕子、学芸図書
備考	

科目名	教育実習指導<小>
単位数	1単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋 Semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	教員としての実践能力を養うために、実習校で担当教員の指導を受けつつ「観察」「実習」等の活動を体験する。実習に向けて、教育実習の意義や心構え、児童理解の方法や授業設計及び学級経営等について具体的に学び、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方となすべき課題を明確に認識する。
到達目標	1. 教育実習の意義や内容等を理解し、教職に必須の知識や技能を身につける。 2. 教育実習への意欲や使命感をもって参加する。 3. 教育指導のねらいや課題を踏まえ、教育実習日誌を書くことができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育実習の意義：実習校における見学、観察、講話など【講義】</p> <p>第2週 教壇実習、全日経営（一日実習）の実践【講義】</p> <p>第3週 教育実習日誌の書き方【講義・演習】</p> <p>第4週 研究授業と授業観察の目的と方法【講義】</p> <p>第5週 学習指導案の書き方【講義・演習】</p> <p>第6週 授業準備と模擬授業の実践1【演習：グループ模擬授業】</p> <p>第7週 授業準備と模擬授業の実践2【演習：グループ模擬授業】</p>
定期試験等	定期試験は実施せず
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ模擬授業の演習前に教材研究・指導案作成を実施する。 ・教育用語についての理解を深めるよう復習に努めること。
成績評価	受講状況50%、課題提出25%、演習・発表25%
教科書	「教育実習要綱」（本学配布）、その他は必要に応じて資料・プリントを配布。
備考	教育職には強い自覚と責任感が求められる。教育実習ガイダンス・実習報告会への出席、提出物等の諸手続の時期等を厳守しない者は失格とすることがある。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	保育所において11日間以上の実習を行う。実習では、保育士の直接指導や観察・参加実習と日々の実習日誌作成を通して以下の事柄について学ぶ。①保育所の役割や機能 ②観察・参加実習を通しての子ども理解 ③子どもの保育や保護者支援の実際 ④保育の計画、観察、記録、自己評価 ⑤保育士の役割や職業倫理について。
到達目標	1. 保育所の役割や機能を理解する。2. 観察やかかわりから子どもへの理解を深める。3. 授業で学んだことを踏まえ、保育や保護者支援について学ぶ。4. 保育の計画、観察、記録、自己評価等について理解する。5. 保育士の業務内容、職業倫理について学ぶ。
授業内容・方法	保育所実習Ⅰ（保育所）では、実習を通して以下の内容について学ぶ 1. 保育所の役割と機能 （1）保育所の生活と一日の流れ （2）保育所保育指針を理解し、実際の保育の展開を学ぶ 2. 子ども理解 （1）子どもを観察し記録することによって子どもを理解する （2）子どもの発達過程の理解と、子どもへの援助やかかわり方の理解 3. 保育内容・保育環境 （1）発達を踏まえた保育計画に基づく保育内容について （2）子どもの生活や遊びと保育環境及び、子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 （1）保育課程と指導計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容と、職員間の役割分担や連携 （2）保育士の役割と職業倫理
準備・発展学習	実習事前オリエンテーションに基づき、事前準備を行うこと。日誌への記入を通して、実習で学んだこと、学び残したことを明確にすること。
成績評価	認否により評価。
教科書	
備考	学内事前指導・事後指導を期日までに行うこと。提出物・報告事項等の期限を守ること。

科目名	保育実習Ⅲ（児童厚生施設等）
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	○保育士，◎児童厚生員
授業概要	11日間以上の児童厚生施設等での実習を通して、児童厚生施設等の役割や支援の実際について、また保育士の業務内容や子どもの姿、地域との連携の実際について学ぶ。
到達目標	実践を通して①児童福祉施設の役割や機能について ②保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。生活実態に触れ、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。自己課題の明確化。
授業内容・方法	<p>保育実習Ⅲ（児童厚生施設等）の実習内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と対応 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化
準備・発展学習	実習の目標・課題を明確に持つこと。目標・課題の達成度を振り返ること。
成績評価	認否により評価
教科書	
備考	

科目名	生活と法律
単位数	2単位
担当教員	三浦一郎
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	「社会あるところ法あり」という言葉のように、社会生活に法は不可欠である。本講では、身近なニュース等の問題点を考察した上で関連する法律に学び、生活に関わる法律の役割を学問的に理解して、法的なものの見方や考え方を身につける。
到達目標	1、生活に関する具体的な法律の役割を理解する。 2、身近なニュース等を法的な視点で考察できる。 3、家族と法の関係を理解して、家族について法的にも議論することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス：身近なニュースを法的問題として捉えて、日常生活と法の関係を意識する。</p> <p>第2週 法のあり方：法の領域と個人の領域を理解して、児童虐待防止法やDV防止法等を学ぶ。</p> <p>第3週 法と道徳：法以外の社会規範を理解して生命倫理に関する法律を学ぶ。</p> <p>第4週 憲法と法律：憲法と法律の関係を人権のあり方を通して学ぶ。</p> <p>第5週 法律と条例：地方自治を理解して具体的な条例を学ぶ。</p> <p>第6週 判例法：不文法を学び、判例の社会への役割を知る。</p> <p>第7週 社会法：社会法誕生の歴史的背景を学び、消費者契約法やPL法を学ぶ。</p> <p>第8週 法の解釈：法解釈の必要性和法解釈の方法を学ぶと共に、その限界も知る。</p> <p>第9週 裁判と法：裁判の種類を理解し、裁判員制度の問題点を考える。</p> <p>第10週 家族と法1：婚姻と離婚について法的に理解し、その現代的問題も考察する。</p> <p>第11週 家族と法2：親子関係について法的に理解し、子どもの人権についても考える。</p> <p>第12週 女性と法：法の下での平等を学び、男女雇用機会均等法等を学ぶ。</p> <p>第13週 子どもの人権と法：教育を受ける権利について学び、関連法を理解する。</p> <p>第14週 新しい人権と法：知る権利やプライバシー権を理解し、個人情報保護法等を学ぶ。</p> <p>第15週 これからの法のあり方：講義内容を総括して、これからの法のあり方を考える。</p> <p>定期試験等 実施しない。</p>
準備・発展学習	日頃から新聞等でニュースを知り、理解するように心掛ける。
成績評価	授業内試験（筆記試験）70%、課題提出（レポート）もしくは発表 30%
教科書	三浦一郎『リアルタイム法学・憲法（改訂3版）』北樹出版 2008年（4版の場合あり）
備考	

科目名	数と統計
単位数	2単位
担当教員	宇都宮俊男
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	「統計学」といった場合、確率のいろいろな分布曲線や推定、検定といった内容を思い浮かべがちであるが、現在の単位制の高校で数学を殆ど学んでこなかった学生に、これらをいきなり与えても消化不良になってしまう。順列、組合せ、確率といった基礎事項から入り、復習しながら習得できるよう導く。
到達目標	身の回りの具体的なデータを用いて、分類表、グラフの作成から平均値、相関、推定、検定に至る統計的操作を理解し、実習することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 データの整理</p> <p>第2週 いろいろなグラフ</p> <p>第3週 代表値としての平均値</p> <p>第4週 偏りとばらつき</p> <p>第5週 分散・標準偏差</p> <p>第6週 多変量のグラフ化</p> <p>第7週 散布図</p> <p>第8週 相関係数</p> <p>第9週 回帰曲線と最小自乗法</p> <p>第10週 階級と度数分布</p> <p>第11週 順列・組合せ</p> <p>第12週 確率・期待値</p> <p>第13週 確率分布のいろいろ</p> <p>第14週 統計的推定</p> <p>第15週 統計的検定</p> <p>定期試験等 随時、小テストを行う。定期試験は行わない。</p>
準備・発展学習	一つの手法を学んだ後、実習を行うので前回の授業内容をよく復習・理解しておくこと。
成績評価	小テスト結果と授業態度を総合して行う。
教科書	『新版 基本統計学』岡本雅典、鈴木義一郎、実教出版
備考	授業時、電卓を持参すること。

科目名	キャリアデザイン
単位数	2単位
担当教員	大竹奈穂子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	人生をキャリアデザインをする上で具体的な考え方や方法を知り、職業と生活のバランスを考えながら自分の職業と将来のありたい姿を探る。また、女性が働き続けるために必要な社会のしくみについて現在の社会状況を知り、その中でどうあるべきかについても考える。
到達目標	1. キャリアデザインの実現のために必要な考え方、具体的な方法を知る 2. 自分の職業選択の方向性を探る 3. 仕事と家庭、ワークライフバランスについて自分なりの考えを持つ
授業内容・方法	<p>第1週 キャリアデザインは何のためにするのか</p> <p>第2週 自分の能力とキャリアデザインの関係について</p> <p>第3週 キャリアを阻害するもの1</p> <p>第4週 キャリアを阻害するもの2 【グループワーク】</p> <p>第5週 年齢段階別キャリアデザイン（自己振り返り）</p> <p>第6週 年齢段階別キャリアデザイン（自己振り返り）</p> <p>第7週 年齢段階別キャリアデザイン【発表】</p> <p>第8週 職業検索 1</p> <p>第9週 職業検索 2 【グループワーク】</p> <p>第10週 先輩達はどのように歩んでいるのか（事例研究）1</p> <p>第11週 先輩達はどのように歩んでいるのか（事例研究）2【発表】</p> <p>第12週 子育てとキャリア</p> <p>第13週 ワークライフバランスについて</p> <p>第14週 自分のキャリアデザインの作成</p> <p>第15週 授業内試験</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	新聞やニュースなどに目を通し、社会への目を広げることと、女性が働き続けるために必要な社会の仕組み等について問題意識をもつこと。
成績評価	授業内試験40%、課題提出30%、受講状況30%
教科書	大久保幸夫著「キャリアデザイン入門1」 日経文庫
備考	グループワークやディスカッション、プレゼンテーションの機会を多く作ります。考える材料として新聞購読をしてください。

科目名	英語②
単位数	1単位
担当教員	桐生直幸
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭, ○秘書士
授業概要	幼児教育、栄養管理、健康管理など、身近なトピックを題材とする英文を読み、それに関する演習を行うことを通して、それらの分野における英語表現上の基礎知識、関連語彙の習得を図る。高校までに学習する英文法、語法、構文把握などに関して、十分理解していない学生に対しても丁寧な解説を行う。
到達目標	1. 幼児教育、栄養管理分野に特有の英語表現を習得する。 2. 「聴く・話す・読む・書く」4技能の基礎的運用能力を獲得する。
授業内容・方法	<p>第1週 Introduction (短大での英語学習)、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 Children with Working Mothers アメリカ女性労働者の増加【講義・演習】</p> <p>第3週 Children with Working Mothers 働く母親に対する意識【講義・演習】</p> <p>第4週 Children with Working Mothers 働く母親のいる家族【講義・演習】</p> <p>第5週 Going Veg 菜食主義者とは【講義・演習】</p> <p>第6週 Going Veg ダイエットとの違い【講義・演習】</p> <p>第7週 Going Veg マイ・ピラミッドと栄養バランス【講義・演習】</p> <p>第8週 Review/Test 復習及び授業内試験①【テスト】</p> <p>第9週 Watching Television 子どもがテレビと出会うとき【講義・演習】</p> <p>第10週 Watching Television 子どもに対するアニメの影響【講義・演習】</p> <p>第11週 Watching Television 子どもの最大テレビ視聴時間【講義・演習】</p> <p>第12週 Fitness アメリカ人の運動と健康【講義・演習】</p> <p>第13週 Fitness 両親の運動習慣と子どもへの影響【講義・演習】</p> <p>第14週 Fitness 子どもの運動習慣形成のための秘訣【講義・演習】</p> <p>第15週 Review/Test 復習及び授業内試験②【テスト】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	付属CDをあらかじめ聞き、各週の授業内容の予習、復習をすること。
成績評価	授業内試験 60%、受講状況 20%、課題提出 20%
教科書	English Reader for College Students (改訂版) 青路社
備考	毎回、英語辞書を持参すること。

科目名	音楽②
単位数	2単位
担当教員	東ゆかり・大田櫻子・小山裕之・安藤友香・蓮沼みな子・武藤弘子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科に関する科目〕○小学校教諭・○幼稚園教諭, ○保育士
授業概要	音楽①で培った技能を基礎として、一人ひとりがより向上発展するように個人・グループレッスン等で授業を行う。様々な音楽表現活動が出来ることを目標とし、弾き歌い、ピアノ演奏、アンサンブル等、実技・演習を中心とした授業を展開していく。
到達目標	①子どもに語りかけるように歌ったり、弾いたりすることが出来るようになる。②合奏の楽しさや演奏する喜びを伝えることが出来るようになる。③子ども達の歌をリードし、感情を豊かに表現することが出来るようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 授業概要の説明およびグループに分かれての実技演習【講義・実技】</p> <p>第2週 グループ別による歌唱（子どもの歌を中心に）と個々の音楽レッスン【実技】</p> <p>第3週 子どもの歌の弾き歌いと個々のレベルに合わせた個人レッスン【実技】</p> <p>第4週 グループ別による子どもの歌（季節の歌）の演奏【実技】</p> <p>第5週 個々のレベルに合わせた子どもの歌（生活の歌）の伴奏の方法を個人レッスン【実技】</p> <p>第6週 子どものためのリズム楽器の扱い方と奏法の概説および演奏【講義・実技】</p> <p>第7週 器楽アンサンブル【講義・実技】</p> <p>第8週 トーンチャイムの扱い方と奏法の概説および演奏【講義・実技】</p> <p>第9週 ボディパーカッションによるリズム学習とアンサンブル【講義・実技】</p> <p>第10週 グループ別による子どもの歌（行事の歌）の演奏【演習】</p> <p>第11週 初見【実技】</p> <p>第12週 第14週の発表にむけての個人レッスン【実技】</p> <p>第13週 第14週の発表にむけての個人レッスンおよび予行演習【実技】</p> <p>第14週 2つのグループに分かれて一人ずつが演奏発表をおこなう【演習】</p> <p>第15週 子どもの歌のレパートリーの作成【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	ピアノや様々な楽器の演奏と歌唱に関して、授業外での積極的な個人練習を行い円滑な演奏が出来るように準備をすること。授業後は技術の定着のための復習をおこなうこと。
成績評価	受講状況70%、実践演習発表30%
教科書	『こどもの歌93』カワイ出版
備考	

科目名	社会的養護
単位数	2単位
担当教員	齋藤新二
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	家庭で養育出来なくなった6名の子をファミリーホーム（地域小規模児童養育事業）で育てている現場から現在の社会的養護の抱える問題点を考察していくと共に保育士として子供に寄り添い共に育つための技術を視聴覚を多く使い学んでいく。
到達目標	1、子ども虐待についての発生要因や影響、防止に向けての取り組みなどを理解しその対応方法が述べられる。2、子どもの権利擁護の方法などが説明することが出来る。3、子どもが起こす問題の行動の背景について推測し対応できる。
授業内容・方法	<p>第1週 社会的養護の必要性と、国の方向を学ぶ（講義・ビデオ視聴）</p> <p>第2週 児童養護の歴史について学ぶ（講義・DVD視聴）</p> <p>第3週 子ども虐待の定義、内容、背景について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第4週 子ども虐待に関する発見、対応、予防について学ぶ（講義、DVD視聴）</p> <p>第5週 児童養護の制度や実施体系について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第6週 子どもの権利擁護について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第7週 家庭的養護について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第8週 家庭的養護の実際について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第9週 社会的養護の制度と実施体系について学ぶ（講義）</p> <p>第10週 施設養護の基本原則と特質を学ぶ（講義）</p> <p>第11週 施設養護の実際①保育士の基本的援助、問題行動の背景を学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第12週 施設養護の実際②自立支援計画について学ぶ（講義）</p> <p>第13週 施設養護の実際③家族、地域、学校との連携について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第14週 保育士に望む、資質、倫理について学ぶ（講義、ビデオ視聴）</p> <p>第15週 これからの社会的養護のあり方について学ぶ（講義）</p> <p>定期試験等 筆記試験（80分）</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと。授業終了時「授業振り返りカード」に記入提出する。
成績評価	筆記試験100%
教科書	「保育士のための社会的養護原理」石井功一編 大学図書出版
備考	初回に受講方法、課題について説明、子どものための「素話」を体験する。

科目名	子どもの保健①
単位数	2単位
担当教員	片川智子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	保育者は子どもが自分の能力を最大限に発揮して発育発達できるように支援する役割がある。「子どもの保健①」では、生活の中で子どもの健康増進を図る小児保健活動の概念と保健の意義を学び、小児期の身体の特徴と仕組みを中心に、保育現場でよくある疾患と子どもの精神保健について、理解を深められるよう授業を展開する。
到達目標	①子どもの健康の概念と保健の意義、健康指標を述べられる。 ②子どもの発育・発達と精神保健の特徴と課題を述べられる。 ③保育現場によくある疾患の特徴を述べられる。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの健康の概念と保健の意義、健康指標にみる課題 【講義】</p> <p>第2週 子どもの発育の特徴・原則、身体発育とその評価 【講義】</p> <p>第3週 生理機能の発達① 呼吸・循環器・免疫機能・消化機能 【講義】</p> <p>第4週 生理機能の発達② 排泄・水分代謝・内分泌機能・睡眠リズム 【講義・DVD教材】</p> <p>第5週 生理機能の発達③ 感覚機能・神経機能・運動機能 【講義・DVD教材】</p> <p>第6週 精神機能・情緒行動発達 【講義・DVD教材】</p> <p>第7週 子どもの生活環境と精神保健、精神保健の課題 【講義】</p> <p>第8週 保育の現場でよくある病気① 感染症 【講義】</p> <p>第9週 保育の現場でよくある病気② アレルギー疾患 【講義】</p> <p>第10週 保育の現場でよくある病気③ 消化器・呼吸器・循環器疾患 【講義】</p> <p>第11週 保育の現場でよくある病気④ 血液系、悪性腫瘍、神経系疾患 【講義】</p> <p>第12週 保育の現場でよくある病気⑤ 泌尿器・生殖器、耳・目疾患・整形外科疾患 【講義】</p> <p>第13週 保育の現場でよくある病気⑥ 内分泌・代謝性疾患、その他 【講義】</p> <p>第14週 慢性疾患を持つ子どもの保育・予防接種について 【講義】</p> <p>第15週 子どもの身体発育と病気 【まとめテスト】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと。 授業時に提示する課題を期限までに提出。
成績評価	授業内試験50%、課題提出20%、受講状況30%、
教科書	『子どもの保健Ⅰ』 佐藤益子 編 ななみ書房 2012
備考	初回に受講方法を説明する

科目名	子どもの保健演習
単位数	2単位
担当教員	片川智子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	子どもにかかわる専門職種においては、健康管理の役割が求められる。この單元では、子どもの健康の保持増進を目指した養護と、子どもに多い症状・病気の対処、事故防止および安全管理に関する具体的方法を学び、保育所などの児童福祉施設あるいは幼稚園その他保育の場で、実践的な保健活動ができるよう授業を展開する。
到達目標	1. 子どもの発育・発達に必要な養護の技術が実施できるようになる。 2. 健康状態の観察、症状・病気の対処と予防、応急処置が実施できるようになる。 3. 事故防止および安全な保育環境に関する基本的な知識を理解し、方法を述べられる。
授業内容・方法	<p>第1週 小児保健活動の必要性、健康観察と発育評価の方法 【講義】</p> <p>第2週 身体の計測と評価の方法 【講義・デモンストレーション】</p> <p>第3週 生理機能の測定と評価の方法 【実習】</p> <p>第4週 抱き方・衣服の着脱・おむつ交換・沐浴の方法 【講義・デモンストレーション】</p> <p>第5週 沐浴実習（学習した養護の技術含む） 【実習】</p> <p>第6週 歯の健康と仕上げ磨き 【実習】</p> <p>第7週 手の洗い方、車いすの介助と取り扱い、箒法 【実習】</p> <p>第8週 症状を持つ子どもの看護の方法 【講義・デモンストレーション】</p> <p>第9週 応急処置①（止血法、傷の手当、熱傷・頭部外傷・熱中症の手当） 【講義・デモンストレーション】</p> <p>第10週 応急処置②：包帯法（巻軸帯・三角巾・その他の材料の活用） 【実習】</p> <p>第11週 応急処置③：打撲・脱臼・骨折の手当（固定法） 【実習】</p> <p>第12週 心肺蘇生法の基礎とAEDの取り扱い 【講義・デモンストレーション】</p> <p>第13週 心肺蘇生法の実際 【実習】</p> <p>第14週 保育環境の衛生、病気・事故の予防対策、健康教育の方法 【講義】</p> <p>第15週 まとめテスト・技術試験（目標達成度の確認） 【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験実施しない</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと 各回の授業で学習した技術を復習し、できるようにしておくこと。
成績評価	授業内試験50% 課題提出20% 受講状況30%
教科書	『子どもの保健Ⅱ』 佐藤益子 他 編 ななみ書房 2012
備考	初回に受講方法、まとめテスト・技術試験について説明する。 教科書は『子どもの保健②』（秋semester）でも使用する。

科目名	家庭支援論
単位数	2単位
担当教員	野島正剛
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	子どもと家庭に対して適切な相談・支援を行うために、必要な知識と技術・態度を身につける授業です。家庭とはなにかを知り、家庭を支えるための法律や環境、支援の方法などを学びます。教科書に加え、様々な統計データ、映像資料によって知識を身につけ、事例によって知識と技術を統合し、支援のあり方を深く理解します。
到達目標	1. 家庭の定義や機能、取り巻く環境、家庭内の人間関係について説明できる。 2. 子育て支援の取り組み、社会資源について説明ができる。 3. 知識と技術をつなげ、子どもと家庭の利益にたった態度と支援を実践できる。
授業内容・方法	<p>第1週 家庭の定義と機能</p> <p>第2週 家庭を取り巻く社会的状況</p> <p>第3週 子育て不安</p> <p>第4週 児童虐待の現状</p> <p>第5週 家庭における人間関係</p> <p>第6週 ライフワークバランス</p> <p>第7週 1回から7回のまとめ(小レポート1)</p> <p>第8週 保育士が行う子育て支援の取り組み</p> <p>第9週 支援サービスの概要とニーズ</p> <p>第10週 子育て支援と関係機関・社会資源</p> <p>第11週 子育て支援サービスの課題</p> <p>第12週 家庭を取り巻く問題と支援のあり方</p> <p>第13週 8回から12回のまとめ(小レポート2)</p> <p>第14週 様々な家庭への支援</p> <p>第15週 家庭に対する支援の課題(総括レポート)</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	準備：授業でポイントを提示します。発展：テキストと配付資料を比較検討してみましよう。
成績評価	課題提出80%(小レポート40%，総括レポート40%)，受講状況20%
教科書	「保育者が学ぶ家庭支援」 植木信一 編著 建帛社
備考	発展学習の方法については、初回に説明します。

科目名	社会的養護内容
単位数	2単位
担当教員	小川恭子・西山健一
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	「子ども家庭福祉」領域では伝統的かつ中核的役割を担ってきた居住型児童福祉施設の実践を題材としながら、社会的養護にかかわるソーシャルワークの知識・技術とその応用について理解した上で、各児童福祉施設の養護内容と保育士の役割を学ぶ。児童福祉施設実践を通して家庭支援、地域支援について考察する。
到達目標	知識：1. 児童福祉施設の養護内容を説明できる 2. 児童福祉施設の保育士の役割を解釈できる 3. 児童福祉施設で行う家庭・地域支援を説明できる 技能：1. 社会的養護に関するソーシャルワークの方法と技術を模倣する 2. 個別支援計画の作成を行う
授業内容・方法	<p>第1週 児童福祉施設の生活について（グループ討議）</p> <p>第2週 入所時および日常生活支援（事例検討）</p> <p>第3週 被虐待児への理解と支援（事例検討）</p> <p>第4週 親子関係の調整（事例検討）</p> <p>第5週 地域とのかかわり（事例検討）</p> <p>第6週 子どもの権利を守る取り組み（事例検討）</p> <p>第7週 自立支援に関する事例分析（事例検討）</p> <p>第8週 自立支援計画の作成（事例検討）</p> <p>第9週 ソーシャルワークに関わる知識・技術 ①マッピング（事例検討）</p> <p>第10週 ソーシャルワークに関わる知識・技術 ②面接技法（ロールプレイ）</p> <p>第11週 児童養護施設の養護内容（事例検討）</p> <p>第12週 乳児院・母子生活支援施設の養護内容（事例検討）</p> <p>第13週 知的障害児施設・重症心身障害児施設の養護内容（事例検討）</p> <p>第14週 児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の養護内容（事例検討）</p> <p>第15週 児童福祉施設における支援者の資質と倫理（事例検討・グループ討議）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	授業終了時に次回の準備学習を課す。テーマごとに課題レポートを課す。
成績評価	授業内試験70% 課題提出30%
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
備考	1年生で履修した「児童家庭福祉」「社会福祉」を復習すること。2年生で履修する「社会的養護」「相談援助演習」の授業内容を把握すること。

科目名	保育実習指導Ⅰ（居住型施設等）
単位数	1単位
担当教員	石川修
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	保育士は児童福祉施設すべての専門職種であることを理解し、保育士資格に必要な知識、技術、価値観を実習という現場体験を通して実践力を身に着けます。『居住型施設』の特性や社会的役割を理解し、利用している子どもや障害者の特性、発達、さらには関わり方を学び、実習に向けた準備をします。
到達目標	①居住型施設実習の意義や目的、実習生としての心構えを学ぶ。②実習施設の目的や機能・役割等を学ぶ。③実習意欲を高めると共に不安の軽減を図る。④効果的な実習となる準備をする。
授業内容・方法	<p>第1週 居住型施設の概観。実習への不安を話し合う。【講義・グループ討議】</p> <p>第2週 児童福祉施設の特徴を理解する。【講義】</p> <p>第3週 障害福祉施設の特徴を理解する。【講義】</p> <p>第4週 「療育」の特徴を知る～ティーチプログラムについて。【講義】</p> <p>第5週 社会福祉施設の勤務と職種間の連携について学ぶ。【講義】</p> <p>第6週 居住型施設実習に向けた心得を学ぶ。実習施設について調査する。【グループ討議】</p> <p>第7週 居住型施設実習体験記から実習準備の整理をする。【講義】</p>
定期試験等	実施せず。
準備・発展学習	施設生活体験記等を読んでみる。
成績評価	レポート提出50% 受講状況50%
教科書	「保育実習要綱」（居住型施設） その他必要に応じて参考図書紹介。
備考	実習参加資格要件は本講義全コマ受講とする。

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
単位数	1単位
担当教員	寶川雅子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	保育所実習Ⅰを行い、保育所の役割や、保育者の業務内容、乳幼児を保育することの難しさを実感し多くの課題が明確になっている。実習指導Ⅱでは、課題を意識しながら保育所の機能や保育士の業務内容について具体的に考え、保育実践力が向上するように授業を進める。
到達目標	保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習、既習教科と関連づけて実践できる。事例、実践から保育の改善について学ぶ。保育士の専門性と倫理について理解する。実習の総括と自己評価が行え、新たな課題を明確にできる。
授業内容・方法	<p>第1週 保育所実習Ⅰの振り返り【演習】</p> <p>第2週 保育の具体的な理解と保護者支援について【演習】</p> <p>第3週 乳幼児との適切なかかわりと保育実践【演習、ケーススタディ】</p> <p>第4週 保育の計画と保育の改善について【演習】</p> <p>第5週 保育士の専門性と職業倫理について【演習】</p> <p>第6週 実習事後の総括と評価について【演習】</p> <p>第7週 実習Ⅱに向けた具体的な課題について（実習Ⅰをよりよく生かすために）【演習】</p>
定期試験等	実施しない。
準備・発展学習	実習Ⅰを踏まえて自己課題と実習Ⅱの目標を明確にしておくこと。授業で紹介した資料に目を通すこと。
成績評価	全回出席が条件。可否で評価。
教科書	なし
備考	授業初回に、持ち物を連絡します。

科目名	レクリエーション実技①
単位数	1単位
担当教員	西島大祐
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎レクリエーションインストラクター
授業概要	レクリエーションに関する基礎技術を学び、レクリエーション支援者としての資質や能力を高めていく。また生涯スポーツの視点を大切に、地域社会や教育現場において集団を対象としたレクリエーション活動を支援・指導できる人材を育成する。本授業科目は実技と発表を含んだ演習によって展開されていく。
到達目標	1. レクリエーション支援の技術を学び、指導現場で活用できるようになる。 2. 地域社会や様々な教育現場でレクリエーション活動を展開できる知識・技能を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、コミュニケーション・ワークの実際（実技）</p> <p>第2週 アイスブレイキングの技術（実技）</p> <p>第3週 アイスブレイキングの計画と活用（実技）</p> <p>第4週 ホスピタリティ・トレーニングの実際（小集団に対して）（実技）</p> <p>第5週 ホスピタリティ・トレーニングの実際（大集団に対して）（実技）</p> <p>第6週 対象に合わせたアレンジ法について（実技）</p> <p>第7週 福祉分野でのレクリエーション（実技）</p> <p>第8週 ニュースポーツの実践と応用（実技）</p> <p>第9週 身近な素材を使ったレクリエーションの実際（実技）</p> <p>第10週 イニシアティブ・ゲームの要領と理解（実技）</p> <p>第11週 自然環境を活用したレクリエーション（実技）</p> <p>第12週 ゲーム指導の実際（実技）</p> <p>第13週 レクリエーション・ワークの計画（演習）</p> <p>第14週 レクリエーション・ワークの実践（演習）</p> <p>第15週 レクリエーション・ワークの評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各回、事前に教科書等の該当箇所を読み把握すること。 事前に『レクリエーション理論』を受講していることが望ましい。
成績評価	発表・実践50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（財）日本レクリエーション協会、2008
備考	持ち物等については第1回の授業時に説明をする。

科目名	児童の健全育成と福祉
単位数	2単位
担当教員	相原信一
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎児童厚生員
授業概要	児童の権利で保障された、健全な成長に必要なファクターや社会的資源を学ぶ。また児童の健全育成（自立支援）についての意味を考え、児童の健全育成に必要な方策を考察する。具体的事例等を用いて、ロールプレイやグループ討議を重ねながら進めていく。
到達目標	①健全育成の基本や、地域支援について理解する。 ②児童の健全育成を考える上で、家庭・地域・学校の「共育」について、理解する。 ③個人の価値感とワーカーとしての価値感の違いについて考察し、理解する。
授業内容・方法	<p>第1週 講義1：基本的な健全な児童について理解し、説明できる。</p> <p>第2週 講義2：健全育成とは何かについて理解し、説明できる。</p> <p>第3週 講義3：健全な子どもの発達の礎編について理解し、説明できる。</p> <p>第4週 協議1：健全な子どもの発達について理解したことを他と共有できる。</p> <p>第5週 講義4：地域子育て支援拠点の役割等について理解し、説明できる。</p> <p>第6週 講義5：子どもの居場所（児童厚生施設等）について理解し、説明できる。</p> <p>第7週 演習1：レクリエーションワークについて体験し、共有できる。</p> <p>第8週 講義6：児童の健全育成と福祉の課題①次世代育成について考察し、理解できる。</p> <p>第9週 協議2：児童の健全育成と福祉の課題①グループで話し合いを行い、共有できる。</p> <p>第10週 講義7：課題②子育て支援と児童を取り巻く様々福祉施設について理解し、説明できる。</p> <p>第11週 協議3：児童の健全育成と福祉の課題②グループで話し合いを行い、共有できる。</p> <p>第12週 講義8：課題③児童の権利擁護と虐待防止について理解し、説明できる。</p> <p>第13週 協議4：児童の健全育成と福祉の課題③グループで話し合いを行い、共有できる。</p> <p>第14週 協議5：児童の健全育成と福祉について、課題を抽出し、まとめることができる。</p> <p>第15週 発表1：児童の健全育成と福祉について、まとめを発表し相互理解できる。</p> <p>定期試験等 定期試験（レポート）</p>
準備・発展学習	自身が子どもの頃、利用した（していない人は尚のこと）児童館や、その他の福祉施設等を、見学しておくこと、授業の中で出てくる福祉施設のイメージが持て、より理解が深まると思いますので、是非事前学習を行ってください。
成績評価	受講状況20%、発表30%、課題提出（レポート）50%で評価する
教科書	必要に応じて資料配布
備考	

科目名	秘書学概論
単位数	2単位
担当教員	大竹奈穂子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎秘書士
授業概要	現代女性がグローバルな社会の中で活躍してゆくために必要な基本的な社会常識・秘書的な実務・日本人女性としてのマナー・美しい所作を身につける。秘書概論・秘書実務の両講義を通年で取られることをお勧めする。
到達目標	1. 秘書的な実務知識の基本を学ぶ 2. 敬語・状況対応・振る舞いなど社会人に通用する振る舞いを身につける 3. 実務技能検定協会主催の秘書技能検定3級・2級合格に対応できる知識を学ぶ。
授業内容・方法	<p>第1週 企業のしくみと女性の働き方</p> <p>第2週 秘書に求められる資質とは</p> <p>第3週 秘書の職務にはどのようなものがあるのか</p> <p>第4週 マナーと接遇1（敬語の使い方）</p> <p>第5週 マナーと接遇2（来客の対応）</p> <p>第6週 マナーと接遇3（儀礼と日本的作法）</p> <p>第7週 秘書の実務 1（情報整理・書類の管理と扱い）</p> <p>第8週 秘書の実務 2（敬弔の業務）</p> <p>第9週 秘書の実務 3（手紙の書き方 社交文書）</p> <p>第10週 秘書の実務 4（手紙の書き方 ビジネス文書）</p> <p>第11週 秘書の実務 5（電話対応・日本語と敬語）</p> <p>第12週 秘書の実務 6（報告・連絡・相談）</p> <p>第13週 秘書の実務 7（会議の準備と設営について）</p> <p>第14週 秘書の実務 8（スケジュール管理について）</p> <p>第15週 授業内試験 と 所作立ち振る舞い</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	日常生活の中で他人への気配り、心配りを行動で示し、美しい振る舞いを実践する
成績評価	授業内筆記試験 60% 出席状況 40%
教科書	「SHE'S 秘書ハンドブック」 株 ウィネット
備考	秘書技能検定を受験する学生は「早稲田教育出版社 秘書検定実問題集」を購入のこと

科目名	発達心理学
単位数	2単位
担当教員	越智幸一・福島洋子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭, ◎保育士
授業概要	発達心理学は、人間の発達過程を心理学的観点から明らかにする学問です。この授業では、胎児期からはじめて、老年期に至るまで、それぞれの時期で重要な事柄について紹介していきます。教育・保育に携わる者にとって極めて大切な、発達心理学の主要な知見についてしっかりと理解してもらいたいと思います。
到達目標	1. 発達心理学の主要な知見を理解できる。2. 子どもとかわる際に、発達の観点を持ちながら子どもに対応することができる。3. 教育・保育におけるさまざまな問題について、発達心理学の知見を応用し、解決することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 胎児期（胎児の持つ能力・胎児にとって害になるもの）【講義・DVD教材】</p> <p>第2週 新生児期（生まれたときにある力）【講義・DVD教材】</p> <p>第3週 乳児期前半における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第4週 乳児期後半における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第5週 1歳児における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第6週 2歳児における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第7週 3歳児における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第8週 4歳児における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第9週 5歳児における発達の特徴【講義・DVD教材】</p> <p>第10週 児童期前半における発達の特徴【講義・演習】</p> <p>第11週 児童期後半における発達の特徴【講義・演習】</p> <p>第12週 青年期（アイデンティティ・友達関係）【講義・演習】</p> <p>第13週 成人期（結婚・子育て）【講義・演習】</p> <p>第14週 老年期（老年の生きがい・死）【講義・演習】</p> <p>第15週 発達障害を持つ子どもたちへの援助【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと・毎回の講義終了時に提示する復習課題を期限までに提出。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『よくわかる発達心理学 第2版』無藤隆・岡本祐子・大坪治彦、ミネルヴァ書房
備考	

科目名	保育の心理学演習
単位数	2単位
担当教員	原孝成
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	保育者が効果的な保育を行っていくためには、子ども一人ひとりに応じた教育的対応についての理解を深める必要がある。本講義では、子どもの発達をふまえつつ、子どもの生活や遊びへの援助、特別な支援の必要な子どもへの援助にかかわる心理学的研究を紹介し、より効果的な保育を展開するための基本的事項について解説する。
到達目標	1. 子どもの心身の発達と保育実践の関連について具体的に説明できる。 2. 生活や遊びをとおして学ぶ子どもの経験や学習の過程について記述できる。 3. 保育における子どもの発達と援助について記述できる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション：子どもの発達と保育実践【講義】</p> <p>第2週 個人差や発達過程に応じた保育【演習】</p> <p>第3週 多様な環境との相互作用を通して学ぶもの【演習】</p> <p>第4週 環境としての保育者と子どもの発達【演習】</p> <p>第5週 子ども相互のかかわりと関係づくり、遊びやトラブル【演習】</p> <p>第6週 自我の芽生えと自己主張と自己抑制の発達【演習】</p> <p>第7週 保育における集団づくり【演習】</p> <p>第8週 子どもの遊びと学びの関係【演習】</p> <p>第9週 生きる力の基礎を培う【演習】</p> <p>第10週 基本的生活習慣の獲得と発達援助【演習】</p> <p>第11週 子どもの主体性の形成と発達援助【演習】</p> <p>第12週 発達援助における協働【演習】</p> <p>第13週 子どもの発達に影響する要因【演習】</p> <p>第14週 幼稚園・保育所における子育て支援【演習】</p> <p>第15週 まとめ：現代社会における課題と発達の援助【課題作成】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	「キーワード」を提示するのでそれについて自主的に学習を進めてください。また、図書館などを利用して保育や心理学に関する書籍を読み復習を行ってください。
成績評価	課題提出40%、授業内試験30%、受講状況30%
教科書	『保育の心理学II』、丹羽さかの（編著）、光生館
備考	

科目名	社会科教育法
単位数	2単位
担当教員	田上恭孝
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	この授業では、学習指導要領を基にして小学校社会科教育指導にあたる教師に必要な「指導・支援」について、具体的な授業場面を想定して実践的に学びます。
到達目標	○新学習指導要領「社会科」の目標・内容を習得することができる。 ○児童の主体的な学びを促すための教師としての指導・支援の方法を身につけることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス「学習指導要領・社会科」を通して学ぶ小学校教育【講義】</p> <p>第2週 学習指導要領と目標・指導法計画【グループ討議】</p> <p>第3週 小学校3・4年生における指導法理解【論述】</p> <p>第4週 地域調べ学習を通しての指導法開発【グループ討議】</p> <p>第5週 地域調べ学習の教材化開発【グループ討議】</p> <p>第6週 小学校5年生における指導法理解【論述】</p> <p>第7週 各分野における資料作成方法の理解【グループ討議】</p> <p>第8週 各分野の教材化開発【グループ討議】</p> <p>第9週 小学校6年生における指導法理解【論述】</p> <p>第10週 歴史分野の資料を活用と教材化開発【グループ討議】</p> <p>第11週 各時代の特色・年代・文化等の教材化と開発【グループ討議】</p> <p>第12週 公民分野における指導法の理解と教材開発【グループ討議】</p> <p>第13週 模擬授業に挑戦しようⅠ～発表と相互評価【発表・グループ討議】</p> <p>第14週 模擬授業に挑戦しようⅡ～発表と相互評価【発表・グループ討議】</p> <p>第15週 模擬授業を振り返る～自己評価と講評【発表・講評】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	学習指導要領を予め読んでおくこと。レポート、発表案を自宅学習で推敲する。
成績評価	受講状況50% 課題提出30% 発表・実践20%
教科書	小学校学習指導要領解説社会編〔東洋館出版〕
備考	学校現場等でのボランティア体験に取り組むことが望ましい

科目名	理科教育法
単位数	2単位
担当教員	保坂和彦
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	現行の小学校学習指導要領における理科の目標及び内容を確認したうえで、初等理科教育に携わる者が理解しておく必要がある自然科学の論理を解説する。さらに、主体的・体験的な学習を重視する理科授業のポイントを中心に学び、指導案作成の練習も行う。また、理科の教材研究ができる教員になるために役立つ課題を提案したい。
到達目標	1. 新小学校学習指導要領理科の目標・内容の理解に基づいた指導案が作成できる。 2. 自然科学の論理の理解に基づいて、体験型の理科授業を考えることができる。 3. 模擬授業の実践を通して、理科授業の運営と安全指導の基本を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 理科と自然科学の関係について考える／模擬授業の実施方法について説明【討論・演習】</p> <p>第2週 新学習指導要領における理科教育の目標と内容【講義】</p> <p>第3週 年間計画と学習指導案の作成法【講義】</p> <p>第4週 観察・実験器具の取り扱い方【演習】</p> <p>第5週 理科における教材研究とは？【講義】</p> <p>第6週 問題解決学習の意義と欠点を考える【討論】</p> <p>第7週 理科の学力につながる野外観察の実践とは？【講義】</p> <p>第8週 理科における先行学習の導入を考える【討論】</p> <p>第9週 飼育動物の理科教材としての利用法【講義】</p> <p>第10週 動物園・博物館等の公共施設の利用法【講義】</p> <p>第11週 模擬授業（1）：比較しながら自然の事物・現象を観察する授業【演習】</p> <p>第12週 模擬授業（2）：自然現象における因果関係の存在を発見する授業【演習】</p> <p>第13週 模擬授業（3）：推論に基づいて仮説を立て、計画的に検証する授業【演習】</p> <p>第14週 模擬授業（4）：協同作業・討論を促す授業【演習】</p> <p>第15週 模擬授業の反省会／教材研究発表会【討論】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	模擬授業のために授業外の打合せ、予行練習などを必要とする。
成績評価	受講状況40%、授業内試験30%、課題提出30%
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書
備考	図書館に所蔵されている小学校理科の教科書や指導資料、『初等理科教育』や『理科の教育』などの雑誌に日頃から目を通して、授業の予習復習に役立ててほしい。

科目名	道徳教育の研究
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	「心の教育」の重要な役割を担う道徳教育の動向と課題を明確にしなが、道徳教育の基礎理論と実践を展開する。基礎理論では、道徳及び道徳教育の基本的な問題にアプローチし、実践においては、学校における道徳教育を中心に、道徳教育の目標と内容、指導計画、授業構成、実践指導を学習する。
到達目標	1. 道徳教育における基本的な考え方や問題・内容を理解し、教師の教育的態度や道徳教育の研究法を身につける。 2. 方法原理を基に道徳問題や道徳的価値の分析をし、道徳的実践の指導方法を展開することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 道徳の本質と道徳教育【講義】</p> <p>第2週 道徳教育の歩み・変遷【講義】</p> <p>第3週 子ども理解と道徳性の発達【講義】</p> <p>第4週 道徳教育の目標と内容【講義】</p> <p>第5週 道徳教育の全体的構想【講義】</p> <p>第6週 道徳教育の指導計画【講義・演習】</p> <p>第7週 道徳の授業論【講義・演習】</p> <p>第8週 道徳授業の構成と展開【講義・演習】</p> <p>第9週 道徳的実践の指導【講義・演習】</p> <p>第10週 道徳学習指導案の作成1：教材・資料について【講義・演習】</p> <p>第11週 道徳学習指導案の作成2：教材研究について【講義・演習】</p> <p>第12週 規範意識を高める道徳授業の展開【講義・演習】</p> <p>第13週 道徳授業研究の方法1：課題と方法について【講義】</p> <p>第14週 道徳授業研究の方法2：授業評価について【講義】</p> <p>第15週 道徳教育の創造【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の実践事例について自分の考えを発表する。 ・子どもの心の教育に役立つような教材開発に興味をもち、積極的に活用にする。
成績評価	講状況40%、課題提出30%、演習・発表30%
教科書	『小学校学習指導要領解説道徳編』文部科学省、東洋館出版社
備考	毎回の授業で道徳授業の実践を紹介し、学校におけるあるべき道徳教育のあり方を主体的に考える基盤を学ぶ。

科目名	小学校英語
単位数	2単位
担当教員	桐生直幸
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教科又は教職に関する科目〕○小学校教諭
授業概要	平成23年度より小学校5・6年生で必修となった外国語活動や日本の英語教育の歴史・現状を学ぶ。外国語活動導入の経緯・目的について理解を深めるとともに、プロジェクト型外国語活動に基づいた指導方法や学習指導案の作成方法について基本的な授業力を身に付けられるよう授業を展開する。
到達目標	1. 外国語活動導入の経緯や目的を理解し、学習指導要領で求められている内容を踏まえた学習指導案が作成できる。 2. プロジェクト型外国語活動の指導技術のうち、基本的なスキルを習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、外国語教育の意義【講義】</p> <p>第2週 外国語活動導入の経緯と目的、学習指導要領（外国語活動編）【講義】</p> <p>第3週 小学校外国語活動の役割、海外の初等外国語教育【講義】</p> <p>第4週 全国共通教材 “Hi, friends!” の活用、1時間の授業の組み立て方【講義】</p> <p>第5週 先進校の取り組みと外国語活動の現状【DVD視聴・討議】</p> <p>第6週 プロジェクト型外国語活動の意義と理論的背景【講義】</p> <p>第7週 外国語活動のあり方、プロジェクトの内容【講義】</p> <p>第8週 プロジェクトの構成と基礎・基本【講義】</p> <p>第9週 プロジェクトにおける教材作り【講義】</p> <p>第10週 理論的背景の復習及び授業内試験【まとめテスト】</p> <p>第11週 学習指導案の書き方と留意点【講義・演習】</p> <p>第12週 プロジェクト型学習指導案の作成【演習】</p> <p>第13週 授業実践と授業評価①【模擬授業】</p> <p>第14週 授業実践と授業評価②【模擬授業】</p> <p>第15週 授業評価とグループ討議【DVD視聴・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	あらかじめ『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』を読んでおくこと。 各回の講義授業後に教科書の該当箇所を復習し、理解を深めること。
成績評価	授業内試験 40%、発表・実践 40%、受講状況 20%
教科書	東野裕子・高島英幸『プロジェクト型外国語活動の展開—児童が主体となる課題解決型授業と評価—』高陵社書店、2011
備考	

科目名	保育内容総論
単位数	2単位
担当教員	佐藤康富・原孝成
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭，◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示されている保育の基本、領域の考え方を学ぶ。保育内容の歴史の変遷を学び、保育内容について理解する。また、具体的な保育実践の展開例を通して、子どもの発達の特性や過程を学び、あわせて多様なニーズに応じた保育の課題についても理解を深める。
到達目標	1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示される保育内容の全体構造がわかる。2. 総合的な保育の展開について理解し、多様な保育援助のあり方の基礎を習得する。3. 多様な保育ニーズ理解し、地域や家庭に対する保育者の役割に気づく。
授業内容・方法	<p>第1週 保育内容とは何か 【講義】</p> <p>第2週 保育内容と子ども理解 【講義・演習】</p> <p>第3週 保育内容における遊びの意味 【講義・演習】</p> <p>第4週 保育の歴史の変遷と保育内容（明治期から戦前）【講義】</p> <p>第5週 保育の歴史の変遷と保育内容（戦後から現在）【講義】</p> <p>第6週 保育内容と子どもの発達 【講義】</p> <p>第7週 経験や発達に結びつく保育内容 【講義・演習】</p> <p>第8週 模擬保育① 【演習】</p> <p>第9週 模擬保育② 【演習】</p> <p>第10週 乳児の園生活 【講義】</p> <p>第11週 3歳児の園生活 【講義】</p> <p>第12週 4歳児の園生活 【講義】</p> <p>第13週 5歳児の園生活 【講義】</p> <p>第14週 保育の多様な取り組みと現代的課題①【講義・演習】</p> <p>第15週 保育の多様な取り組みと現代的課題②【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	準備学習については告知し事前に調べておく。また、復習のための小テストを実施する。
成績評価	授業内試験50% 発表課題提出30% 受講状況20%
教科書	文部科学省「幼稚園教育要領の解説」平成20年版 厚生労働省「保育所保育指針の解説」平成20年度版
備考	

科目名	教育方法・技術
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀・松永立志・渡辺浩
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	教育の目的・目標を実現するため、教育方法の具体的な働きかけを学力形成や人間形成の側面から学習する。教育方法や技術を概観する上で、学習者の学びのあり方や進め方を考え、指導の目的・目標、援助的あり方、各教材特性に即した指導などに関する理論的基礎を学習し、その実践に資するよう展開する。
到達目標	1. 教育方法の目的・機能性を理解し、実践的な教育指導に関する具体的な指導技術を身につける。 2. 学習指導に関する基礎的な知識を習得し、学習指導案が作成できる。 3. 情報教育の進め方について知り、自身でも活用することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育方法の意義【講義】</p> <p>第2週 子どもの学び、学習の展開【講義】</p> <p>第3週 授業方法の理論【講義】</p> <p>第4週 学びの実践1：授業形態と学習指導の理解【講義・演習】</p> <p>第5週 学びの実践2：学習課題と指導技術の理解【講義・演習】</p> <p>第6週 学びの実践3：授業展開の構想【講義・演習】</p> <p>第7週 子どもの実態・理解に即した授業づくり【講義・演習：学習指導案・展開案の作成】</p> <p>第8週 授業過程・単元計画の作成【講義・演習：授業計画と授業方法】</p> <p>第9週 授業の評価1：目的と役割【講義】</p> <p>第10週 授業の評価2：評価の種類と方法【講義】</p> <p>第11週 生活指導と人間形成【講義】</p> <p>第12週 生活指導と内容と方法【講義・演習】</p> <p>第13週 情報教育の進め方【講義】</p> <p>第14週 学習でのICT活用【講義】</p> <p>第15週 授業研究の新しい視点と方法【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃見かける子どもの言動に興味をもち観察する。 ・実践的な情報・事例を提供し、必要に応じて指導案作成や演習を実施する。
成績評価	受講状況40%、課題提出30%、演習・発表30%
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料・プリントを配布。
備考	学ぶこと、教えることについて問い直し、学習指導や生活指導の基本的な知識・スキルについて学ぶ。

科目名	幼児指導
単位数	2単位
担当教員	長澤英子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭
授業概要	子どもの発達を正しく理解し、その発達を支えるための指導・援助について理解する。また、幼稚園教育要領で示されている保育内容を基本に、幼児の遊びや生活をどのように援助したらよいかを演習やグループワークを通して学ぶ。
到達目標	1. 幼児の発達の理解し、それに応じた援助方法を身に付ける。 2. 保育内容についての知識を理解し、それを指導するためのスキルを習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 幼児の指導とは【講義】</p> <p>第2週 遊びを通じた幼児理解【講義・討議】</p> <p>第3週 ごっこ遊びの指導【講義・演習】</p> <p>第4週 お店やさんごっこの計画【演習】</p> <p>第5週 お店やさんごっこの実際【演習】</p> <p>第6週 絵本・紙芝居（読み聞かせ）【講義・演習】</p> <p>第7週 指導の実際（ペープサートの基本）【講義・演習】</p> <p>第8週 指導の実際（ペープサートの製作）【演習】</p> <p>第9週 指導の実際（ペープサートの発表）【演習】</p> <p>第10週 指導計画の作成（指導案）【講義・演習】</p> <p>第11週 指導の実際（オペレッタ企画）【講義・演習】</p> <p>第12週 指導の実際（オペレッタ練習）【演習】</p> <p>第13週 指導の実際（オペレッタ製作）【演習】</p> <p>第14週 指導の実際（オペレッタ発表）【演習】</p> <p>第15週 保育現場における幼児指導の実際と留意点【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	1年次の保育内容演習言葉の復習。また、必要に応じて指導案作成や演習を実施する。
成績評価	受講状況30%、発表・演習30%、課題提出40%
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料・プリントを配布する。
備考	

科目名	教養講座②
単位数	1単位
担当教員	教養講座運営担当
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	教養教育科目の卒業必修科目である。内容は大きく3分野からなり、第1分野として日本の伝統の中で継承されてきた芸術・文化を知ること、第2分野として現代社会の状況を主体的に学ぶこと、第3分野としてコミュニケーションスキルを習得することを目的とし、期間中7回程度の授業を実施する。
到達目標	第1分野では伝統文化を理解するとともに豊かな情感を育むこと、第2分野では現代社会について理解を深め自らのキャリアと結びつけ主体的に学ぶこと、第3分野ではコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけることができる。
授業内容・方法	<p>○みどり祭（1日目）</p> <p>○みどり祭（2日目）</p> <p>○美術・演劇鑑賞</p> <p>※上記講座を含め、学科ごとに講座を全8回程度設定する。</p>
準備・発展学習	
成績評価	受講状況に基づき単位認定を行う。 講座によっては提出物課題を課すことがある。
教科書	使用しない。適宜資料を配付する。
備考	別途配布する「教養講座時間割」を参照し、出席すること。

科目名	国際関係
単位数	2単位
担当教員	正田浩由
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	今世界では様々な問題が起きている。身近なもので言えば、日中・日韓関係の緊張感の高まりや、沖縄の米軍基地問題（日米関係）など。それらは何故起きるのか。そして、それらを解決するために、我々はどのように考え行動すべきなのか。机上の空論ではなく、現在起きていることを自身の問題として常に念頭に置きつつ、国際政治について考察する。
到達目標	内向きの姿勢ではなく、世界の中の日本という感覚を常に持ち、自身の問題として、国際政治について主体的に考えられるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 国際関係（国際政治学、国際政治史）を学ぶ意味について【講義】</p> <p>第2週 ヨーロッパにおける勢力均衡（バランス・オブ・パワー）について【講義】</p> <p>第3週 第一次世界大戦とその帰結について【講義】</p> <p>第4週 集団安全保障体制について【講義】</p> <p>第5週 ナチス・ドイツの台頭と資本主義について【講義】</p> <p>第6週 第二次世界大戦とその帰結について【講義】</p> <p>第7週 冷戦について【講義】</p> <p>第8週 EU（欧州連合）について【講義】</p> <p>第9週 日本の開国（江戸時代から明治時代への移行）について【講義】</p> <p>第10週 明治期日本の朝鮮半島への関与について【講義】</p> <p>第11週 日本の植民地経営（朝鮮半島）について【講義】</p> <p>第12週 1945年以降の日本と韓国との関係について【講義】</p> <p>第13週 沖縄と日米関係について【講義】</p> <p>第14週 冷戦終結後の国際情勢について【講義】</p> <p>第15週 21世紀における日本とアジア諸国との関係について【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験（筆記試験）</p>
準備・発展学習	今世界で何が起きているかを知るために、見出しだけでも良いので、新聞に目を通すようにしてください。なお、学期中に一度小テストを行います。
成績評価	定期試験（筆記試験）60%、受講状況25%、授業内試験（小テスト）15%
教科書	教科書なし
備考	

科目名	経済のしくみ
単位数	2単位
担当教員	武井安彦
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎秘書士
授業概要	経済現象を理解するのに必要とされる基本的知識を、日本経済の現状を紹介しながら学ぶ。現在の経済は、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて目まぐるしく移動することで成立しているため、グローバルな経済取引がおこなわれるしくみについて学ぶ。また、家計・企業・政府が経済活動においてどのような役割を持っているかを学ぶ。
到達目標	①市場経済の基本的なしくみを理解して、日本経済の現状を分析することができる。 ②金融の働き、経済の国際化の進展について論じることができる。 ③政府の役割と財政問題、社会保障制度等について考察できる。
授業内容・方法	<p>第1週 経済の基本用語と経済学の考え方【講義】</p> <p>第2週 GDPのしくみと経済活動【講義】</p> <p>第3週 景気指標と景気変動（失業問題を考える）【講義・討議】</p> <p>第4週 少子高齢化社会、雇用の流動化（日本経済への影響を考える）【講義・討議】</p> <p>第5週 物価指数とインフレーション・デフレーション【講義】</p> <p>第6週 市場メカニズムのしくみ【講義】</p> <p>第7週 市場メカニズムの限界（市場の失敗と問題点を考える）【講義・討議】</p> <p>第8週 日本的経営の成立と変貌、企業の海外展開（産業空洞化を考える）【講義・討議】</p> <p>第9週 政府の予算と財政（財政赤字を考える）【講義・討議】</p> <p>第10週 貨幣の役割と日本銀行【講義】</p> <p>第11週 金融政策のしくみとその歴史【講義】</p> <p>第12週 証券・金融市場のしくみと役割（金融の役割を考える）【講義・討議】</p> <p>第13週 国際収支と国際貿易のしくみ【講義】</p> <p>第14週 外国為替市場とその役割【講義】</p> <p>第15週 各国経済の動きと経済連合（自由貿易について考える）【講義・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	①講義ノートを予習し、提示された論点に対する自分の意見・根拠を考える。 ②板書・討議を参考にして、講義ノートを整理し、論点についてまとめる。
成績評価	授業内試験70%、課題提出15%、受講状況15%
教科書	『Q&A 日本経済の基本100（2013年版）』日本経済新聞社、2012年
備考	①授業内容に関連した論点、日本経済の問題についてのレポートを適宜課す。 ②経済を理解するためには「しくみ」と「制度」が重要であることを理解してほしい。

科目名	企業の知識
単位数	2単位
担当教員	武井安彦
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	現代の経済活動、特に生産活動の主要なプレーヤーは企業である。この授業では、企業の法的な存在である「会社」、すなわち「法人格を有する組織であり、営利を目的とした集団」である会社の活動に関する基礎知識を学ぶ。企業（会社）の知識を学ぶことによって、自らのキャリアをデザインするために必要な基礎知識を身につける。
到達目標	①会社の種類と設立の方法、会社の経営資源と経営計画に関する知識を応用できる。 ②会社の組織、仕事の内容、人事制度を理解し、キャリアデザインに活用できる。 ③会社の財務や経営手法に関する基本的知識を身につけ、経営分析に活用できる。
授業内容・方法	<p>第1週 会社の種類と特徴、設立と解散【講義】</p> <p>第2週 会社の経営とステークホルダー【講義・討議】</p> <p>第3週 会社の経営資源と経営計画、経営理念【講義・討議】</p> <p>第4週 会社組織のしくみ①（株主総会、取締役、監査役など）【講義】</p> <p>第5週 会社組織のしくみ②（機能別組織、事業部制、持ち株会社とグループ経営など）【講義】</p> <p>第6週 会社の仕事のしくみ（管理職、総務、経理、営業、流通、開発、企画・広報）【講義】</p> <p>第7週 会社の人事制度とキャリア・デザイン①（賃金制度、人事制度、福利厚生）【講義】</p> <p>第8週 会社の人事制度とキャリア・デザイン②（転職・退職、女性の労働環境）【講義・討議】</p> <p>第9週 会社の数字①（売上と利益、損益計算書、損益分岐点など）【講義】</p> <p>第10週 会社の数字②（会社の資産と負債、貸借対照表など）【講義】</p> <p>第11週 会社の数字③（財務指標、資金調達、税金など）【講義・討議】</p> <p>第12週 会社の経営手法①（成長戦略、M&A、リストラクチャリングなど）【講義】</p> <p>第13週 会社の経営手法②（コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、環境）【講義】</p> <p>第14週 事例研究の発表①【発表】</p> <p>第15週 事例研究の発表②【討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	①講義ノートを予習し、提示された論点に対する自分の意見・根拠を考える。 ②板書・討議を参考にして、講義ノートを整理し、論点についてまとめる。
成績評価	授業内試験70%、発表（事例研究の口頭発表）15%、受講状況15%
教科書	坂田岳史『会社のしくみ』日本実業出版社、2007年
備考	①授業内容に関連した課題を適宜課す。 ②受講生には、関心のある企業について、事例研究を調査・発表してもらおう。

科目名	生活と環境
単位数	2単位
担当教員	降旗節夫
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	私たちの周りには自然や社会などの膨大な環境がある。これらを多角的に捉えて、理解することで快適な生活を送ることが世界人類全ての望みである。これを達成するためには、自然社会が抱える様々な問題を一つ一つ検討して自分の意思を正確に表現したり、適切な行動をとることが必要である。これが自らを社会に貢献させる礎になるものと考えている。
到達目標	①地球の環境問題は何かを理解し、環境保全の過程を修得できる。②人間と自然の関わりを自らが体験することで環境改善のための実践的態度が育成できる。③仮説の立て方とその検証法の学習から科学的思考能力が育成できる。④環境教育が実践できる。
授業内容・方法	<p>第1週 地球環境の現状を分析する（プリントまたはDVD）</p> <p>第2週 環境問題の歴史について講義し、討論する（グループ討論）</p> <p>第3週 自然環境と人間、特に気候と大気と水の環境について講義し、討論する（グループ討論）</p> <p>第4週 環境汚染（上下水道、廃棄物、大気など）について講義する（プリント）</p> <p>第5週 環境汚染とリサイクル法の関係について討論する（グループ討論）</p> <p>第6週 埋蔵資源とその活用について講義する（プリント）</p> <p>第7週 自然災害・破壊とその復旧について講義する（プリント）</p> <p>第8週 効用と人工災害、原子力発電と化石燃料の利用による発電について討論する（DVD）</p> <p>第9週 地球温暖化とその改善策について講義する（プリント）</p> <p>第10週 オゾン層破壊とその原因について講義する（プリント）</p> <p>第11週 酸性雨の原因と対策について講義する（プリント）</p> <p>第12週 少子化・高齢化社会と人口問題について講義する（DVD）</p> <p>第13週 自然の恵みと家庭生活について討論する（グループ討論）</p> <p>第14週 快適な生活空間とは何かを討論する（グループ討論）</p> <p>第15週 日本列島の自然環境について討論する（グループ討論）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	プリントの予習とノートの復習を行うこと。
成績評価	課題提出50%、受講状況30%、発表と討論20%
教科書	『生活の科学と地球の環境』菅野善則著 開成出版
備考	新聞、テレビの環境問題に留意し、常に最新情報の収集に努めること。

科目名	日本語表現
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	本授業では、人前での話し方(スピーチ)、目的に応じた文章の書き方(就職試験などに対応した小論文、報告・連絡文書、手紙・Eメールなど)を学び、語彙や敬語の知識を深め、社会人基礎力としての日本語表現を身につける。また、古典から現代までの文学作品に触れ、優れた日本語表現を鑑賞する態度を身につける。
到達目標	1. 日本語表現のための知識(漢字・語彙・敬語など)が身についている。 2. 口語表現・文章表現の能力を高め、社会生活に応用することができる。 3. 文学作品を分析し、論理的に意見を述べることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 口語表現：スピーチとコメント①【発表】</p> <p>第2週 口語表現：スピーチとコメント②【発表】</p> <p>第3週 口語表現：スピーチとコメント③【発表】</p> <p>第4週 文章表現：語彙力を高める【講義・演習】</p> <p>第5週 文章表現：話しことばと書きことば【講義・演習】</p> <p>第6週 文章表現：要旨をまとめる【講義・演習】</p> <p>第7週 文章表現：反論を想定する【講義・演習】</p> <p>第8週 文章表現：課題文型小論文【演習】</p> <p>第9週 文章表現：データ型小論文【演習】</p> <p>第10週 講読：古典文学を読む【講義】</p> <p>第11週 講読：近代文学を読む【講義】</p> <p>第12週 講読：現代文学を読む【講義】</p> <p>第13週 実用的な日本語表現：敬語【講義・演習】</p> <p>第14週 実用的な日本語表現：報告・連絡文書【演習】</p> <p>第15週 実用的な日本語表現：手紙・Eメール【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	自ら情報を収集し課題を解決するためには、日常的な読書の習慣が重要である。課題小論文は添削して返却するので、書き直して提出すること。
成績評価	課題提出40%、授業内試験30%、受講状況20%、発表10%
教科書	教科書は使用しない。
備考	国語辞典(電子辞書でよい)を用意する。

科目名	プログラミング
単位数	1単位
担当教員	年森敦子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○秘書士
授業概要	PC演習を通してプログラミングの基礎について学ぶ。プログラミング言語として幅広く使われているVisual Basic 2005を使用し、オブジェクト指向プログラミングの基礎的知識とプログラム作成方法を習得する。
到達目標	1. Visual Basic言語を使用できるようになる。 2. 論理的な考え方ができるようになる。 3. 簡単なプログラムを作成できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 プログラミング基礎(Visual Basic入門：概要と基本操作) (演習)</p> <p>第2週 プログラミング基礎(Visual Basic入門：文字の表示、計算) (演習)</p> <p>第3週 プログラミング基礎(Visual Basic入門：関数) (演習)</p> <p>第4週 プログラムの組み立てと制御 (プログラムの飛び越しと分岐) (演習)</p> <p>第5週 プログラムの組み立てと制御 (プログラムの繰り返し) (演習)</p> <p>第6週 プログラムの組み立てと制御 (プログラムの分割と構造化) (演習)</p> <p>第7週 いろいろな処理 (配列の処理) (演習)</p> <p>第8週 いろいろな処理 (文字列の処理) (演習)</p> <p>第9週 いろいろな処理 (グラフィックス：図形の描画) (演習)</p> <p>第10週 いろいろな処理 (グラフィックス：画像の取り扱い) (演習)</p> <p>第11週 いろいろな処理 (ファイル) (演習)</p> <p>第12週 いろいろな処理 (応用プログラム：電光板、バイオリズムなど) (演習)</p> <p>第13週 課題1 (課題提示と解説) (講義形式での解説と演習)</p> <p>第14週 課題2 (課題作成) (演習)</p> <p>第15週 課題3 (課題発表) (演習と討議)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	1年次受講の情報処理の復習。
成績評価	課題提出 60%、 受講状況 40%
教科書	教科書なし。必要に応じプリント配布。
備考	

科目名	英語コミュニケーション②
単位数	1単位
担当教員	桐生直幸
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◇小学校教諭, ◇幼稚園教諭, ○秘書士
授業概要	日常的シチュエーションや異文化に関する様々なトピックを扱ったテキストを通して、英語コミュニケーションの基礎表現を学び、また英語で身近な情報を伝える演習を行うことで表現力の向上を図る。
到達目標	1. 日常的状況における基礎的英語コミュニケーション能力を獲得する。 2. 異文化に対する基礎的知識を獲得する。
授業内容・方法	<p>第1週 Introduction (英語学習)、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 How's the weather? 天候【講義・DVD視聴】</p> <p>第3週 How's the weather? 接続詞【講義・演習】</p> <p>第4週 On vacation 旅行【講義・演習】</p> <p>第5週 On vacation 所有代名詞・所有形容詞【講義・演習】</p> <p>第6週 Risk-takers 危険な仕事【講義・DVD視聴】</p> <p>第7週 Risk-takers be動詞の過去形【講義・演習】</p> <p>第8週 Personal heroes 憧れの人【講義・演習】</p> <p>第9週 Personal heroes 規則動詞の過去形【講義・演習】</p> <p>第10週 Try to remember! 記憶【講義・DVD視聴】</p> <p>第11週 Try to remember! 不規則動詞の過去形【講義・演習】</p> <p>第12週 Go back to sleep! 睡眠【講義・演習】</p> <p>第13週 Go back to sleep! 一般動詞の疑問文【講義・演習】</p> <p>第14週 Review 練習問題及び総合復習【演習】</p> <p>第15週 In-class test 授業内試験【スピーキングテスト】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	付属CD-ROMを使い、各週の授業内容の復習をすること。
成績評価	受講状況 50%、授業内試験 50%
教科書	"World Link Combo Split 1A (2nd ed.)" by S. Stempleski et al., Heinle Cengage Learning.
備考	毎回、英語辞書を持参すること。

科目名	相談援助演習
単位数	2単位
担当教員	太田敬子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士，◎児童厚生員
授業概要	現代社会において多様な生活課題を抱え援助を必要とする児童や家族を理解し、地域を視野に入れた相談援助の知識と技術の基本とその実際について学びます。人権尊重、自立支援の視点に立ち、他職種と連携協働した相談援助の実際を理解していきます。
到達目標	①相談援助の概要、方法、技術及び具体的展開について習得する。②保育士が児童家庭福祉領域で行う援助の実際事例の分析、考察を進め適切な相談援助ができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 相談援助の意義～保育とソーシャルワーク・・・保育者の担う相談援助とは</p> <p>第2週 相談援助における援助関係と原理・原則</p> <p>第3週 相談援助場面の理解～面接場面、環境等</p> <p>第4週 相談援助における基本的コミュニケーション</p> <p>第5週 相談援助におけるソーシャルワークの方法と技術～相談援助の技術・アプローチ</p> <p>第6週 相談援助とソーシャルワークの方法、技術～相談援助の具体的展開過程①</p> <p>第7週 相談援助とソーシャルワークの方法、技術～相談援助の具体的展開過程②</p> <p>第8週 相談援助とソーシャルワークの方法、技術～相談援助の計画立案と実施①</p> <p>第9週 相談援助とソーシャルワークの方法と技術～相談援助の計画立案と実施②</p> <p>第10週 相談援助における関係機関との連携、協働</p> <p>第11週 社会資源の活用、調整、開発～エコマップの作成</p> <p>第12週 記録と評価～記録の取り方、内容、様式、評価</p> <p>第13週 事例分析～虐待の予防と対応等</p> <p>第14週 事例分析～障害のある子どもとその保護者への支援</p> <p>第15週 事例分析～多様な社会資源を活用する家族支援の実際</p> <p>定期試験等 定期試験なし</p>
準備・発展学習	準備学習：教科書で事前確認を行うこと。復習：配布資料、小テストを活用して復習。
成績評価	授業内小テスト50%、課題提出20%、受講状況30%
教科書	①井元真澄編著「保育士のための相談援助」大学図書出版 2012年 ②事例検討やロールプレイのための配布資料が多数あります。
備考	演習科目であることから、学生相互のグループワークや事例分析、ロールプレイなどを取り入れて進めるので積極的授業参加を期待します。

科目名	臨床心理学
単位数	2単位
担当教員	越智幸一
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	われわれ人間は、成長過程の中でさまざまな不適応や悩みを抱える存在です。臨床心理学はこうした問題を軽減したり、解消したりすることを目指す学問です。この授業では、教育・保育の上で、さまざまなつまずきを抱える子どもたちを援助するための実践的な知識を紹介していきます。
到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な諸理論、技法についてしっかりと理解している。2. 子どもたちが抱えるさまざまな問題に対し、臨床心理学的な観点からアプローチできる。3. 自分自身の悩みについても内省し、それを軽減する手段を身につけている。
授業内容・方法	<p>第1週 臨床心理学の歴史と現状【講義】</p> <p>第2週 パーソナリティ理論の諸相【講義】</p> <p>第3週 パーソナリティのアセスメント【講義】</p> <p>第4週 精神分析理論【講義】</p> <p>第5週 精神分析療法【講義】</p> <p>第6週 ユング心理学とその臨床【講義】</p> <p>第7週 ロジャーズ理論とクライエント中心療法【講義】</p> <p>第8週 グループアプローチ（エンカウンターグループ）【講義】</p> <p>第9週 エリクソンの発達理論【講義】</p> <p>第10週 早期の発達理論【講義】</p> <p>第11週 学校臨床（スクールカウンセリング・教育相談）【講義】</p> <p>第12週 精神科医療における技法（認知行動療法とソーシャルスキルトレーニング）【講義】</p> <p>第13週 メンタルヘルスについて【講義】</p> <p>第14週 子育て支援における心理臨床【講義】</p> <p>第15週 発達障害に対する対応【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと・毎回の講義終了時に提示する復習課題を期限までに提出。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『実践に役立つ臨床心理学 改訂版』塩崎尚美、北樹出版
備考	

科目名	子どもの保健②																																																	
単位数	2単位																																																	
担当教員	片川智子・大津真優																																																	
開講学科	初等教育学科																																																	
開講学年	2年																																																	
開講学期	秋semester																																																	
免許・資格課程との対応	◎保育士																																																	
授業概要	「こどもの保健②」では「子どもの保健①」で得た知識を基本に、保育の場における保健活動の実践ができるように授業を展開する。																																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保育環境を整え、疾病・症状に対する適切な対応を述べられる。 2. 子どもの事故の特徴を理解し、保育の場における事故防止対策が述べられる。 3. 保育における保健活動の意義を理解し、保健活動の実施ができるようになる。 																																																	
授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>保育環境の意義、衛生管理の方法、安全管理の方法</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>母子保健対策、保健活動と家庭・地域との連携・協働</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>感染症の予防と対策</td> <td>【講義・DVD教材】</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>保育における看護① 発熱、咳、喘鳴、呼吸困難</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>保育における看護② 嘔吐、下痢、脱水、便秘</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>保育における看護③ 腹痛、脱水、けいれん、</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>個別的な配慮を必要とする子どもへの対応</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>障がいのある子どもへの適切な対応</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>子どもの事故の特徴と幼児視野体験</td> <td>【講義・演習】</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>災害への備えと危機管理</td> <td>【講義】</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>保育における保健活動とは</td> <td>【講義・まとめテスト】</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>保健計画の作成：保健指導とは、子どもの健康問題の把握</td> <td>【演習】</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>保健計画の作成：保健指導内容の決定と教材の選定</td> <td>【演習】</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>保健指導の実際と評価：保健指導の発表</td> <td>【演習】</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>保健指導の実際と評価：保健指導の発表</td> <td>【演習】</td> </tr> <tr> <td>定期試験等</td> <td colspan="2">定期試験は実施せず</td> </tr> </table>		第1週	保育環境の意義、衛生管理の方法、安全管理の方法	【講義】	第2週	母子保健対策、保健活動と家庭・地域との連携・協働	【講義】	第3週	感染症の予防と対策	【講義・DVD教材】	第4週	保育における看護① 発熱、咳、喘鳴、呼吸困難	【講義】	第5週	保育における看護② 嘔吐、下痢、脱水、便秘	【講義】	第6週	保育における看護③ 腹痛、脱水、けいれん、	【講義】	第7週	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	【講義】	第8週	障がいのある子どもへの適切な対応	【講義】	第9週	子どもの事故の特徴と幼児視野体験	【講義・演習】	第10週	災害への備えと危機管理	【講義】	第11週	保育における保健活動とは	【講義・まとめテスト】	第12週	保健計画の作成：保健指導とは、子どもの健康問題の把握	【演習】	第13週	保健計画の作成：保健指導内容の決定と教材の選定	【演習】	第14週	保健指導の実際と評価：保健指導の発表	【演習】	第15週	保健指導の実際と評価：保健指導の発表	【演習】	定期試験等	定期試験は実施せず	
第1週	保育環境の意義、衛生管理の方法、安全管理の方法	【講義】																																																
第2週	母子保健対策、保健活動と家庭・地域との連携・協働	【講義】																																																
第3週	感染症の予防と対策	【講義・DVD教材】																																																
第4週	保育における看護① 発熱、咳、喘鳴、呼吸困難	【講義】																																																
第5週	保育における看護② 嘔吐、下痢、脱水、便秘	【講義】																																																
第6週	保育における看護③ 腹痛、脱水、けいれん、	【講義】																																																
第7週	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	【講義】																																																
第8週	障がいのある子どもへの適切な対応	【講義】																																																
第9週	子どもの事故の特徴と幼児視野体験	【講義・演習】																																																
第10週	災害への備えと危機管理	【講義】																																																
第11週	保育における保健活動とは	【講義・まとめテスト】																																																
第12週	保健計画の作成：保健指導とは、子どもの健康問題の把握	【演習】																																																
第13週	保健計画の作成：保健指導内容の決定と教材の選定	【演習】																																																
第14週	保健指導の実際と評価：保健指導の発表	【演習】																																																
第15週	保健指導の実際と評価：保健指導の発表	【演習】																																																
定期試験等	定期試験は実施せず																																																	
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み把握しておくこと。 授業時に提示する課題を期限までに提出。																																																	
成績評価	授業内試験40%、課題提出30%、受講状況30%																																																	
教科書	『子どもの保健Ⅱ』 佐藤益子 他編 ななみ書房 2012																																																	
備考	初回に受講方法を説明する。 【演習】はグループワークで行い、指導を完成させる。																																																	

科目名	障害児保育
単位数	2単位
担当教員	伊藤弘志
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎保育士
授業概要	保育士にとって必要な障害についての基礎知識、障害児保育の目標と保育の実際について学ぶ。また、わが子の障害を受容しかねている保護者に寄り添い、受け止め、育児を支援していく姿勢と具体的方法について学ぶ。
到達目標	①障害児保育の目標と方法について理解し、その方法を述べられる。②障害についての基礎知識と共感的視点について理解し、障害特性を踏まえた保育内容と方法を習得し、保育場面で工夫できる。③家族支援のあり方についての理解と支援方法について習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 「障害児保育」の意義・目的、仕組み【ビデオ視聴と解説】</p> <p>第2週 「障害」の意味：制度的・WHOの概念、子どもの障害の意味【講義】</p> <p>第3週 障害福祉の思想と基本理念：ノーマライゼーションが提供したこと【講義】</p> <p>第4週 障害児保育の歴史と形態【講義】</p> <p>第5週 障害特性と保育の留意点 (1) 知的障害の定義と原因、発達の特徴【講義】</p> <p>第6週 (2) 知的障害児の保育上の実際と留意点【講義】</p> <p>第7週 (3) 広汎性発達障害 (PDD) とは【DVD視聴と解説】</p> <p>第8週 (4) 自閉症、アスペルガー症候群の特性【DVD視聴と解説】</p> <p>第9週 (5) 自閉症、アスペルガー症候群の保育の実際【講義】</p> <p>第10週 (6) ADHD,LDの特性と保育の実際【講義】</p> <p>第11週 (7) 肢体不自由児の保育の実際【講義】</p> <p>第12週 療育システム：早期発見・早期療育、関係機関との連携【講義】</p> <p>第13週 障害受容の過程と障害児を持つ家族の問題、家族支援【講義】</p> <p>第14週 保育所での障害児の受け入れ準備と行事への参加、チームワーク【講義】</p> <p>第15週 まとめ (障害児保育と保育者の役割) 【討議】</p> <p>定期試験等 定期試験 (60分)</p>
準備・発展学習	配布レジュメ、教科書などにより事前・事後学習を行うこと。 障害児・者とふれ合う機会をたくさん持って欲しい。
成績評価	定期試験 (80点)、受講状況 (20点)
教科書	障害児保育 …子どもとともに成長する保育者を目指して… 藤永 保 監修 阿部・大熊・小泉・田中・村田 著 萌文書林
備考	実習や障害児・者との関わりの中での疑問・事例などを積極的に質問して欲しい。そのやり取りで理解を深めたい。

科目名	リトミック
単位数	2単位
担当教員	鈴木恵津子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	リトミック教育の基礎知識や概念を学び、子どもと向き合ったときに、どのように活用していくかを考え、実践していく。手遊びや子どもの歌から発展し、身体の動きと一体となった音楽表現を体得する。同時に、子どもの動きに合わせたピアノ即興演奏も学ぶ。
到達目標	1. リトミック教育の基礎的な知識を理解し、自ら意見を述べる。 2. 音楽と動きが一体となった表現活動ができる。 3. 子どもへのリトミック指導法を習得し、工夫する。
授業内容・方法	<p>第1週 ダルクローズ・リトミック（概要とねらい）【講義】</p> <p>第2週 リトミック教育の基礎（即時反応）【演習】</p> <p>第3週 リトミック教育の基礎（フォローとカノン）【演習】</p> <p>第4週 呼吸とフレーズ（呼吸はすべての基礎。緊張と弛緩、脱力）【演習】</p> <p>第5週 呼吸とフレーズ（モノを使ってフレーズ表現・遊び）【演習】</p> <p>第6週 拍とリズム（からだのリズムから音楽のリズムを捉える）【演習】</p> <p>第7週 歩くとは（様々な歩きに気づき、動きに合わせて音楽をつくる）【演習】</p> <p>第8週 クラッピングとは（様々なクラッピングに気づき、曲想の変化を感じ取る）【演習】</p> <p>第9週 リズムパターン（ことばのリズムと音楽リズムについて考える）【演習】</p> <p>第10週 即興演奏の基礎（声を使った即興表現を体験する）【演習】</p> <p>第11週 即興演奏の基礎（ピアノを使った即興表現を体験する）【演習】</p> <p>第12週 プラスティック アニメ（音楽を視覚的に表現する）【演習】</p> <p>第13週 子どもへのリトミック指導の実際（物語から）【模擬授業・討議】</p> <p>第14週 子どもへのリトミック指導の実際（イメージ遊びから）【模擬授業・討議】</p> <p>第15週 まとめ（リトミック教育の展望）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を練習してくる。復習課題をまとめておき、期限までに提出。
成績評価	受講状況50%、発表50%
教科書	『うたって おどって おもちゃ箱』鈴木恵津子編著、教育芸術社
備考	動きやすい服装、シューズ（素足可）で。

科目名	レクリエーション実技②
単位数	1単位
担当教員	西島大祐
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎レクリエーションインストラクター
授業概要	『レクリエーション理論』及び『レクリエーション実技①』の学習内容を踏まえ、指導者としての表現力の向上を目指したリーダーシップトレーニングを中心に行っていく。対象を問わず幅広く支援・指導できる豊かな感性を身につけることを目指し、指導者としての実践力を高めていく。
到達目標	1. 様々な遊びを支援・指導の現場で活用できる実践力を身につける。 2. 対象に応じたレクリエーション指導の計画立案ができる。 3. ライフスタイルを豊かにし、絆を深められる指導者としての資質を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、コミュニケーション・ワークの展開（実技）</p> <p>第2週 コミュニケーションと信頼関係を築くホスピタリティの実践（実技）</p> <p>第3週 アイスブレイキングのプログラミング技術（実技）</p> <p>第4週 目的に合わせたレクリエーション・ワークの実践（実技）</p> <p>第5週 対象に合わせたレクリエーション・ワークの実践（実技）</p> <p>第6週 福祉レクリエーションのアクティビティ展開方法と安全安心の配慮づくり（実技）</p> <p>第7週 昔の遊びと自然環境を活用したゲームの実践（実技）</p> <p>第8週 身近な素材を使ったレクリエーションの計画と実践（実技）</p> <p>第9週 ニューススポーツの活用と実践①（ネット型スポーツ）（実技）</p> <p>第10週 ニューススポーツの活用と実践②（ボールを使用したスポーツ）（実技）</p> <p>第11週 ニューススポーツの活用と実践③（集団で楽しむスポーツ）（実技）</p> <p>第12週 対象者の課題に合わせたゲーム指導の実践（実技）</p> <p>第13週 レクリエーション事業における指導計画の作成（演習）</p> <p>第14週 レクリエーション事業における指導計画の実践（演習）</p> <p>第15週 レクリエーション事業における指導計画の評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に『レクリエーション理論』及び『レクリエーション実技①』を受講していることが望ましい。 各回、事前に教科書等の該当箇所を読み把握すること。
成績評価	発表・実践50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（財）日本レクリエーション協会、2008
備考	持ち物等については第1回の授業時に説明をする。

科目名	ムーブメント療法
単位数	2単位
担当教員	新井良保
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	ムーブメント療法は遊びの要素を持った楽しい身体運動で、感覚を育て、身体意識能力や心理的諸機能の向上を目指す療法であることを理解できるようにする。本講義では、ムーブメント法からの人・音楽・遊具など環境を上手に使った感覚運動プログラムによる健康・発達支援の実際を身に付ける。
到達目標	①ムーブメント療法の基本的考え方・理論を習得する ②ムーブメント療法からのアセスメント、ならびに遊具環境の重要性を理解できるようにする ④ムーブメント療法からの感覚運動プログラムによる健康・発達支援の実際を身に付ける
授業内容・方法	<p>第1週 ムーブメント療法とは、基本的考え方について【実技・講義】</p> <p>第2週 環境における音楽・遊具活用の意義・新しいムーブメント遊具の流れ【実技・講義】</p> <p>第3週 ムーブメント療法のもたらす効果【実技・講義】</p> <p>第4週 ムーブメント療法によるアセスメント「MEPA-II」【実技・講義】</p> <p>第5週 ムーブメント療法によるアセスメント「MEPA-R」【実技・講義】</p> <p>第6週 重度重複障害児の感覚運動指導（実践事例）【実技・講義】</p> <p>第7週 感覚運動発達とムーブメントプログラム【実技・講義】</p> <p>第8週 コミュニケーションとムーブメントプログラム【実技・講義】</p> <p>第9週 ムーブメント療法に役立つ遊具の活用【実技・講義・DVD教材】</p> <p>第10週 障害をもつ子の遊びと教材・教具【実技・講義・DVD教材】</p> <p>第11週 障害をもつ子の主な達成課題の意味と活用事例【実技・講義・DVD教材】</p> <p>第12週 障害の重い子どもへのムーブメント療法の実際【実技・講義】</p> <p>第13週 日本そして世界のムーブメント療法の動向【実技・講義】</p> <p>第14週 グループワーク（ムーブメント遊具環境）【実技・講義】</p> <p>第15週 家族支援に生かしたムーブメント療法の活用事例【実技・講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	振り返りとして前回のプリントを復習する。
成績評価	受講状況50%、中間・期末テスト30%、実技発表20%
教科書	教科書は指定せず、授業中に授業内容に関するプリントを配布
備考	初回時、講義、実技など受講方法ならびに成績評価に関する説明を行う。

科目名	地域福祉論
単位数	2単位
担当教員	鴨澤小織
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎児童厚生員
授業概要	多様な地域社会の問題に対して、自分自身で考えると共に、多くの関係者と共に連携し、協働する重要性を理解するために、事例等の検討を行い、現状の理解に努める。講義以外に、予め示した課題（例えば自分の住む町の福祉サービス）の発表や討議等多彩な手法により授業を進める。
到達目標	①児童とかかわる専門職として、地域福祉の担い手として必要な知識を学び、実行する視点を身につける。 ②地域住民の一員として地域福祉を推進する実践的な力をつける。
授業内容・方法	<p>第1週 地域福祉とは何か</p> <p>第2週 地域福祉の歴史と考え方</p> <p>第3週 なぜ地域福祉が必要なのか</p> <p>第4週 社会サービスと地域サービス</p> <p>第5週 コミュニティーソーシャルワークを理解する</p> <p>第6週 地域の主体とは何かを理解する</p> <p>第7週 ボランティア・NPO活動について学ぶ</p> <p>第8週 少子高齢化社会と地域福祉</p> <p>第9週 福祉のセーフティネット①</p> <p>第10週 福祉のセーフティネット②</p> <p>第11週 地域福祉の推進機関について理解する</p> <p>第12週 地域の問題をどう解決していくのか：事例研究</p> <p>第13週 演習①：自分の住む町の30年後を考える</p> <p>第14週 演習②：自分の住む町の30年後を考える</p> <p>第15週 まとめ 地域の中の自分</p> <p>定期試験等 実施しない</p>
準備・発展学習	地域に起きている問題の把握のために、新聞等で毎日ニュースに接すること。
成績評価	課題提出40%、プレゼンテーション30%、受講状況30%
教科書	教科書は指定せず、授業中にコピーを配布する。
備考	

科目名	秘書実務
単位数	2単位
担当教員	大竹奈穂子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎秘書士
授業概要	現代女性がグローバルな社会の中で活躍してゆくために必要な基本的な社会常識・秘書的な実務・日本人女性としてのマナー・美しい所作を身につける。秘書概論・秘書実務の両講義を通年で取られることをお勧めする。
到達目標	1. 秘書的な実務知識の基本を学ぶ 2. 敬語・状況対応・振る舞いなど社会人に通用する振る舞いを身につける 3. 実務技能検定協会主催の秘書技能検定3級・2級合格に対応できる知識を学ぶ。
授業内容・方法	<p>第1週 企業のしくみと女性の働き方</p> <p>第2週 秘書に求められる資質とは</p> <p>第3週 秘書の職務にはどのようなものがあるのか</p> <p>第4週 マナーと接遇1（敬語の使い方）</p> <p>第5週 マナーと接遇2（来客の対応）</p> <p>第6週 マナーと接遇3（儀礼と日本的作法）</p> <p>第7週 秘書の実務 1（情報整理・書類の管理と扱い）</p> <p>第8週 秘書の実務 2（敬弔の業務）</p> <p>第9週 秘書の実務 3（手紙の書き方 社交文書）</p> <p>第10週 秘書の実務 4（手紙の書き方 ビジネス文書）</p> <p>第11週 秘書の実務 5（電話応対・日本語と敬語）</p> <p>第12週 秘書の実務 6（報告・連絡・相談）</p> <p>第13週 秘書の実務 7（会議の準備と設営について）</p> <p>第14週 秘書の実務 8（スケジュール管理について）</p> <p>第15週 授業内試験 と 所作立ち振る舞い</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	日常生活の中で他人への気配り、心配りを行動で示し、美しい振る舞いを実践する
成績評価	授業内筆記試験 60% 出席状況 40%
教科書	「SHE'S 秘書ハンドブック」 株 ウィネット
備考	秘書技能検定を受験する学生は「早稲田教育出版社 秘書検定実問題集」を購入のこと

科目名	教育制度
単位数	2単位
担当教員	稲川英嗣・鈴木樹
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	教育制度の概要について学び、教育の法的根拠、制度的構造を把握する。義務教育を中心に学校制度・教育制度について理解する。教育制度の課題と改善についての関心を深め、改善への意見を発表し合う。
到達目標	1. 学校制度の概要を把握し、説明することができる。 2. 教育制度の課題について、自分の意見をまとめ、発表することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育制度を学ぶ意味を考える【講義】</p> <p>第2週 教育が行われる場と日本の学校体系【講義】</p> <p>第3週 義務教育制度と就学支援体制【講義】</p> <p>第4週 学校設置者と教育委員会制度【講義】</p> <p>第5週 「いじめ」問題から教育委員会制度を考える【講義・演習】</p> <p>第6週 小学校の教職員体制と校務分掌【講義】</p> <p>第7週 児童の管理及び指導について【講義・演習】</p> <p>第8週 教育課程編成と実施について【講義・演習】</p> <p>第9週 教科書制度【講義・演習】</p> <p>第10週 教員の職務・身分と養成制度【講義】</p> <p>第11週 教員のサービスと研修【講義】</p> <p>第12週 学級経営と保護者対応【演習】</p> <p>第13週 世界の学校教育体系【講義】</p> <p>第14週 人権教育の諸課題【講義・演習】</p> <p>第15週 教育改革の課題【講義】および小テスト</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	前時に配布した資料の論点を整理し、その内容について議論できるようにしておくこと。
成績評価	授業内試験60%、課題提出20%、受講状況20%
教科書	指定なし
備考	

科目名	特別活動の研究																																																																
単位数	2単位																																																																
担当教員	森友江																																																																
開講学科	初等教育学科																																																																
開講学年	2年																																																																
開講学期	秋semester																																																																
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭																																																																
授業概要	学習指導要領に示された特別活動の目標・内容等を理解するとともに、その教育機能を把握していく。また、学校における実践上の成果と課題を把握し、その課題解決に向けた先進的な取組の実践例を通して課題解決の方向を検討する。																																																																
到達目標	特別活動の目標・内容、実践上の課題を把握し、課題解決に向けた指導計画を作成することができる。「自主・集団・実践」という特別活動の特性に基づいた指導法を身につけることができる。																																																																
授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の内容</td> <td>学習上の留意点</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>特別活動の概観</td> <td>全体構造・自分史</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>特別活動の目標</td> <td>①学級生活を創る</td> <td>講義と演習</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td></td> <td>②学校生活を創る</td> <td>講義と事例研究</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td></td> <td>③特別活動と教科・道徳</td> <td>講義と事例研究</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>学級活動（1）係活動</td> <td>講義と事例研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>集会活動</td> <td>講義と事例研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>話し合い活動</td> <td>講義と事例研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td></td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>（2）生活への適応、健康安全</td> <td>講義と事例研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>児童会活動</td> <td>講義と事例研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>クラブ活動</td> <td>講義と演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>学校行事</td> <td>講義と演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>特別活動と評価</td> <td>講義と演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>特別活動と生き方教育</td> <td>講義と演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験等</td> <td>定期試験実施せず</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第1週	ガイダンス	授業の内容	学習上の留意点	第2週	特別活動の概観	全体構造・自分史	講義	第3週	特別活動の目標	①学級生活を創る	講義と演習	第4週		②学校生活を創る	講義と事例研究	第5週		③特別活動と教科・道徳	講義と事例研究	第6週	学級活動（1）係活動	講義と事例研究		第7週	集会活動	講義と事例研究		第8週	話し合い活動	講義と事例研究		第9週		演習		第10週	（2）生活への適応、健康安全	講義と事例研究		第11週	児童会活動	講義と事例研究		第12週	クラブ活動	講義と演習		第13週	学校行事	講義と演習		第14週	特別活動と評価	講義と演習		第15週	特別活動と生き方教育	講義と演習		定期試験等	定期試験実施せず		
第1週	ガイダンス	授業の内容	学習上の留意点																																																														
第2週	特別活動の概観	全体構造・自分史	講義																																																														
第3週	特別活動の目標	①学級生活を創る	講義と演習																																																														
第4週		②学校生活を創る	講義と事例研究																																																														
第5週		③特別活動と教科・道徳	講義と事例研究																																																														
第6週	学級活動（1）係活動	講義と事例研究																																																															
第7週	集会活動	講義と事例研究																																																															
第8週	話し合い活動	講義と事例研究																																																															
第9週		演習																																																															
第10週	（2）生活への適応、健康安全	講義と事例研究																																																															
第11週	児童会活動	講義と事例研究																																																															
第12週	クラブ活動	講義と演習																																																															
第13週	学校行事	講義と演習																																																															
第14週	特別活動と評価	講義と演習																																																															
第15週	特別活動と生き方教育	講義と演習																																																															
定期試験等	定期試験実施せず																																																																
準備・発展学習	「学習指導要領解説 特別活動」の該当部分を実践事例と照合して精読し、復習すること																																																																
成績評価	授業内レポート60% 受講状況20% 発表（事例研究・演習）20%																																																																
教科書	「小学校学習指導要領解説 特別活動」文科省著、東洋館、2011																																																																
備考	学生の小、中学校時代の特別活動経験と先進的实践事例から特別活動について学ぶ。																																																																

科目名	小学校英語教育法
単位数	2単位
担当教員	竹内清
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教科又は教職に関する科目〕○小学校教諭
授業概要	小学校外国語活動の指導方法や評価について理解を深め、年間指導計画や学習指導案の作成方法を学ぶ。小学校1年生から6年生まで各学年に応じた授業を展開できるよう、コミュニケーション活動の指導技術を学ぶとともに、発達段階に応じた指導の工夫を考えるなど実践力を身に付けられるよう授業を展開する。
到達目標	1. 外国語活動の指導法と評価を理解し、単元計画や学習指導案が作成できる。 2. 児童の発達段階による違いを理解し、学年に応じたコミュニケーション活動の指導技術を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス、外国語活動で求められる教員の資質【講義】</p> <p>第2週 基本的な外国語教授法、国際理解教育【講義】</p> <p>第3週 特別支援教育における外国語活動、小中連携のあり方【講義】</p> <p>第4週 第二言語習得論、関連領域からの示唆【講義】</p> <p>第5週 教材の使い方・選び方、ICT活用（電子黒板、デジタル教材等）【講義・演習】</p> <p>第6週 カリキュラム・単元計画の作成のポイント【講義】</p> <p>第7週 担任ならではの授業づくりとチームティーチング【DVD視聴・討議】</p> <p>第8週 評価の意義と評価方法、観点別評価と評価規準【講義】</p> <p>第9週 指導の基本と留意点、指導と評価の一体化【講義】</p> <p>第10週 発達段階に応じた指導の工夫、コミュニケーション活動と振り返りシート【講義】</p> <p>第11週 理論的背景の復習及び授業内試験【まとめテスト】</p> <p>第12週 学習指導案の作成【演習】</p> <p>第13週 授業実践と授業評価①【模擬授業】</p> <p>第14週 授業実践と授業評価②【模擬授業】</p> <p>第15週 授業評価とグループ討議【DVD視聴・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	あらかじめ『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』を読んでおくこと。 各回の講義授業後に教科書の該当箇所を復習し、理解を深めること。
成績評価	授業内試験40%、発表・実践40%、受講状況20%
教科書	岡秀夫・金森強（編著）『小学校英語教育の進め方―「ことばの」教育として―〔改訂版〕』成美堂、2009
備考	

科目名	教育方法・技術演習
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	学習指導や教育教材の扱いに際して、その具体的方法に関する体験的アプローチを含めた習得が深められるようにすすめる。受講生相互に集団的・個別的な模擬授業・実践的な指導場面を設定し、ロール・プレイング的体験学習をその軸に据えて展開する。子どもの意欲的な学習活動を想定し、自分ならどのような指導をするかを考える場とする。
到達目標	1. 教材研究や学習指導案作成を行い、授業構想を立案することができる。 2. 指導計画立案に関する学習指導の基礎的な知識・技能の習得し、実践的な授業が展開できる。 3. 授業分析の意味と方法を知り、それを用いて授業分析を行うことができる。
授業内容・方法	<p>第1週 学習指導を考える【講義】</p> <p>第2週 授業づくりの手がかり【講義・演習】</p> <p>第3週 授業計画（単元計画）の立案【講義・演習：計画立案】</p> <p>第4週 年間指導計画【講義・演習：計画立案】</p> <p>第5週 単元の展開指導計画立案【講義・演習：展開立案】</p> <p>第6週 学習指導案の作成1：指導案の種類と書式等について【講義・演習：指導案作成】</p> <p>第7週 学習指導案の作成2：教材研究について【講義・演習：グループ活動】</p> <p>第8週 学習指導案の作成3：学習展開について【講義・演習：グループ活動】</p> <p>第9週 模擬授業実践1【演習：グループ模擬授業】</p> <p>第10週 模擬授業実践2【演習：グループ模擬授業】</p> <p>第11週 模擬授業実践3【演習：グループ模擬授業】</p> <p>第12週 模擬授業実践の研究・報告【討議：指導法の考察・課題について】</p> <p>第13週 情報機器を活用した授業方法【講義】</p> <p>第14週 ICTを活用した授業設計【講義・発表】</p> <p>第15週 教育指導の創造・改善への方向と方策【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を支える教授・学習理論について理解し、授業実践への適用・応用を考える。 ・グループ活動において教材研究や授業構想を進め、協同的な授業実践を行う。
成績評価	受講状況40%、演習・発表40%、課題提出20%
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料・プリントを配布。
備考	授業づくりを通して、教師に求められる教材研究や授業デザイン、指導力を身につける。

科目名	教育相談
単位数	2単位
担当教員	橘明子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭
授業概要	教育相談活動ではカウンセリングの応用が求められる。本講義では、カウンセリングについての基礎的知識や技法等についての理解を深めながら、教育現場の中でどのように生かしていくのかについて学習する。そして、いじめや不登校などの具体的な問題を用いて、その対応の仕方を考える。
到達目標	1. カウンセリングに関する基礎的知識や方法を習得し、カウンセリングマインドを生かした教育実践ができる。 2. カウンセリングの知識を理解した上で、スクールカウンセラー・養護教諭や専門機関等との連携の在り方を理解する。
授業内容・方法	<p>第1週 教育相談とは何か【講義】</p> <p>第2週 カウンセリングマインドとは【講義・演習】</p> <p>第3週 開発的カウンセリング【講義・演習】</p> <p>第4週 教育相談に役立つさまざまな心理療法【講義】</p> <p>第5週 発達障害と教育相談【講義】</p> <p>第6週 心の問題の種類と教育相談【講義】</p> <p>第7週 心理テストとその利用【講義・演習】</p> <p>第8週 教育相談の実際①（不登校）【講義・演習】</p> <p>第9週 教育相談の実際②（いじめ）【講義・演習】</p> <p>第10週 教育相談の実際③（非行）【講義・演習】</p> <p>第11週 教育相談の実際④（学級崩壊）【講義・演習】</p> <p>第12週 保護者に対する支援【講義・演習】</p> <p>第13週 学校における教育相談の実際【講義・演習】</p> <p>第14週 関係機関との連携【講義・演習】</p> <p>第15週 教師のメンタルヘルス【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	準備学習については初回の授業時に説明する。
成績評価	課題・授業内試験80%、受講状況20%
教科書	教科書は使用せず、授業中にプリントを配付する。
備考	演習には積極的な態度で臨むようにしてください。

科目名	保育・教職実践演習（幼・小）
単位数	2単位
担当教員	佐藤康富・札本晃子・原孝成・中島朋紀・寶川雅子
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭・◎幼稚園教諭, ◎保育士
授業概要	履修履歴と各実習体験からの学びを確認する。保育・授業観察、実践者との意見交換、実践記録や保育VTRを基にしたグループ討議を行う。指導案の作成、模擬保育・授業、振り返りを行い、教材研究・環境構成・指導方法・評価などについて確認する。
到達目標	① 教員・保育者としての使命感・責任感・教育的愛情を自覚できる ② 教員・保育者にふさわしい社会性や対人関係能力、状況に応じた言動が取れる ③ 幼児・児童理解を基にした指導と個や集団への指導ができる
授業内容・方法	<p>第1週 「これからの教員に求められる資質能力とは（不易と流行、得意分野）」【講義・演習】</p> <p>第2週 授業・保育観察、併設校・園等教職員の講話と質疑【フィールドワーク】</p> <p>第3週 討議・問題点の整理（課題の洗い出しと整理）【演習・討議】</p> <p>第4週 事例研究Ⅰ 幼児・児童理解の内容と方法、理解に基づいた援助・指導【演習・討論】</p> <p>第5週 事例研究Ⅱ 保護者との連携、地域との連携、社会の動向【演習・討論】</p> <p>第6週 事例研究Ⅲ 学級運営、個と集団への指導方法【演習・討論】</p> <p>第7週 事例研究Ⅳ 特別な配慮を必要とする子どもへの対応【演習・討論】</p> <p>第8週 事例研究Ⅴ 上司・同僚との関係づくり、職業人としての責務【発表・協議】</p> <p>第9週 事例研究Ⅵ 子ども同士のトラブル・いじめ等への対処【ロールプレイング】</p> <p>第10週 同僚・上司との連携（教師間コミュニケーション）【ロールプレイング】</p> <p>第11週 乳児の保育原理【講義】</p> <p>第12週 学習指導案、保育指導計画の作成と活用の実際【演習・講義】</p> <p>第13週 模擬授業・保育【演習・討論】</p> <p>第14週 模擬授業・保育の省察と指導計画の再構成【演習・討論】</p> <p>第15週 保育教育への使命寛、責任感について【講義・討論】</p> <p>定期試験等 定期実験は実施しない。</p>
準備・発展学習	2年次春semesterまでの教育保育実習、履修カルテを省察した上で本授業に臨むこと。
成績評価	提出物（履修カルテと自己課題レポート、見学レポート、指導案等）80% 受講状況（グループ討議、事例研究、模擬授業・保育等の実施状況）20%
教科書	「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」その他関係資料
備考	参考書：「小学校教諭になるために」「幼稚園教諭になるために」「保育士になるために」

科目名	保育実習 I（居住型施設等）
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester履修登録
免許・資格課程との対応	◎保育士・◎児童厚生員
授業概要	施設において実際に11日間以上の実習を行う。観察実習や参加実習を行い日々実習日誌を作成したり、保育所の直接指導等を通して、児童福祉施設等の役割や機能について学び、子どもや障害者とのかかわりを通して子どもや障害者の理解について学び、その他多様な保育士の業務内容等を学ぶ。
到達目標	1 児童福祉施設等の役割や機能の理解。2 観察やかかわりから子どもや障害者への理解を深める。3 授業で学んだことを踏まえ、保育や保護者支援について学ぶ。4 保育の計画、観察、記録、自己評価等について理解する。5 保育士の業務内容、職業倫理を学ぶ。
授業内容・方法	<p>保育所実習 I（居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等）では、実習を通して以下の内容について学ぶ。</p> <p>1 施設の役割と機能</p> <p>（1）施設の生活と一日の流れを理解し、施設の役割や機能について理解する。</p> <p>2 子どもの理解</p> <p>（1）子どもや障害者の観察とその記録から、子どもや障害者を理解する。</p> <p>（2）子どもや障害者個々の状態に応じた援助やかかわり方を学ぶ。</p> <p>3 養護内容・生活環境</p> <p>（1）計画に基づく活動や援助の理解と子ども等の心身の状態に応じた対応を学ぶ。</p> <p>（2）子ども等の活動と生活環境について学び、健康管理や安全対策について理解する。</p> <p>4 計画と記録</p> <p>（1）支援計画の理解と活用を図る。</p> <p>（2）記録に基づく省察と自己評価について理解する。</p> <p>5 専門職としての保育士の役割と倫理</p> <p>（1）保育士の業務内容及び職員間の役割分担や連携について学ぶ。</p> <p>（2）保育士の役割と職業倫理について学ぶ。</p>
準備・発展学習	既習の学習内容を復習し把握する。保育実習指導、事前・事後指導を必ず受けること。
成績評価	認否により評価
教科書	実習日誌を必ず持参すること
備考	

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester履修登録
免許・資格課程との対応	○保育士
授業概要	実習Ⅰでの学びを踏まえ、11日間以上保育所での参加・観察実習や実習日誌の作成、実習生自ら作成する指導案に基づく責任実習、また保育士の直接指導等を通して保育所の機能や年齢に応じた保育の進め方、保護者・地域への支援、保育士の役割等を総合的に学ぶ。
到達目標	実践を通して①保育所の役割と機能 ②明確な視点を持った観察や関わり ③計画、実践、観察、記録、自己評価への取り組み ④業務内容や職業倫理 について理解を深める。保育や保護者支援について総合的に学ぶ。保育士としての自己課題を明確化する。
授業内容・方法	<p>保育実習Ⅱ（保育所）の実習内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> 養護と保育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態や活動の観察 保育所の生活の流れや展開の把握と保育士の等の動きや実践の観察 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 <ol style="list-style-type: none"> 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 入所児の保護者支援及び地域子育て家庭への支援と、地域社会との連携 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務及び職業倫理 自己課題の明確化
準備・発展学習	実習の目的・課題を明確に持つこと。責任実習などを通して保育に対する振り返りをし、次回に生かす努力を行うこと。
成績評価	認否により評価
教科書	
備考	事前・事後指導を期日までに受けること。提出物・報告事項の期限を守ること。

科目名	レクリエーション実習（学外）
単位数	1単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester履修登録
免許・資格課程との対応	◎レクリエーションインストラクター
授業概要	レクリエーションインストラクター資格取得に必要な学外実習を行う。 所定のレクリエーション事業に「参加者」及び「運営スタッフ」として参加する。
到達目標	レクリエーション事業に実際に参加することにより、レクリエーション活動に関する理解を深め、指導者としてのスキルを習得することができる。
授業内容・方法	※実際の事業参加については、所定の手続きを経て参加すること。
準備・発展学習	授業科目「レクリエーション理論」「レクリエーション実技①②」の履修を前提とする。
成績評価	レクリエーション事業参加状況により、単位を認定する。
教科書	「レクリエーション理論」「レクリエーション実技①②」で使用した教科書を準備する。 ただし、これは基本的に学外実習の際に持参するものではない。
備考	実習にあたっては学内の掲示等に十分留意し、その指示に従うこと。

科目名	教育実習（小学校）
単位数	4単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester履修登録
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎小学校教諭
授業概要	教員としての実践能力を養うために、実習校で担当教員の指導を受けつつ「観察」「実習」等の活動を体験する。実習に向けて、教育実習の意義や心構え、児童理解の方法や授業設計及び学級経営等について具体的に学び、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方となすべき課題を明確に認識する。
到達目標	1 教育実習の意義や内容等を理解し、教職に必須の知識や技能を身につける。 2 教育実習への意欲や使命感をもって参加する。
授業内容・方法	教育実習の目的の理解 実習校の教育計画の理解 （実習校の教育目標・指導計画・配属クラス等の理解） 教員としてのサービスの理解と実践 （勤務要領、遵守事項等の理解） 児童指導の理解と実践 各教科の授業参観と実習 学級経営等の実務の実習 教育実習日誌における観察・考察のまとめ 授業実習、全日経営の実践 学校事務等の実務の実践 教員としての役割や使命感、求められる教師像の理解と自覚 教育実習日誌に基づく事後指導
準備・発展学習	事前・事後指導、実習報告会への参加、教育実習指導の履修・修得
成績評価	実習校による評価、実習報告会の取り組み等を基に総合評価を行う。
教科書	教育実習要綱、教育実習日誌、その他
備考	教育実習指導（小学校）を履修・修得しておくこと

科目名	教育実習（幼稚園）
単位数	4単位
担当教員	
開講学科	初等教育学科
開講学年	2年
開講学期	春semester履修登録
免許・資格課程との対応	〔教職に関する科目〕◎幼稚園教諭
授業概要	幼稚園における園児の援助・指導やクラス運営、園務分掌、園内研究、職員会議等に関する実務の観察・参加・実習を行う。教員としてのサービスを理解・実践するとともに、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方及びなすべき課題を明確にする。
到達目標	1 教育実習の意義や内容等を理解し、教職に必須の知識や技能を身につける。 2 教育実習への意欲や使命感をもって参加する。
授業内容・方法	<p>教育実習の目的の理解</p> <p>実習園の教育計画の理解 （実習園の教育目標・指導計画・配属クラス等の理解）</p> <p>教員としてのサービスの理解と実践 （勤務要領、遵守事項等の理解）</p> <p>幼児指導の理解と実践</p> <p>保育参観と実習</p> <p>学級経営等の実務の実習</p> <p>教育実習日誌における観察・考察のまとめ</p> <p>部分実習、全日実習の実践</p> <p>園やクラス事務等の実務の実践</p> <p>教員としての役割や使命感、求められる教師像の理解と自覚</p> <p>教育実習日誌に基づく事後指導</p>
準備・発展学習	事前・事後指導、実習報告会への参加、教育実習指導の履修・修得
成績評価	実習園による評価、実習報告会の取り組み等を基に総合評価を行う。
教科書	教育実習要綱、教育実習日誌、その他
備考	教育実習指導（幼稚園）を履修・修得しておくこと

専攻科

科目名	保育サービス論
単位数	2単位
担当教員	礼本晃子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	現代社会における様々な保育サービスの実態と課題について学び、課題やあるべき姿を考える。授業は少人数の特徴を生かして調べる・まとめる・発表する・討議するなどを行う。可能な限り、いくつかの施設を訪問し、具体的な理解につなげる。
到達目標	①現代社会における保育サービスの類型とそれらの特徴について説明できる。 ②様々な保育サービスの現状や課題について例を挙げて説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション（授業の目標・進め方などを確認する。）【講義】</p> <p>第2週 保育サービスとは何か【講義・討議】</p> <p>第3週 様々な保育サービス①（保育所、幼稚園、こども園）【講義】</p> <p>第4週 様々な保育サービス②（認可外、家庭的保育）【講義】</p> <p>第5週 様々な保育サービス③（病児保育、病後児保育、休日保育、夜間保育）【講義】</p> <p>第6週 身近な保育サービスの実態調査から【発表・討議】</p> <p>第7週 身近な保育サービスの実態調査から【発表・討議】</p> <p>第8週 身近な保育サービスの実態調査から【発表・討議】</p> <p>第9週 様々な保育サービスのまとめ【講義・討議】</p> <p>第10週 諸外国における保育制度①【講義・討議】</p> <p>第11週 諸外国における保育制度②【講義・討議】</p> <p>第12週 社会の変化と多様な保育サービスの要求【講義】</p> <p>第13週 様々な保育サービスと就学前教育の保障【講義・討議】</p> <p>第14週 特徴的な地域の取り組み【発表・討議】</p> <p>第15週 保育サービスの今後の課題【講義・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。レポート提出。</p>
準備・発展学習	これまでの保育サービスについての学びを復讐しておく。
成績評価	課題提出60%、発表・討議40%
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
備考	身近な保育現場で、どのような保育サービスが展開されているのかに関心を持ち、積極的に観察するようにする。

科目名	子どもの運動生理
単位数	2単位
担当教員	松田広則
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎ムーブメント指導者
授業概要	幼児・児童期における活発な外遊びや体育・スポーツ活動が生涯スポーツへの基礎となり、生きる力を育む。身体運動では、神経系と骨格筋がそれぞれ適切に作用することや、呼吸・循環器系の働きが必要である。これらについて説明し、子どもの発育発達段階とあわせて考えていく。
到達目標	1. 人間の生理的な活動を理解し、運動による基本的な変化が説明できる 2. 生理学的な知見からの子どもへの運動指導方法を考えることができるようになる
授業内容・方法	<p>第1週 スポーツ研究における子どもの生理学的年齢（生理学的成熟と身体運動）【講義】</p> <p>第2週 子どもの身体（子どもの筋の発達、子どもの身体の成長、子どもの運動発達）【講義】</p> <p>第3週 運動生理における基本的な統計（正規分布、t-検定、分散分析、相関と回帰）【演習】</p> <p>第4週 子どもの体力（体力、新体力テストと幼児体力テスト、子どもの体力の現状）【演習】</p> <p>第5週 子どもの身体活動量と運動強度（運動強度とは、幼児の身体活動量）【発表・講義】</p> <p>第6週 骨格筋の構造と働き（骨格筋の収縮・収縮のためのエネルギー、筋線維タイプ）【講義】</p> <p>第7週 運動と骨格筋（運動と筋力・筋肥大、運動と筋線維タイプ、筋のトレーニング）【講義】</p> <p>第8週 神経系による運動発現のしくみ（情報伝達、反射のしくみ、中枢神経系）【講義】</p> <p>第9週 運動による神経の適応（不随意運動と随意運動、筋での神経活動の記録方法）【講義】</p> <p>第10週 運動と呼吸（呼吸器の構造、運動時の酸素利用、運動にともなう呼吸の変化）【講義】</p> <p>第11週 運動と循環（心臓血管系の構造、心拍数・1回拍出量・血圧、循環機能の調節）【講義】</p> <p>第12週 子どもの呼吸循環機能（子どもの有酸素能力の発達やトレーニング能力）【発表】</p> <p>第13週 体温と運動（体温調節機構、環境温と体温、運動時の体温調節、子どもの体温）【講義】</p> <p>第14週 子どもと運動生理に関連する論文を選び、内容について発表【発表】</p> <p>第15週 運動と発育発達（身体の発達と運動、体力低下、スポーツ障害）【ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	基本的な身体の生理的な反応について各回の内容を参考に学習していくこと。
成績評価	課題提出 40%、発表 40%、受講状況 20%
教科書	配付資料を使用
備考	

科目名	小児看護学
単位数	2単位
担当教員	高橋紀和子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	子どもの病気やけがに対する観察ポイントや、適切な看護の方法について学ぶ。事故予防や応急処置、救命処置の方法について学ぶ。
到達目標	1. 子どもの状態を観察し、判断するポイントを理解し説明できる。 2. 病気やけがに対する応急処置の方法について理解し説明できる。 3. 事故予防のポイントを説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 日常の病気とその症状（発熱、ひきつけ、けいれん等）【講義】</p> <p>第2週 日常の病気とその症状（腹痛、嘔吐、下痢、便秘等）【講義】</p> <p>第3週 日常の病気とその症状（発疹、呼吸苦、ぐったりする等）【講義・小テスト】</p> <p>第4週 知っておきたい病気と基礎知識（感染症等）【講義】</p> <p>第5週 知っておきたい病気と基礎知識（アレルギー、アナフィラキシーショック等）【講義】</p> <p>第6週 知っておきたい病気と基礎知識（歯、耳、鼻、眼の病気等）【講義】</p> <p>第7週 知っておきたい病気と基礎知識（食中毒等）【講義】</p> <p>第8週 知っておきたい病気と基礎知識（泌尿器系の病気、関節の病気等）【講義・小テスト】</p> <p>第9週 夏の生活と健康管理（夏の感染症、熱中症、日焼け等）【講義】</p> <p>第10週 冬の生活と健康管理（インフルエンザ、ノロウイルス感染症など）【講義】</p> <p>第11週 毎日の健康管理、薬の扱い方【講義】</p> <p>第12週 規則正しい生活習慣、ヘルスプロモーション【講義】</p> <p>第13週 事故予防のポイントや具体的方法【講義・グループワーク】</p> <p>第14週 けがの応急処置（擦り傷、火傷等）【講義】</p> <p>第15週 救命処置と通報（異物の除去、胸骨圧迫、AEDの使用法等）【講義・小テスト】</p> <p>定期試験等 なし</p>
準備・発展学習	教科書の関連箇所を読み、不明点を明確にしておく。各回の復習課題を次回授業時に提出。
成績評価	授業内試験60%、課題提出20%、受講状況20%
教科書	『子どもの病気の地図帳（地図帳、ナース）』、鴨下重彦・柳澤正義監修、講談社
備考	初等教育学科での小児保健、小児保健実習を復習しておくこと。必要に応じて資料を配布する。

科目名	子ども食育論
単位数	2単位
担当教員	下原佐土子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	食生活の多様化に伴う現代の子どもの食事情についての現状や課題を理解し、食育の意義と必要性について理解を深める。また、保育現場で行われている食教育の事例を取り上げながら、保育者として、保育との関連の中で食教育を実践するための準備と検討を行い、0歳から6歳までの継続的かつ円滑な食育の実践について学ぶ。
到達目標	1. 子供の食育に必要な知識・背景を理解する。 2. 食教育の必要性が説明できる。 3. 食教育の計画を立案し、子供の生活全体との関連について説明できる。
授業内容・方法	<p>「食育とは何か」をテーマに話し合い・ガイダンス（授業全体の流れを説明）【ディスカッション・講義】</p> <p>第1週 「食育とは何か」をテーマに話し合い・ガイダンス（授業全体の流れを説明）【ディスカッション・講義】</p> <p>第2週 食教育とは何か（「食育基本法」が提起していること）【講義】</p> <p>第3週 国民の健康状況と食生活の実態【講義】</p> <p>第4週 子どもを取り巻く現代の食環境【講義】</p> <p>第5週 子どもの食習慣と健康・病気【講義】</p> <p>第6週 子どもの食と栄養 【講義・演習】</p> <p>第7週 食文化の伝承（行事食・郷土食）【講義・演習】</p> <p>第8週 食の安全と食資源の問題【講義】</p> <p>第9週 体験的食育のすすめ【講義】</p> <p>第10週 食育に関する諸施策について【講義】</p> <p>第11週 食教育の実践方法①（食教育の計画）【講義】</p> <p>第12週 食教育の実践方法②（食教育の計画）【講義・演習】</p> <p>第13週 食教育の実践方法③（食教育の指導媒体作成）【演習】</p> <p>第14週 食教育の実践方法④（食教育の実践演習）【発表】</p> <p>第15週 まとめ（これまでの授業内容をもとに「食育とは何か」に対する考えをまとめる）【演習・ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	教科書等の指定箇所を読み把握しておくこと。講義後、授業内容のテーマについて、自分なりの考えをまとめておくことよい。
成績評価	受講状況50%、発表30%、演習課題20%
教科書	『保育園・幼稚園ですすめる食育の理論と実践』 芽ばえ社
備考	

科目名	乳児保育特論
単位数	2単位
担当教員	寶川雅子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	乳児を理解しようとする場合、乳児を取り巻く様々な環境について考える必要がある。それらの環境を解説した上で、乳児の育ちに伴う特徴について触れ、乳児保育を丁寧に行うためのポイントを明らかにしていく。更に、乳児とその養育者に対する支援についても複数の事例を紹介し、検討・考察する。
到達目標	新生児期からの乳児の発育・発達と主な特徴が総合的に把握できるようになる。乳児の育ち、個性に応じた配慮のポイントを習得する。子育て支援の実際を把握し具体的な支援の方法について習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 乳児保育の再確認（乳児保育をどこまで把握しているか？）【演習】</p> <p>第2週 乳児（新生児）の特徴【演習】</p> <p>第3週 乳児（新生児）が持ち備えている能力【演習】</p> <p>第4週 6か月未満児にみられる特徴と捉え方【演習】</p> <p>第5週 6か月未満児の保育内容と保育の実際【実習】</p> <p>第6週 6か月から1歳3か月未満児に見られる特徴と捉え方【演習】</p> <p>第7週 6か月から1歳3か月未満児の保育内容と保育の実際【実習】</p> <p>第8週 1歳3か月から2歳未満児に見られる特徴と捉え方【演習】</p> <p>第9週 1歳3か月から2歳未満児の保育内容と保育の実際【演習】</p> <p>第10週 2歳児に見られる特徴と捉え方【演習】</p> <p>第11週 2歳児の保育内容と保育の実際【演習】</p> <p>第12週 乳児保育と子育て支援（養育者の不安を探る）【演習】</p> <p>第13週 乳児保育と子育て支援（養育者の訴えの聴き方）【演習】</p> <p>第14週 世界の保育、世界の育児【演習、DVD視聴】</p> <p>第15週 乳児保育の未来について考える（まとめにかえて）【討論】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	保育所保育指針、児童福祉法に目を通しておくこと。授業内に紹介した書籍などに目を通すこと。
成績評価	課題提出（40%）、発表（30%）、受講状況（30%）
教科書	なし
備考	適宜資料を配布

科目名	ムーブメント療法実践学
単位数	2単位
担当教員	飯村敦子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	◎ムーブメント指導者
授業概要	ムーブメント療法は、遊びの要素を持った身体活動で運動機能の拡大をはかり、心理的諸機能の発達をも目指すものである。この科目では、乳幼児の保育、教育、子育て支援等に活用できるムーブメント療法を学ぶと共に、障害のある子どもとその家族への支援教室に参加することを通して、その実践に必要なスキルを身につける。
到達目標	1. 子どもの全面的発達とムーブメント活動の重要性について習得する。 2. ムーブメント療法における遊具・教具、音楽の活用ができるようになる。 3. 子どもの発達教育という視点からムーブメント療法を実践することができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ムーブメント教育・療法の基本的考え方【講義】</p> <p>第2週 身体運動と脳の活性化【講義】</p> <p>第3週 ムーブメント教育・療法の必要性【講義・DVD教材】</p> <p>第4週 ムーブメント教育・療法の原理【講義】</p> <p>第5週 感覚運動の発達とムーブメント療法【講義・実技】</p> <p>第6週 0～1歳児のムーブメント【グループワーク】</p> <p>第7週 知覚運動の発達とムーブメント療法【講義・実技】</p> <p>第8週 2～4歳児のムーブメント【グループワーク】</p> <p>第9週 精神運動の発達とムーブメント療法【講義・実技】</p> <p>第10週 5～6歳児のムーブメント【グループワーク】</p> <p>第11週 ムーブメント教育・療法のアセスメント【講義】</p> <p>第12週 アセスメントの実施と結果の整理【演習】</p> <p>第13週 アセスメントにもとづく支援プログラム【演習】</p> <p>第14週 アセスメントにもとづく支援プログラムの作成【グループワーク】</p> <p>第15週 プログラムの実施【ロールプレイ】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を読み、把握しておく。 実技・演習、グループワークのまとめは小レポートとして提出する。
成績評価	課題提出 40%、実技・グループワーク・発表 40%、受講状況 20%
教科書	ムーブメント教育の実践《1》対象別指導事例集、小林芳文・「たけのこ教室」スタッフ著(学習研究社)
備考	実技・グループワークには、動きやすい服装で出席すること。

科目名	保育英語
単位数	2単位
担当教員	松本美奈子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	近年、幼児教育や保育の場で緊急の課題となっている外国籍の子どもたちとその保護者との意思の疎通について、英語による対応を学習し同時に実力養成のための訓練を行う。特に、基礎的な英語表現力、保育に関する専門用語、異文化間のコミュニケーションに関する基礎知識につき、演習や役割練習を通して実践的に学ぶ。
到達目標	1 保育についての専門用語を中心に語彙・表現力を充実させる。 2 英文の構造を理解し正確な英語を話す。 3 非言語表現を組み合わせ子どもによく分かる英語を話す。
授業内容・方法	<p>第1週 保育英語とは何か・・・日本における保育をめぐる環境の変化/米国との比較 【講義】</p> <p>第2週 外国籍の子ども保育を行うための基礎知識・保育者に何が求められているか 【講義】</p> <p>第3週 子どもに対する基本的指示表現/説明のしかた/質問とその応答 【演習】</p> <p>第4週 食事とおやつ・・・挨拶からマナーまで/表現と指導方法 【講義と演習】</p> <p>第5週 遊び（遊具の使用とその指導）/排泄に関する指導 【講義と演習】</p> <p>第6週 遊び（室内での遊戯、手作業等とその指導）/休憩と昼寝（その留意点） 【講義と演習】</p> <p>第7週 怪我と病気に備える①応急措置と子どものケア/緊急事態への対応 【講義と演習】</p> <p>第8週 怪我と病気に備える②保護者への連絡と説明・対応 【講義と演習】</p> <p>第9週 怪我や病気後の登園（子どもと保護者に対するケアと説明） 【講義と演習】</p> <p>第10週 保護者に対する入園時の説明と案内・個別面談 【講義と演習】</p> <p>第11週 保護者の不安に応える①病気・怪我・事故・トラブル・予防接種 【講義と演習】</p> <p>第12週 保護者の不安に応える②外国での育児と生活に関する不安や悩み 【講義と演習】</p> <p>第13週 保護者の不安に応える③子どもの成長と発達に関する不安や悩み 【講義と演習】</p> <p>第14週 異文化間における相互理解①異文化をどう理解していくか 【講義と演習】</p> <p>第15週 異文化間における相互理解②正確な意思疎通に必要なもの 【講義と演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	授業後配布する理解度確認シート（復習課題）に記入し自己の到達度を確認すること。
成績評価	授業内試験（小テスト）50% 実技（授業内役割演習）30% 受講状況 20%
教科書	Scaffolding, 福井慶一郎・マーガレット山中 成美堂
備考	上記教科書と併せてプリントによる保育英語教材を使用する。授業内試験は復習課題から出題する。

科目名	子どもの野外活動論
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	子どもたちは野外に出て自然に触れることによって様々なことに気づき、多くのことを学ぶ。本授業科目では子どもの野外活動に関する現状を理解し、子どものすこやかな成長を助ける野外活動の理論を学ぶことで、野外を上手に活用できる指導者の育成を目指す。本授業科目は講義と発表を含んだ演習によって展開されていく。
到達目標	1. 子どもの野外活動や自然体験活動の重要性を理解し、指導者としての資質を身につける。 2. 子どもを対象とした野外活動の指導を実践できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 野外活動の基礎理論（講義）</p> <p>第2週 野外活動の意義について（講義）</p> <p>第3週 野外教育についての理解（講義）</p> <p>第4週 野外教育と環境教育（講義）</p> <p>第5週 野外教育と冒険教育（講義）</p> <p>第6週 教育的組織キャンプ（講義）</p> <p>第7週 野外における指導者としての基礎技術（講義）</p> <p>第8週 野外活動の指導者（講義）</p> <p>第9週 野外活動と安全（講義）</p> <p>第10週 ハードスキルとソフトスキルの理解（演習）</p> <p>第11週 野外における様々な活動（講義）</p> <p>第12週 子どもの野外活動の計画（演習）</p> <p>第13週 子どもの野外活動の運営（演習）</p> <p>第14週 子どもの野外活動の評価（演習）</p> <p>第15週 授業内試験及び試験の内容解説（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各回、事前に配布資料等の該当箇所を読み把握すること。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	特になし（必要に応じて資料を配布する）。
備考	

科目名	アドベンチャー・プレイ
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester集中講義
免許・資格課程との対応	
授業概要	子どもにとってのアドベンチャーの精神を理解し、子どもの発達に即した冒険的活動の必要性を考えることを目的とする。様々な施設や用具を活用することによって、子どもの冒険心を追及していく。本授業科目は学外での講義と実技活動によって展開される。
到達目標	1. 子どもの発達に合った冒険遊びを理解し、指導現場で実践できるようになる。 2. 子どもの冒険遊びに対する安全で正確な指導力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 アドベンチャー・プレイの概要と説明（講義）</p> <p>第2週 アドベンチャー・プレイの基礎理論（講義）</p> <p>第3週 子どもと冒険遊び（実技）</p> <p>第4週 冒険プログラムと安全管理の理解（講義）</p> <p>第5週 冒険プログラムと安全管理の実際（実技）</p> <p>第6週 アドベンチャー・プレイ・グラウンドについて（講義）</p> <p>第7週 冒険教育の概念と意義（講義）</p> <p>第8週 冒険教育の対象理解（講義）</p> <p>第9週 冒険教育の施設について（実技）</p> <p>第10週 冒険教育の用具について（実技）</p> <p>第11週 イニシアティブ・ゲームの実践と指導（実技）</p> <p>第12週 冒険教育プログラムの活用事例（実技）</p> <p>第13週 冒険教育プログラムの計画（演習）</p> <p>第14週 冒険教育プログラムの実践（演習）</p> <p>第15週 冒険教育プログラムの評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	履修にあたっては、事前に学内でガイダンスを行うのでそれに出席すること。野外での活動を伴うため、事前に基礎体力の強化に努めることが望ましい。
成績評価	実技50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	特になし（必要に応じて資料を配布する）
備考	学外の施設を利用するため、別途参加費を要する。 ※昨年度参考：施設利用費（2日間）1,000円

科目名	キャンプ
単位数	2単位
担当教員	西島大祐・早石周平
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester集中講義
免許・資格課程との対応	◎キャンプインストラクター
授業概要	大自然でのキャンプ活動は子どもの心身の発達に大きな影響を与える。野外を上手に活用することによって自然と共存できる人間の育成を目指し、指導者としてキャンプを実践できる能力を養っていく。本授業科目は学内外の講義及び学外での宿泊を伴う実技活動によって展開される。
到達目標	1. 野外キャンプの意義を理解し、指導現場で活動プログラムを計画・実践できるようになる。 2. 子どもを対象とした教育的キャンプの実践的な指導法を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 キャンプの特性（講義）</p> <p>第2週 キャンプの意義と目的（講義）</p> <p>第3週 キャンプの組織と種類（講義）</p> <p>第4週 キャンプのルールとマナー（講義）</p> <p>第5週 キャンプの対象（講義）</p> <p>第6週 人間と自然の理解（講義）</p> <p>第7週 キャンプの指導（実技）</p> <p>第8週 キャンプにおけるカウンセリング（実技）</p> <p>第9週 キャンプの安全（実技）</p> <p>第10週 キャンプの生活技術（実技）</p> <p>第11週 野外炊事の実践と評価（実技）</p> <p>第12週 身体的野外活動プログラム（登山またはハイキング）の実践と評価（実技）</p> <p>第13週 環境教育プログラムの実践と評価（実技）</p> <p>第14週 冒険教育プログラムの実践と評価（実技）</p> <p>第15週 ナイトプログラム（キャンプファイヤーなど）の実践と評価（実技）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	履修にあたっては、事前に学内でガイダンスを行うのでそれに出席すること。野外での活動を伴うため、事前に基礎体力の強化に努めることが望ましい。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『キャンプ指導者入門』（社）日本キャンプ協会、2006
備考	学外の施設を利用するため、別途参加費を要する。※昨年度参考：参加費10,000円（3泊4日）

科目名	子どもの水泳指導 I
単位数	2単位
担当教員	榎本至
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester集中講義
免許・資格課程との対応	
授業概要	水泳環境にあまり慣れていないであろう初心者～初級段階の子どもの想定対象とした、水泳・水中運動の指導者として必要な実践能力と指導能力の養成を目的として、岩瀬キャンパス屋内プールにて実施する。主として実技実習型にて授業を展開するが、適宜講義形式の授業を行うことがある。水泳の初心者、及び水泳指導の初心者でも受講可能。
到達目標	1. 近代4泳法について、子どもにわかりやすい泳技術を習得できるようになる。 2. 子どもの発達段階と泳能力段階に応じて指導方法と練習方法を工夫し、実践できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 水泳指導の歴史を概観する【講義】</p> <p>第2週 子どもを取り巻く環境と水遊びの必要性【講義】</p> <p>第3週 初心者に必要な水遊びと水慣れの運動課題【実技】</p> <p>第4週 水の特性とヒトの水泳運動の関係【講義】</p> <p>第5週 初心者のための水慣れから浮力の獲得までの運動課題【実技】</p> <p>第6週 初心者のためのけ伸びから初歩的なクロールまでの運動課題【実技】</p> <p>第7週 初心者のための初歩的なクロールの安定化に関する運動課題【実技】</p> <p>第8週 初級者のための初歩的なバックストロークの導入に関する運動課題【実技】</p> <p>第9週 初級者のための初歩的なバックストロークの安定化に関する運動課題【実技】</p> <p>第10週 初級者のための初歩的なプレストロークの導入に関する運動課題【実技】</p> <p>第11週 初級者のための初歩的なプレストロークの安定化に関する運動課題【実技】</p> <p>第12週 初級者のためのクロールの技術を向上させる指導法【実技】</p> <p>第13週 初級者のためのバックストロークの技術を向上させる指導法【実技】</p> <p>第14週 初級者のためのプレストロークの技術を向上させる指導法【実技】</p> <p>第15週 初心者から初級者までの指導に必要なチェックポイントの確認【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	配布資料及び授業で紹介した参考文献等を用い、学習した実技内容について理論的に復習し、技術構造についての実践的な理解を深める。
成績評価	受講状況60%、技能20%、レポート20%
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて授業中に適宜資料を配布する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業より水着、キャップ、ゴーグル、タオル等を用意すること。 ・安全管理上、受講生数に制限を設けることがある。

科目名	音楽表現
単位数	2単位
担当教員	東ゆかり
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	歌唱、器楽、創作、鑑賞を通して音楽的感性と技能を高め、豊かな表現力と指導力を身につける。とりわけ歌唱においては子どもの歌の歴史的背景についての文献研究をおこない、器楽においてはアンサンブルに重点を置いた演習をおこなう。
到達目標	1. 音楽の構造を理解することができるようになる。2. 表現の方法を工夫することができるようになる。3. より音楽的な表現活動を立案し、実践・指導できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 さまざまな音楽表現形態について【講義】</p> <p>第2週 日本のわらべ歌と世界のあそび歌についての文献研究【講義・演習】</p> <p>第3週 日本のわらべ歌と世界のあそび歌についての実技演習【演習】</p> <p>第4週 日本のわらべ歌と世界のあそび歌についての研究報告とディスカッション【演習】</p> <p>第5週 コード理論【講義・演習】</p> <p>第6週 弾き歌いとコード伴奏【演習】</p> <p>第7週 ピアノ連弾の読譜【演習】</p> <p>第8週 ピアノ連弾の演奏法の習得【演習】</p> <p>第9週 ピアノ連弾の発表とディスカッション【演習】</p> <p>第10週 音づくりの技法【演習】</p> <p>第11週 音づくりの表現の工夫【演習】</p> <p>第12週 パネルシアターの技法【演習】</p> <p>第13週 パネルシアターの表現の工夫【演習】</p> <p>第14週 ミュージックパネルの作成【演習】</p> <p>第15週 ミュージックパネルの発表とディスカッション【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	各回の授業のための読譜、技術定着のための練習をおこなうこと。
成績評価	受講状況40%、実技発表30%、課題提出30%
教科書	教科書なし
備考	

科目名	造形表現
単位数	2単位
担当教員	山成美穂
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	幼児教育、初等教育における子どもの発達段階に応じた造形活動の意義を学習し、その指導に必要な知識と技能、指導方法についての理解を深める。また実践演習を通して、様々な素材の特徴と良さを理解し、養育者自ら創作の喜びを学び、教材として発展させられる応用力を身につける。
到達目標	1 様々な素材に対応し、子どもにとって魅力の感じられる教材開発能力を高めることができる 2 様々な道具の扱い方や保管方法に必要な知識を身につける 3 教材準備や発達段階に応じた指導方法を身につける
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの造形活動の多様性と大切な役割について</p> <p>第2週 演習内容のガイダンス</p> <p>第3週 材料の特性とその用法</p> <p>第4週 道具の用法と安全に配慮した指導</p> <p>第5週 演習1：色の力としくみ</p> <p>第6週 演習2：身近な材料による造形—模様紙作り①</p> <p>第7週 演習3：身近な材料による造形—模様紙作り②</p> <p>第8週 演習4：日常生活に即した制作①—カレンダー作り</p> <p>第9週 演習5：日常生活に即した制作②—フォトスタンド作り</p> <p>第10週 演習6：立体表現①</p> <p>第11週 演習7：立体表現②</p> <p>第12週 演習8：立体表現③</p> <p>第13週 教材・素材研究</p> <p>第14週 教材・素材研究</p> <p>第15週 演習課題の講評と鑑賞</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	各演習課題に必要な材料について前回授業までに説明を行なうので各自で必ず用意する
成績評価	受講状況50%、課題提出50%
教科書	教科書は指定せず、授業中に演習課題におけるプリント等を配布
備考	演習授業には、作業しやすく、また、汚れても可能な服装で取り組むこと

科目名	幼児体育
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	幼稚園や保育所などの教育現場において、子どもの体育的活動は欠かせないものである。幼児期における子どもの運動遊びの重要性を学び、子どもの発育発達に合わせた運動がどういうものかを考えていく。実技と発表を含んだ演習によって授業が展開される。
到達目標	1. 実技や演習を通して、指導者としての高い資質を身につける。 2. 幼児期の子どもに対する具体的な運動指導の方法や補助の方法を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、遊具を用いない遊びの指導（年少、年中向け）（実技）</p> <p>第2週 遊具を用いない遊びの指導（年長向け）（実技）</p> <p>第3週 幼児を対象としたリズム運動の実践（実技）</p> <p>第4週 幼児を対象としたリズム運動の創作（実技）</p> <p>第5週 マット運動の指導について（実技）</p> <p>第6週 跳び箱の指導について（実技）</p> <p>第7週 鉄棒、平均台の指導について（実技）</p> <p>第8週 遊具を用いた遊び（縄）の指導について（実技）</p> <p>第9週 遊具を用いた遊び（フープ）の指導について（実技）</p> <p>第10週 幼児を対象としたボール遊びの基礎（実技）</p> <p>第11週 幼児を対象としたボール遊びの応用（実技）</p> <p>第12週 子どもの野外での体育活動について（実技）</p> <p>第13週 子どもの冒険的活動について（実技）</p> <p>第14週 幼児を対象とした運動遊びの指導（演習）</p> <p>第15週 幼児を対象とした運動遊びの評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に幼児の体育活動について、各自がこれまで学んだことを復習しておくこと。
成績評価	実技50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『幼児体育』青野光子、松本典子編著、建帛社、2011
備考	持ち物等については第1回の授業時に説明をする。

科目名	スポーツ I (体操)
単位数	2単位
担当教員	相藤康生
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	幼児期の運動遊びや小学校の体育学習に例示されている運動(スポーツ)の内容を幅広く理解し、児童の発育発達に応じた指導法を習得する。模範となるための巧みな動きを身に付け、活動の安全を確保した運動遊びや運動技能を高めるための指導能力を養う。
到達目標	1. 様々な運動に親しむとともに安全な運動遊びを行わせるための指導方法を理解する。 2. 模範となる動きを示すための運動技能を身につけることができる。3. 体育科の指導案を作ることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 授業内容の説明、用具の取扱い、受講カードの記入方法、鬼遊び</p> <p>第2週 鬼遊び、縄跳び遊び、ものまね動き遊び、体ほぐしの運動</p> <p>第3週 体ほぐしの運動、乗り物ごっこ遊び、伝承遊び</p> <p>第4週 体づくり運動：体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、</p> <p>第5週 体づくり運動：多様な動きをつくる運動</p> <p>第6週 体づくり運動：体力を高める運動</p> <p>第7週 走の運動(遊び)と陸上運動：かけっこ、短距離走、リレー、ハードル走</p> <p>第8週 跳の運動(遊び)と陸上運動：(走り)幅跳び、(走り)高跳び</p> <p>第9週 マット運動(基本的な技と発展技)：回転技、倒立技、</p> <p>第10週 鉄棒運動(基本的な技と発展技)：上がり技、支持回転技、下り技</p> <p>第11週 跳び箱運動(基本的な技と発展技)：切り返し系技、回転系技</p> <p>第12週 表現運動：即興的な動き、フォークダンス、リズムダンス、民謡の踊り</p> <p>第13週 ベースボール型のゲーム：基本技能(投げる、捕る、打つ、走塁する)</p> <p>第14週 ネット型のゲーム：バレーボール(サーブ、レシーブ、トス、アタック)</p> <p>第15週 ゴール型のゲーム：アルティメット(走る、避ける、投げる、捕る、奪う)</p> <p>定期試験等 なし</p>
準備・発展学習	日常的な運動習慣を身につけるとともに、小学校体育科学習指導要領等を読み、児童の発育発達段階に応じた運動(遊び)の適切な選択の仕方を理解する。
成績評価	受講状況(含 受講カード) 40%、課題提出(指導案を含む) 30%、実技 30%
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編
備考	実技授業となるため、スポーツウエア(靴)に着替え、タオルを用意する。

科目名	子育てカウンセリング演習
単位数	2単位
担当教員	原孝成
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	多くの母親が育児不安や困難を抱えている現代社会では、幼稚園・保育所等において「子育て支援」を行うことが社会的役割として課せられている。そこで働く保育者は、子ども及びその家族に対する相談支援活動を行っていく必要がある。本講義では、基礎的なカウンセリングの技法、子ども理解の方法とそれに基づく相談支援あり方について解説する。
到達目標	1. 保育における相談支援の必要性について説明できる。 2. カウンセリングの基礎的技能を実践できる。 3. 保育におけるアセスメントの意義と方法、それに基づく支援のあり方について説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション：現代社会における相談支援の意義【講義】</p> <p>第2週 子育てカウンセリングの方法と対象【講義】</p> <p>第3週 援助的な態度，カウンセリングマインド【演習】</p> <p>第4週 カウンセリング技法1：非言語的な技法【演習】</p> <p>第5週 カウンセリング技法2：言語的技法【演習】</p> <p>第6週 カウンセリング技法3：言語的技法－質問の技法【演習】</p> <p>第7週 カウンセリング技法4：カウンセリングプロセス【演習】</p> <p>第8週 保育におけるアセスメントの目的【講義】</p> <p>第9週 保育におけるアセスメントの対象と方法1：行動観察，面接【講義】</p> <p>第10週 保育におけるアセスメントの対象と方法2：検査【講義】</p> <p>第11週 保育におけるアセスメントの対象と方法3：プレイ【講義】</p> <p>第12週 保育カウンセリングの実際1【演習】</p> <p>第13週 保育カウンセリングの実際2【演習】</p> <p>第14週 教育的・開発的カウンセリング：構成的グループ・エンカウンター【演習】</p> <p>第15週 まとめ：現代社会の課題とカウンセリング【課題作成】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	新聞・テレビなどを通して、保護者の育児不安や育児困難の実態を理解するように努めてください。
成績評価	課題提出40%，授業内試験30%，受講状況30%
教科書	『保育カウンセリングへの招待』，富田久枝・杉原一昭（編著），北大路書房
備考	

科目名	幼児体育論
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	幼児期における体育の重要性を論理的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在の社会的関心を踏まえ、教育・心理・社会・発育発達などの様々な視点から、幼児体育の意義や幼児の運動指導のあり方を学んでいく。本授業科目は講義と発表を含んだ演習によって展開されていく。
到達目標	1. 幼児期の運動特性と体育の必要性を論理的に捉えることができる。 2. 幼児の運動指導の方法に対する理解を深め、指導者としての高い資質を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 幼児体育の基礎理論（講義）</p> <p>第2週 幼児体育の意義と目標（講義）</p> <p>第3週 遊びとは（講義）</p> <p>第4週 幼児と運動遊び（講義）</p> <p>第5週 幼児の運動と体の発達（講義）</p> <p>第6週 幼児の運動と頭の発達（講義）</p> <p>第7週 幼児の運動と心の発達（講義）</p> <p>第8週 幼児の運動遊びと環境（講義）</p> <p>第9週 幼児の運動特性（講義）</p> <p>第10週 施設や用具について（講義）</p> <p>第11週 幼児と指導者のかかわり（講義）</p> <p>第12週 幼児の運動指導の実際①（計画）（演習）</p> <p>第13週 幼児の運動指導の実際②（実践）（演習）</p> <p>第14週 幼児の運動指導の実際②（評価）（演習）</p> <p>第15週 授業内試験及び試験の内容解説（演習・講義）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各回、事前に教科書等の該当箇所を読み把握すること。 事前に幼児の体育活動について、各自がこれまで学んだことを復習しておくこと。
成績評価	授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『幼児体育』青野光子、松本典子編著、建帛社、2011
備考	

科目名	小児看護演習
単位数	2単位
担当教員	高橋紀和子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	小児看護学で得た知識を活用し、「子どもの最善の利益」を考え、小児看護に必要な技術や子どもと家族へのアプローチの仕方を学習する。
到達目標	1. 「子どもの最善の利益」について考え、より良く成長・発達し生活するための支援について理解できる。 2. 健康状態・状況に応じた看護技術を習得できる。 3. 子どもの病気やけがに対する応急処置の技術を習得できる。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの生活と病気【講義・ディスカッション】</p> <p>第2週 子どもの看護をしている看護者のニーズ【講義・ディスカッション】</p> <p>第3週 病気をもつ子どもたちからのメッセージとその援助【講義・ディスカッション】</p> <p>第4週 病気をもつ子どもたちからのメッセージとその援助【事例検討・ロールプレイ】</p> <p>第5週 病気をもつ子どもの家族からのメッセージとその援助【講義・ディスカッション】</p> <p>第6週 症状別の基本的なケア（発熱、嘔吐、下痢、咳等）【演習】</p> <p>第7週 症状別の基本的なケア（けいれん、頭痛、腹痛等）【演習】</p> <p>第8週 子どもや家族への指導【指導内容と目的・方法の設定等】</p> <p>第9週 子どもや家族への指導【指導案作成等】</p> <p>第10週 子どもや家族への指導【指導教材作成等】</p> <p>第11週 子どもや家族への指導【発表・ディスカッション】</p> <p>第12週 日常に起こりやすい事故の予防（事故の誘因や予防）【講義・演習】</p> <p>第13週 事故予防と手当て（頭部のけが、誤飲、溺水等）【講義・演習】</p> <p>第14週 救急救命法（包帯、止血固定、異物の除去法等）【講義・演習】</p> <p>第15週 救急救命法（心肺蘇生法、AEDの使用法等等）【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	各回の内容、課題について教科書を読み、小児看護学と合わせて復習すること。
成績評価	課題提出50%、発表20%、受講状況30%
教科書	『これからの小児看護子どもと家族の声が聞こえていますか』、筒井真優美 編集、講談社
備考	『小児看護学』の内容を前提に行う。実技が行いやすい服装で受講すること。必要に応じて資料を配布する。

科目名	地域子育て論
単位数	2単位
担当教員	春日美奈子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	社会環境の変化に伴い、家族形態の多様化が進み、家族機能や養育機能の低下が生じている。家庭だけでは子どもが育ちにくい時代となった今、家庭・学校・地域の連携が必要になる。特に子どもが生活する上で密接な関係がある地域の教育力が重要になる。地域で子どもの成長を支えることの意義と支援のあり方を理解し実践に役立たせる。
到達目標	1. 子どもや家庭の問題の現状を理解する。 2. 地域全体で子どもとその家庭を支えることの重要性とそのあり方を身につけ、対象と関わることができる。 3. 健全育成の基本を理解し、家庭・学校・地域の三位一体教育について説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 地域子育て論とは何か。【講義】</p> <p>第2週 子どもの生育環境の変化 【講義】</p> <p>第3週 家庭環境と家族機能の変化 【講義、事例検討】</p> <p>第4週 子どもと家庭生活をめぐる問題 【講義、討議】</p> <p>第5週 子ども家庭福祉の基本と実践 【講義】</p> <p>第6週 子どもの権利 【講義】</p> <p>第7週 子どもの成長と発達 【講義、事例検討】</p> <p>第8週 児童虐待・ネグレクト発生予防とその支援【講義、事例検討】</p> <p>第9週 ひとり親家庭・障害児とその家族への支援 【講義】</p> <p>第10週 地域における児童福祉（地域の教育力）【講義、討議】</p> <p>第11週 子育て支援・青少年育成への取り組み 【講義、事例検討】</p> <p>第12週 子どもの問題行動・犯罪の抑止と更生への支援 【講義、事例検討】</p> <p>第13週 地域の子どもの地域全体で育てる 【講義、討議】</p> <p>第14週 「心の居場所の大切さ」～大人・社会の責任～ 【講義】</p> <p>第15週 まとめ：子どもの社会力を育てるために 【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	新聞などをよく読み、子どもの問題や福祉現場、社会情勢などについて学ぶ姿勢を日々心がけ、気づきから学びへと繋げる努力をすること。
成績評価	受講状況50%、課題提出50%
教科書	適宜資料を配布する
備考	日常生活の中で、地域と子どもの関わりや家族の形態に興味を持ち、現状から何かを気づき学ぶ姿勢を忘れずにいて欲しい。現場の今・声を大切にすること。

科目名	障害児保育特論
単位数	2単位
担当教員	飯村敦子・竹内麗子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	◎ムーブメント指導者
授業概要	この科目は、障害のある子どもの発達特性に基づく保育を展開するために、知的障害児、肢体不自由児、自閉症児、注意欠陥多動性障害児、学習障害児等の保育の実際について実践的に学ぶ。
到達目標	1. 障害のある子ども（障害種別）の発達特性に基づく対応ができるようになる。 2. 障害児保育展開に向けた発達アセスメントの活用方法を習得する。 3. 障害児保育に活用できるムーブメント教育が展開できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 障害児保育－保育者に求められる力－【講義】</p> <p>第2週 障害のある子どもの理解①－知的障害－【発表形式による演習】</p> <p>第3週 障害のある子どもの理解②－肢体不自由－【発表形式による演習】</p> <p>第4週 障害のある子どもの理解③－自閉症－【発表形式による演習】</p> <p>第5週 障害のある子どもの理解④－高機能自閉症－【発表形式による演習】</p> <p>第6週 障害のある子どもの理解⑤－注意欠陥多動性障害－【発表形式による演習】</p> <p>第7週 障害のある子どもの理解⑥－学習障害－【発表形式による演習】</p> <p>第8週 発達の捉え方①－アセスメントについて－【講義】</p> <p>第9週 発達の捉え方②－アセスメントの実施と解釈－【演習】</p> <p>第10週 障害児保育実践のポイント－【講義】</p> <p>第11週 障害児保育の実践－保育所での取り組み－【DVD教材・講義】</p> <p>第12週 保育に生かすムーブメント教育（未満児）【実技】</p> <p>第13週 保育に生かすムーブメント教育（年長児）【実技】</p> <p>第14週 障害乳幼児の家族支援の実際【事例研究：ディスカッション】</p> <p>第15週 障害児保育における地域との連携【事例研究：ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	授業ごとに配付する資料を読み、内容を把握しておく。 発表や実技の内容をレポートにまとめ提出する。
成績評価	授業内レポート 30%、発表 20%、課題レポート 30%、受講状況 20%
教科書	資料を配付する。
備考	

科目名	異文化理解
単位数	2単位
担当教員	佐藤淑子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	異文化を理解するには、その文化の歴史的背景や社会構造のほかに、子育て、家族関係、教育の在り方に内包される行動基準や価値態度についての知識を得る必要がある。本授業では、日本の文化への理解を深めた上で、異文化理解のプロセスを辿り、実践へとつなげていきたい。
到達目標	①人のものの感じ方や考え方はなぜ文化によって異なるかを知る ②文化環境が子どもの発達に与える影響について具体的に把握する
授業内容・方法	<p>第1週 文化と子ども【講義】</p> <p>第2週 三つの文化の保育所1989年【DVD視聴】</p> <p>第3週 幼児期の自己の発達【講義】</p> <p>第4週 イギリスとアメリカと日本【講読と討論】</p> <p>第5週 幼児期のしつけと教育の日英比較【講読と討論】</p> <p>第6週 日本人の対人関係と子どもの自己の発達【講読と討論】</p> <p>第7週 これからの幼児教育の方向性【討論】</p> <p>第8週 三つの文化の保育所2009年：文化内比較と文化間比較【DVD視聴】</p> <p>第9週 異文化に触れる【演習】</p> <p>第10週 異文化間コミュニケーション【講義】</p> <p>第11週 多文化保育【講義】</p> <p>第12週 日本の子育てとワーク・ライフ・バランス【講義と討論】</p> <p>第13週 オランダモデルと子育て【講義と討論】</p> <p>第14週 異文化理解とは何か【討論】</p> <p>第15週 まとめ：授業内試験と授業の振り返り</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	教科書を読み、内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする。日本の社会・文化に関する新聞記事をファイルする。
成績評価	受講状況(20%)、討論(20%)、レポート課題(60%)の成績を総合して評価する。
教科書	「イギリスのいい子 日本のいい子」佐藤淑子著、中公新書、2001年
備考	日常生活の見聞や経験を異文化理解につなげていくため、日本人の行動を観察し思いをめぐらせることが大切である。

科目名	子どもの危機・安全管理
単位数	2単位
担当教員	
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	安全・危機管理の基礎を学んだ上で、子どもと女性の身の回りの犯罪、災害、事故などの脅威と対策を、様々な事例や見学を通して学ぶ事により、児童教育の場、生活の場における安全・危機管理の基礎能力を高める。授業はインターネットを活用し、図、映像など視覚情報を中心に進め直感的理解を目指す。
到達目標	1. 必要な安全・危機情報を集められる 2. 身近な危険を見過ごさず感知し対応行動をとれる
授業内容・方法	<p>第1週 日常生活における危機・安全管理の考え方（講義、グループ討議）</p> <p>第2週 生活周辺の犯罪（被害の多い犯罪の傾向と対策）（講義、グループ討議、動画視聴）</p> <p>第3週 女性に被害をもたらす犯罪（ひったくり、性犯罪、ストーカー等）（講義、動画視聴）</p> <p>第4週 子どもをめぐる犯罪Ⅰ：子どもの犯罪被害（講義、グループ討議）</p> <p>第5週 子どもをめぐる犯罪Ⅱ：子どもの非行（講義、動画視聴）</p> <p>第6週 子どもをめぐる犯罪Ⅲ：ネット・携帯犯罪（講義、動画視聴）</p> <p>第7週 防犯、防災施設見学（見学、ビデオ視聴、実習）</p> <p>第8週 防犯、防災施設見学（見学、ビデオ視聴、実習）</p> <p>第9週 防犯、防災施設見学（見学、ビデオ視聴、実習）</p> <p>第10週 防犯、防災施設見学（見学、ビデオ視聴、実習）</p> <p>第11週 災害Ⅰ：地震・津波（講義、動画視聴）</p> <p>第12週 災害Ⅱ：火災、その他の災害（講義、動画視聴）</p> <p>第13週 子育て、家庭内の安全：いじめ、家庭内暴力（講義）</p> <p>第14週 事故Ⅰ：家庭内の事故（講義、動画視聴）</p> <p>第15週 事故Ⅱ：交通事故、その他の事故（講義、動画視聴）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	講義の理解度を測る課題を随時課す。
成績評価	課題提出50%、受講状況30%、その他の講義内の課題提出20%
教科書	教科書は指定せず、授業内容に関するプリントを配布
備考	第7回～第10回の見学は1日で実施します。見学の開催日は前後する可能性があります

科目名	親子レクリエーション
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	親子の触れ合いの中で、レクリエーション活動はコミュニケーションの手段として重要な要素であると考えられる。レクリエーションを通じた子育て支援の方法を考え、親子で楽しめるレクリエーションを学ぶことを目的とする。本授業科目は主に実技と演習を通して展開されていく。
到達目標	1. 親子で遊ぶことの重要性と現代における意義を理解し、親子でふれあう活動を支援できるようにする。 2. 親子でのレクリエーション活動を指導実践できる能力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、レクリエーション活動の目的（演習）</p> <p>第2週 親子レクリエーションの基礎（実技）</p> <p>第3週 親子レクリエーションの意義（実技）</p> <p>第4週 子どものレクリエーション（実技）</p> <p>第5週 親子レクリエーションの支援とその方法（実技）</p> <p>第6週 親子の手遊び（実技）</p> <p>第7週 親子での運動遊び①（小集団向け）（実技）</p> <p>第8週 親子での運動遊び②（大集団向け）（実技）</p> <p>第9週 野外でのレクリエーション（実技）</p> <p>第10週 親子で楽しむ野外スポーツ①（夏季）（実技）</p> <p>第11週 親子で楽しむ野外スポーツ②（冬季）（実技）</p> <p>第12週 親子レクリエーションの観察（演習）</p> <p>第13週 親子レクリエーションの計画（演習）</p> <p>第14週 親子レクリエーションの実践（演習）</p> <p>第15週 親子レクリエーションの評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	子育て支援やレクリエーションについて、各自がこれまで学んだことを復習しておくこと。 各回、事前に配布資料等の該当箇所を読み把握すること。
成績評価	実技50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	特になし（必要に応じて資料を配布する）
備考	持ち物等については第1回の授業時に説明をする。

科目名	幼児体育指導 I
単位数	2単位
担当教員	西島大祐
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	幼児期の子どもを対象にした体育指導の方法について、体操、リズム運動、ボール、身近な遊具などを中心に学んでいく。また、幼児教育の現場に対応できる実践的な指導技術と能力を養っていく。本授業科目は実技と発表を含んだ演習によって展開されていく。
到達目標	1. 幼児期の発育発達に応じた運動遊びの重要性を理解し、指導できるようになる。 2. 安全性と正確性の高い運動指導の方法を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 遊具を用いない遊びの指導とその応用（実技）</p> <p>第2週 リズム運動の実践指導（実技）</p> <p>第3週 リズム運動の創作指導（実技）</p> <p>第4週 表現運動の指導（実技）</p> <p>第5週 マット運動の指導とその応用（実技）</p> <p>第6週 跳び箱の指導とその応用（実技）</p> <p>第7週 鉄棒の指導とその応用（実技）</p> <p>第8週 平均台の指導とその応用（実技）</p> <p>第9週 身近な遊具を用いた遊びの指導（実技）</p> <p>第10週 幼児体育における安全指導（実技）</p> <p>第11週 ボールを用いた遊びの指導（年少・年中向け）（実技）</p> <p>第12週 ボールを用いた遊びの指導（年長向け）（実技）</p> <p>第13週 幼児体育指導の計画（演習）</p> <p>第14週 幼児体育指導の実践（演習）</p> <p>第15週 幼児体育指導の評価（演習）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	幼児の体育活動について、各自がこれまでに学んだことを復習しておくこと。
成績評価	実技50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	『幼児体育』青野光子、松本典子編著、建帛社、2011
備考	同時に『幼児体育論』の授業を受講していることが望ましい。

科目名	子どものスキー指導 I
単位数	2単位
担当教員	西島大祐・小川幸代
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester集中講義
免許・資格課程との対応	
授業概要	白銀の世界でスノースポーツを楽しむことは子どもにとってかけがえのない経験となる。実際に雪上へ出ることによって雪との上手な接し方を学び、スキー技術と子どもを対象にした指導法について学習していく。本授業科目は学外での実技活動と講義によって展開される。
到達目標	1. 各々のレベルに合ったスキー技術の向上を目指し、安全に斜面を降りる技術を身につける。 2. 子どもを対象にした安全かつ正確な指導能力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 子どものスキーの基礎理論（講義）</p> <p>第2週 子どものスキーと安全（講義）</p> <p>第3週 スキーの技術理論について（講義）</p> <p>第4週 用具に慣れる（実技）</p> <p>第5週 雪遊びの要領と実践（実技）</p> <p>第6週 環境を活かした雪上活動（実技）</p> <p>第7週 スキー技術の特性（実技）</p> <p>第8週 ターン運動の構成（実技）</p> <p>第9週 技術指導の基礎課程（実技）</p> <p>第10週 対象に応じた指導の方法と実践（実技）</p> <p>第11週 スキー場施設の活用と安全管理（実技）</p> <p>第12週 スキー指導のリスクマネジメント（実技）</p> <p>第13週 スキーの基礎技術の実践と指導（実技）</p> <p>第14週 スキーの応用技術の実践と指導（実技）</p> <p>第15週 スキーの発展技術の実践と指導（実技）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	履修にあたっては、事前に学内でガイダンスを行うのでそれに出席すること。雪上スポーツの実践にあたり、事前に基礎体力の強化に努めることが望ましい。
成績評価	実技50%、受講状況30%、課題提出20%
教科書	特になし（必要に応じて資料を配布する）
備考	学外の施設を利用するため、別途参加費を要する。※昨年度参考：参加費25,600円（2泊3日）

科目名	リトミック
単位数	2単位
担当教員	鈴木恵津子
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	リトミック教育の意義をふまえ、子どもと向き合ったときに、どのように活用していくかを考え、実践していく。手遊びや子どもの歌から発展し、身体の動きと一体となった音楽表現の指導法を体得する。同時に、子どもの動きに合わせたピアノ即興演奏も学ぶ。
到達目標	1. リトミック教育の基礎的な知識を理解し、自ら意見を述べる。 2. リトミック活動における基礎技術を習得し、工夫する。 3. 子どもへのリトミック指導法を習得し、実践する。
授業内容・方法	<p>第1週 リトミック教育の概要とねらい【講義】</p> <p>第2週 リトミックに関する用語の理解【講義】</p> <p>第3週 リトミック指導の基礎（即時反応）【演習】</p> <p>第4週 リトミック指導の基礎（フォローとカノン）【演習】</p> <p>第5週 呼吸とフレーズ（呼吸はすべての基礎。緊張と弛緩、脱力）【演習】</p> <p>第6週 呼吸とフレーズ（モノを使ってフレーズ表現・遊び）【演習】</p> <p>第7週 拍とリズム（からだのリズムから音楽のリズムを捉える）【演習】</p> <p>第8週 歩くとは（様々な歩きに気づき、動きに合わせて音楽をつくる）【演習】</p> <p>第9週 クラッピングとは（様々なクラッピングに気づき、曲想の変化を感じ取る）【演習】</p> <p>第10週 リズムパターン（ことばのリズムと音楽リズムについて考える）【演習】</p> <p>第11週 プラスティック アニメ（音楽を視覚的に表現する ～ボールを使って～）【演習】</p> <p>第12週 プラスティック アニメ（音楽を視覚的に表現する ～スカーフを使って～）【演習】</p> <p>第13週 リトミック模擬授業（物語から）【模擬授業・討議】</p> <p>第14週 リトミック模擬授業（イメージ遊びから）【模擬授業・討議】</p> <p>第15週 まとめ（リトミック教育の展望）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	教科書の指定箇所を練習してくる。復習課題をまとめておき、期限までに提出。
成績評価	受講状況50%、発表50%
教科書	『うたって おどって おもちゃ箱 Part 2』鈴木恵津子編著、教育芸術社
備考	動きやすい服装、シューズ（素足可）で。

科目名	SAE (イギリス)
単位数	1単位
担当教員	
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	
授業概要	夏季休業期間(8月)中に語学研修を受講し、また現地滞在中を通じて、異文化を体験する。英国サセックス大学語学研究所が、外国人のために考案した語学プログラムを基本に、本学学生のために特別に用意した英語研修である。原則として15日間の日程(発着日含む)とし、本学教職員および旅行会社添乗員が同行する。
到達目標	①語学力の向上。②異文化を体験し、国際感覚を身につける。③学内外の多様な人々と積極的に交流することで、生活マナーを併せて習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 出発日：成田空港 集合・出発</p> <p>第2週 1日目：英語研修(オリエンテーション) / キャンパスツアー</p> <p>第3週 2日目：英語研修 / ブライトン市内見学</p> <p>第4週 3日目：英語研修 / ライ村訪問</p> <p>第5週 4日目：英語研修 / ロッティングディーン訪問</p> <p>第6週 5日目：英語研修 / デビルズダイク訪問</p> <p>第7週 6日目：ミュージカル鑑賞</p> <p>第8週 7日目：ロンドン市内見学</p> <p>第9週 8日目：英語研修 / 中世の町ルイス訪問</p> <p>第10週 9日目：英語研修 / ボートクルーズ</p> <p>第11週 10日目：英語研修 / 保育園訪問</p> <p>第12週 11日目：英語研修 / セブンススターズ訪問</p> <p>第13週 12日目：英語研修 / 終業式</p> <p>第14週 現地発：ヒースロー空港 出発</p> <p>第15週 帰着日：成田空港 帰着・解散</p> <p>定期試験等 実施せず</p>
準備・発展学習	
成績評価	英語研修の結果に基づき単位認定を行う。研修終了後、サセックス大学の発行する「修了証」のコピーを提出すること。
教科書	必要に応じて関係資料を配布する。
備考	事前の説明会に出席すること。訪問地・日程は、実施年度により変更される場合がある。

科目名	インターンシップ（幼稚園）
単位数	4単位
担当教員	
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	
授業概要	教育・保育現場において就業体験をすることにより、実践力を高めることを目的としている。子どもや親と実際に触れ合うことによって専門的スキルを高め、社会のニーズに応えられる力を身につけていく。インターンシップ先は幼稚園、認定子ども園、幼稚園が実施する子育て支援活動等である。
到達目標	1. 幼稚園などの教育施設の目的や役割を理解し、社会の期待に応えられる実践力を身につける。 2. 実際の教育現場で学ぶことによって、保育者としての資質・能力を高めることができる。
授業内容・方法	<p>※実習の内容はそれぞれのインターンシップ先によって異なる。</p> <p>実習は大まかに以下のような流れで行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②インターンシップ先の選択 ③インターンシップ先と本学の協定を締結 ④実習日の決定 ⑤事前指導 ⑥各インターンシップ先で実習 ⑦事後指導 <p>実際のインターンシップ参加については、所定の手続きを経て参加すること。</p>
準備・発展学習	希望するインターンシップ先について、概要等を事前に調べておくこと。
成績評価	インターンシップ参加状況、成果報告などをもとに総合的に評価する。（認否）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
備考	実習はインターンシップ先と本学が取り決めた期日に行う。

科目名	インターンシップ（保育所）
単位数	4単位
担当教員	
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	
授業概要	教育・保育現場において就業体験をすることにより、実践力を高めることを目的としている。子どもや親と実際に触れ合うことによって専門的スキルを高め、社会のニーズに応えられる力を身につけていく。インターンシップ先は認可保育所、事業所内保育施設、自治体単独の保育事業、認定子ども園等である。
到達目標	1. 保育施設の目的や役割を理解し、社会の期待に応えられる実践力を身につける。 2. 実際の教育現場で学ぶことによって、保育者としての資質・能力を高めることができる。
授業内容・方法	<p>※実習の内容はそれぞれのインターンシップ先によって異なる。</p> <p>実習は大まかに以下のような流れで行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②インターンシップ先の選択 ③インターンシップ先と本学の協定を締結 ④実習日の決定 ⑤事前指導 ⑥各インターンシップ先で実習 ⑦事後指導 <p>実際のインターンシップ参加については、所定の手続きを経て参加すること。</p>
準備・発展学習	希望するインターンシップ先について、概要等を事前に調べておくこと。
成績評価	インターンシップ参加状況、成果報告などをもとに総合的に評価する。（認否）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
備考	実習はインターンシップ先と本学が取り決めた期日に行う。

科目名	インターンシップ（児童厚生施設）
単位数	4単位
担当教員	
開講学科	専攻科
開講学年	1年
開講学期	秋semester履修登録
免許・資格課程との対応	
授業概要	教育・保育現場において就業体験をすることにより、実践力を高めることを目的としている。子どもや親と実際に触れ合うことによって専門的スキルを高め、社会のニーズに応えられる力を身につけていく。インターンシップ先は児童館やこどもの国をはじめとした児童厚生施設等である。
到達目標	1. 児童厚生施設の目的や役割を理解し、社会の期待に応えられる実践力を身につける。 2. 実際の教育現場で学ぶことによって、保育者としての資質・能力を高めることができる。
授業内容・方法	<p>※実習の内容はそれぞれのインターンシップ先によって異なる。</p> <p>実習は大まかに以下のような流れで行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②インターンシップ先の選択 ③インターンシップ先と本学の協定を締結 ④実習日の決定 ⑤事前指導 ⑥各インターンシップ先で実習 ⑦事後指導 <p>実際のインターンシップ参加については、所定の手続きを経て参加すること。</p>
準備・発展学習	希望するインターンシップ先について、概要等を事前に調べておくこと。
成績評価	インターンシップ参加状況、成果報告などをもとに総合的に評価する。（認否）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
備考	実習はインターンシップ先と本学が取り決めた期日に行う。